SHINE第4期 実施前後の調査結果

SHINEプログラム第4期
ウガンダのHIV陽性者家庭を対象とした栄養改善と収入向上

特定非営利活動法人PLAS

2026.10

本資料について

SHINEプログラム第4期では、ウガンダのHIV陽性者家庭を対象に、在来種の野菜栽培を通じた収入向上と栄養改善に取り組みました。

本資料では、活動の開始時（ベースライン調査）と終了時（エンドライン調査）に行った調査結果を比較します。

※現地通貨はウガンダ・シリング。為替レート：1 UGX＝0.0407700円
（出典：JICA「2026年10月精算レート」）

プログラム内容

プログラム名：HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援事業

SHINE4では、2年間のプログラム期間のうち、前半の1年間はプログラム資金で集合農地を借り入れ、参加者が野菜を栽培しました。後半の1年間は、栽培した野菜の収穫によって得た収入を活用し、参加者自身で集合農地の借入費用を賄う仕組みとしています。

事業期間：2024年1月1日-2025年12月31日（第4期）

ベースライン調査：2024年2月22-23日
エンドライン調査：2026年2月25日

目的：農業で栄養改善と生計向上ができるようになること

開始時（ベースライン）の状況

SHINE4プログラムの開始時に実施した調査では、参加者の多くが収入や家計管理、食事、子どもの学費など、日々の暮らしにさまざまな課題を抱えていることが分かりました。

① 収入・農業
農業によって収入を得ていた人は60%でしたが、農業から得られる年間収入は30ドル以下と限られていました。また、他の農家の仕事を手伝い、日当を得ている人もいました。農業技術や栽培方法を改善し、安定した収穫と収入につなげることが課題となっていました。

② 家計管理・貯蓄
60%の人が貯蓄をしていた一方、85%の人は現在の貯蓄額を正確に把握できていませんでした。また、75%の人が毎月の支出を把握しておらず、収入や支出を計画的に管理することが課題となっていました。

③ 食事・栄養状況
1日3食を取れていない人が40%いました。また、95%の人が、食料不足によって家族に十分な量の食事を用意できなかった経験があると回答しました。家族が必要な食事を安定して取れるようになることが課題でした。

④ 子どもの教育・学費
90%の家庭が、過去1年間に子どもの学費の支払いを滞納・遅延した経験がありました。学費の滞納によって学校から帰された後、再び学校に戻った子どももいました。子どもたちが安心して学校に通い続けられるよう、学費を確保できるだけの収入を得ることが課題となっていました。

⑤ 自己効力感・ストレス
自己評価について否定的に捉えている人が半数程度おり、現在の仕事が自分に合っていないと感じている人も45%いました。また、疲労や不安を感じている人も多く、暮らしの安定だけでなく、自分に自信を持ち、前向きに生活していくための取り組みも必要とされていました。

目次

1. 全体要約
2. Part 1 調査対象者　基本情報
3. Part 2 各家庭の経済状況について
4. Part 3 自己効力感と自己効力感について
5. Part 4 仕事に関する考え方とストレス
6. Part 5 HIVとスティグマについて
7. Part 6 栄養状況について
8. Part 7 調査対象者の子ども　基本情報

1. 全体要約

分析結果　要約

支出や貯蓄額を把握する人が増加

収入全体が増えたかどうかは判断できませんが、支出や貯蓄額を把握することや、収入を使う前に計画を立てることなど、家計管理に関する行動に変化が見られました。
一方、いつも計画を立て、計画どおりに使うと回答した人の割合は減りました。

- 過去1年間に貯蓄した家庭：60% → 65%
- 平均貯蓄額：16,105 → 43,357ウガンダ・シリング
- 貯蓄額の中央値：6,000 → 30,000ウガンダ・シリング
- 現在の貯蓄額を把握していると回答した人：15% → 85%
- 毎月の支出を把握していると回答した人：20% → 95%
- 支出の計画を立てた経験がある人：45% → 95%
- いつも計画を立て、計画どおりに使う人：15% → 5%

※数値はベースライン調査時→エンドライン調査時。貯蓄額は未回答が1人→6人に増えており、回答者数が異なります。

分析結果　要約

農業の取り組み方に変化。収入全体への影響は判断できず

農業によって収入を得た人の割合は、ベースライン調査時の60%からエンドライン調査時には65%になりました。ただし、参加者1人の入れ替わりがあります。

また、エンドライン調査時に作物による収入額を回答したのは2人に限られるため、参加者全体の収入が増えたかどうかは判断できません。

土地を借りている人の割合は75%から25%に減少し、エンドライン調査時には20人中19人が他の農家での日雇い労働をしていないと回答しました。プログラム担当者によると、集合農地や家庭菜園での野菜栽培に活動の中心が移ったことが、この変化の背景にあると考えられます。

分析結果　要約

自己評価が低下し、全体的な改善は見られず

自分の能力に対する評価は一部で低下が見られた。自分に対する肯定的な評価や、困難な状況への対処に関する回答にも変化が見られたが、全体として自己効力感・自己肯定感が改善したとは判断できず。

仕事に対する意識は項目によって変化が異なる

現在の仕事への満足度や、自分に合った仕事だと感じるかについて、回答に変化が見られた。
仕事に対する意識は項目によって異なり、全体的な改善は判断できず。

分析結果　要約

差別や偏見に関する経験は依然として課題

自分自身のHIV感染状況に対する恥ずかしさや、周囲からの差別・偏見に関する回答には、改善と悪化の両方が見られた。スティグマが全体として軽減したとは判断できず。

食事回数は増加した一方、食料不足は深刻化

1日3食以上取れている人は60％から95％に増加。一方、食料不足や空腹を頻繁に経験する人の割合は増加しており、食事回数には改善が見られたものの、食料不足の課題は残った。

分析結果　要約

家計管理や食事回数に改善が見られた一方、収入の安定や食料不足には課題が残る

SHINE4プログラムの終了時調査では、家計管理や食事回数に改善が見られました。

毎月の支出を把握している人の割合は、ベースライン調査時の20%からエンドライン調査時には95%に増加しました。また、1日3食以上取れている人の割合も60%から95%に増加しました。

一方、農業で収入を得た人の割合は60%から65%となりましたが、収入額の変化は十分な回答が得られず判断できませんでした。食料不足を頻繁に経験した人の割合は20%から90%に増加し、食事回数が増えた一方で、食料を安定して確保することには課題が残りました。

自己効力感・自己肯定感、仕事への意識、HIVへのスティグマについては、設問によって改善と悪化の両方が見られ、全体として明確な改善があったとは判断できませんでした。

今回の調査から、家計管理や食事回数には前向きな変化が確認された一方、収入や食料の安定的な確保、心理面・社会面には引き続き課題があることが分かりました。

プログラム担当者からのコメント

プログラム終了にあたり

SHINEプログラムが対象とするHIV陽性のシングルマザーのみなさんは、自身の体調への不安を抱えながら、子どもたちを養い、日々の生活を営んでいます。プログラムに参加する前は、彼女たちの多くが近隣の農作業や洗濯を手伝う日雇い労働をして、家族の生活費を得ていました。

こうした暮らしを支えるため、SHINEプログラムでは農業や栄養の知識や技術を学ぶ機会を提供しました。参加者のみなさんは、グループで借りた農地での野菜栽培や、研修で学んだことを生かした家庭菜園に取り組んできました。

今回の終了時調査では、学費を滞りなく支払えるようになる、生活必需品の購入に困らなくなるといった、家計の大幅な改善を確認するには至りませんでした。しかし、同じ境遇の仲間とともに野菜栽培に取り組んだ2年間の経験は、経済的自立に向けた一歩になったと考えています。

SHINEプログラムを通じて身に付けた農業や栄養の知識・技術は、終了後も日々の生活に生かせるものです。プログラムは一区切りを迎えましたが、みなさんと子どもたちの暮らしはこれからも続いていきます。この2年間の学びや経験が日々の暮らしのなかで生かされていくことを願いながら、これからも一人ひとりの歩みを見守りたいと思います。

PART 1

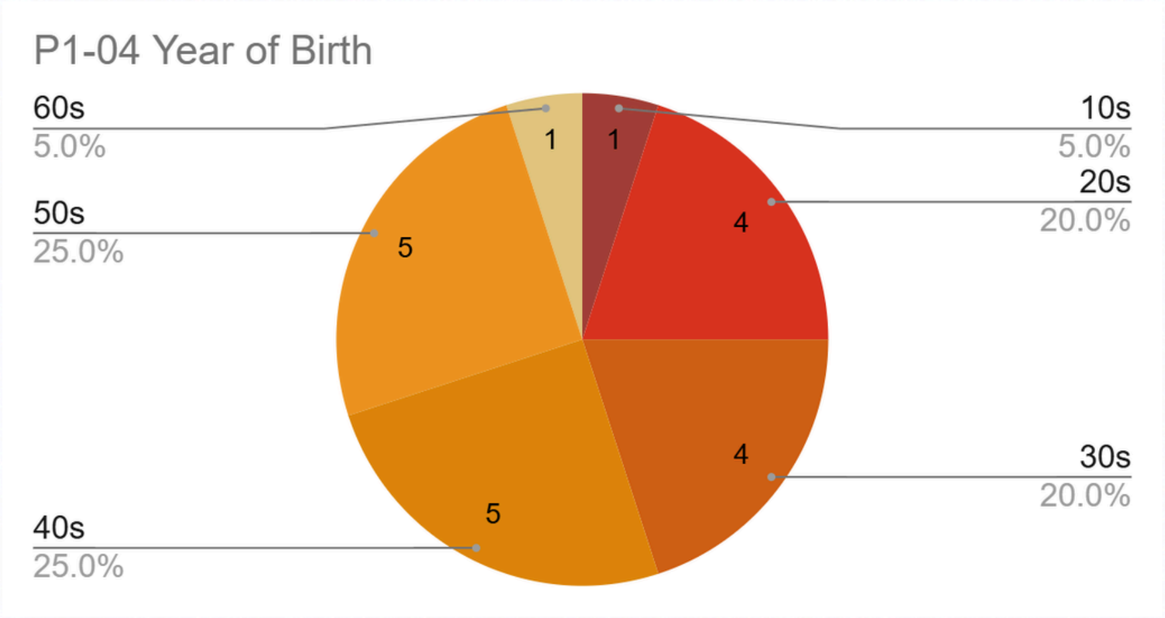
調査対象者　基本情報

Part 1: 03.04,06
性別、年齢、居住地

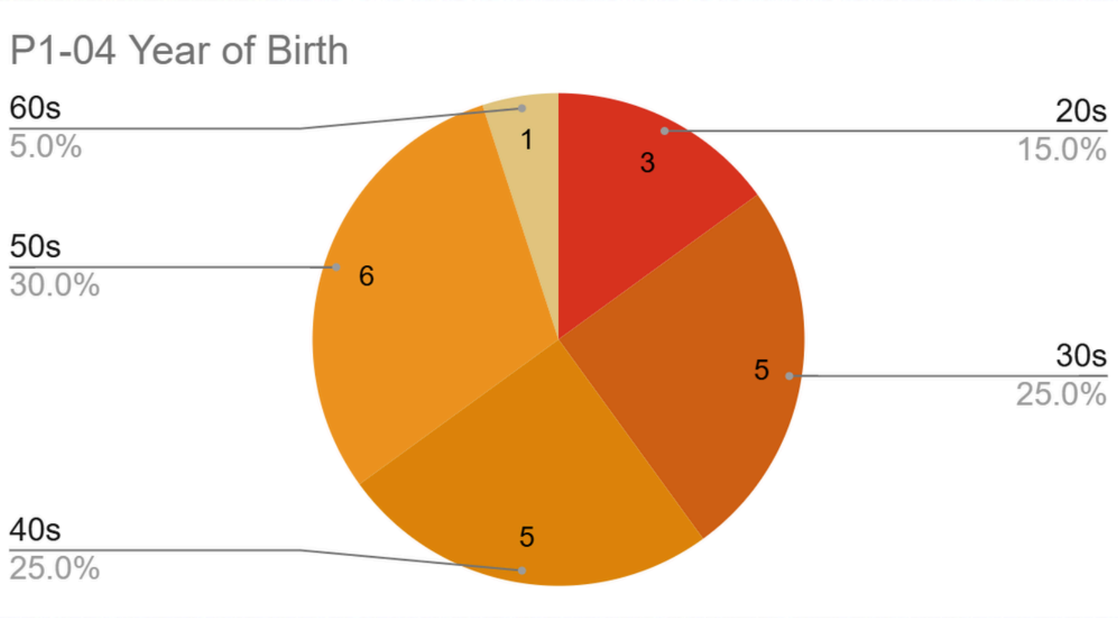
調査対象者　基本情報

20名全員が女性。平均年齢はベースライン調査時40.4歳、エンドライン調査時は42.7歳。
（エンドライン調査はベースライン調査の2年後に実施）
ベースライン調査時とエンドライン調査時で参加者1名が入れ替わっています。

ベースライン



エンドライン

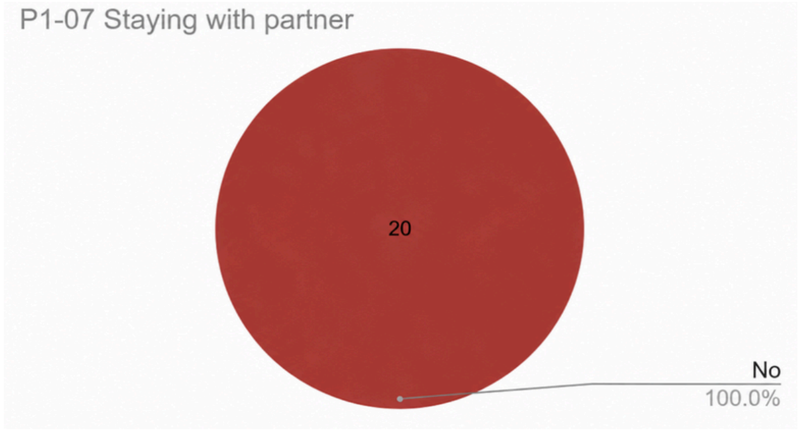


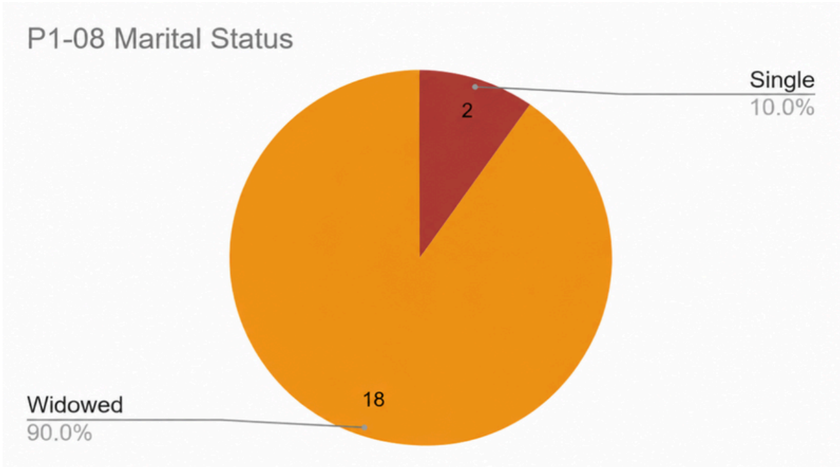
Part 1: 07,08
婚姻状況

調査対象者　基本情報

エンドライン調査時では全ての人が「パートナーと同居していない」と回答しました。
パートナーがいない理由として最も多かったのは死別で、18人でした。

エンドライン



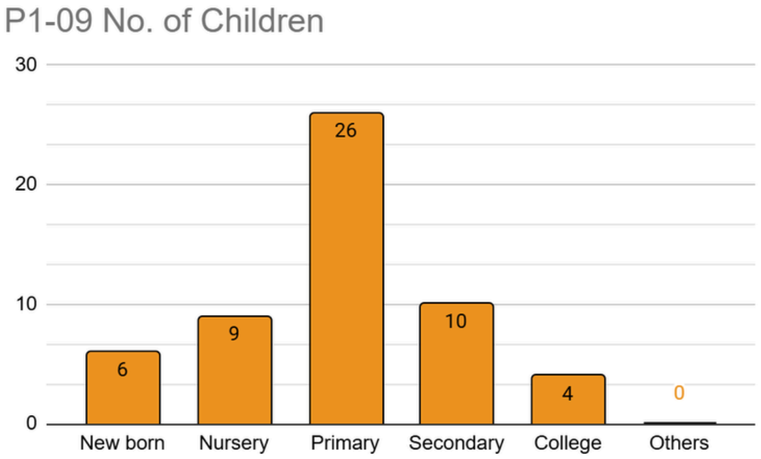


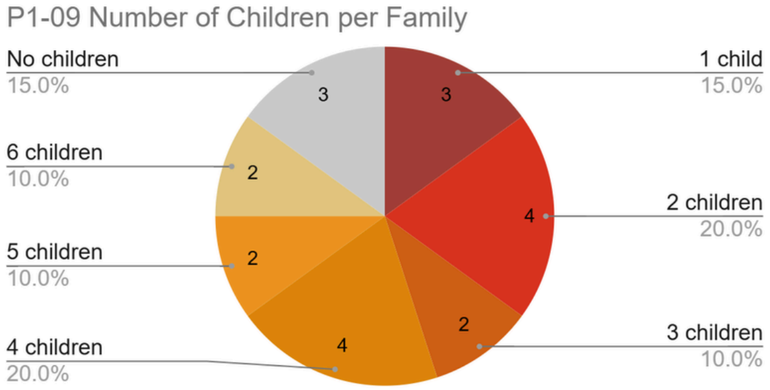
Part 1: 09
子ども

調査対象者　基本情報

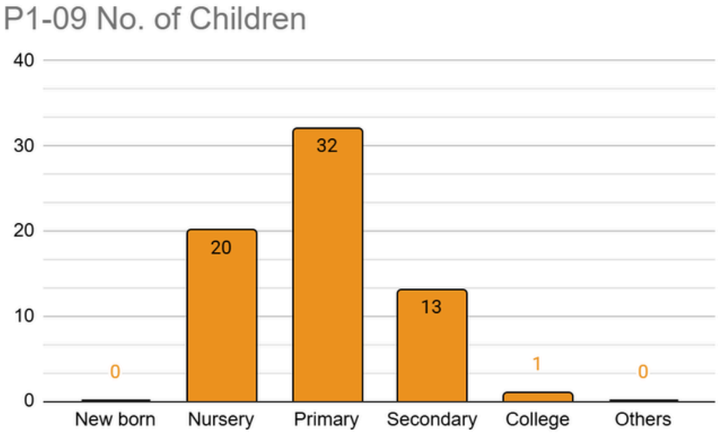
小学校（Primary）に所属する子どもを育てている人が多いです。
育てている子どもの人数が、3人以下の家庭は65%でした。

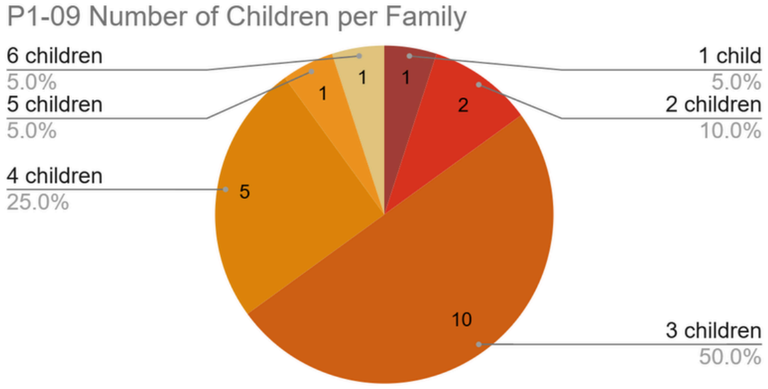
ベースライン





エンドライン



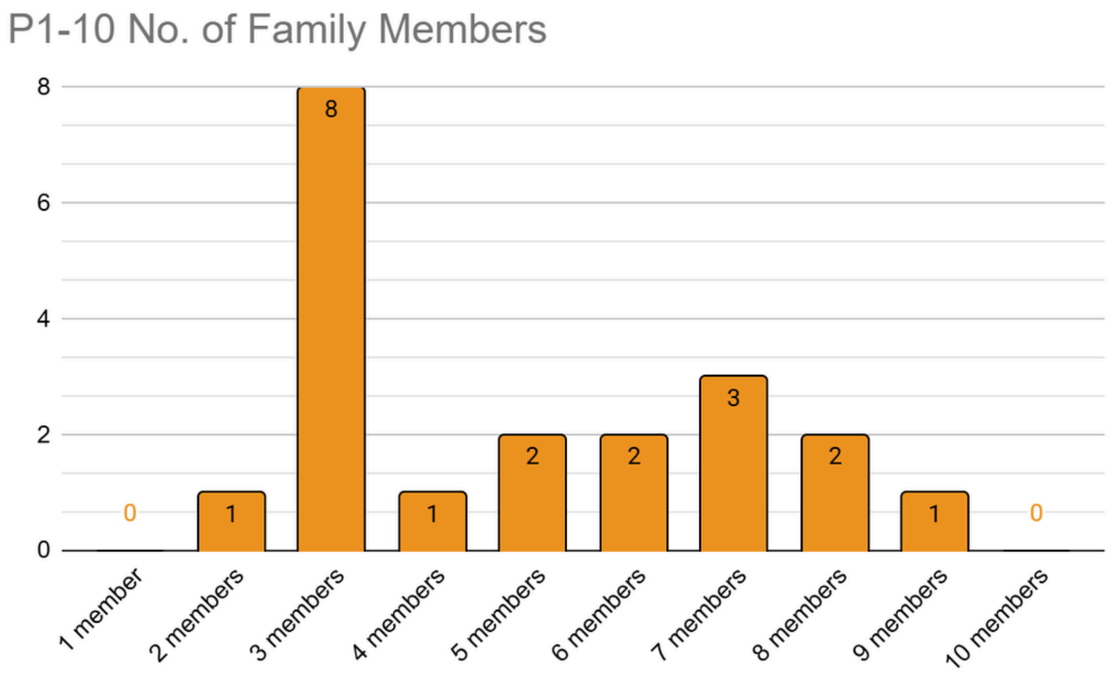


Part 1: 10,11
家族構成

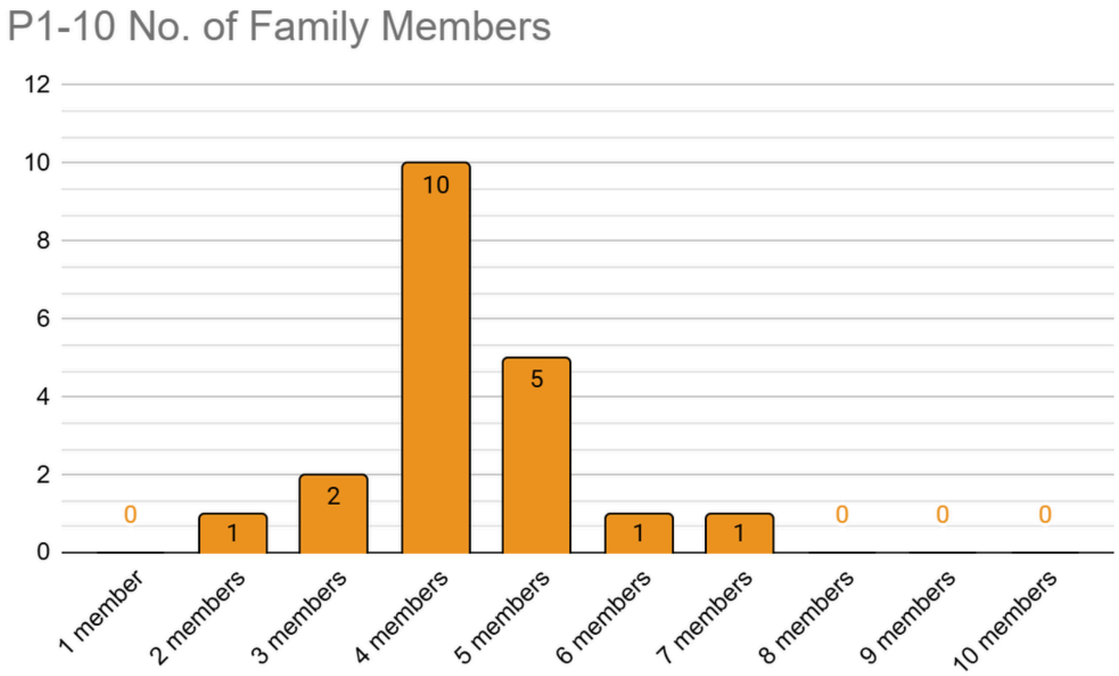
調査対象者　基本情報

エンドライン調査時には4人家族が最も多く、全体の半数を占めました。
家族の人数が最も多かったのは7人でした。

ベースライン



エンドライン

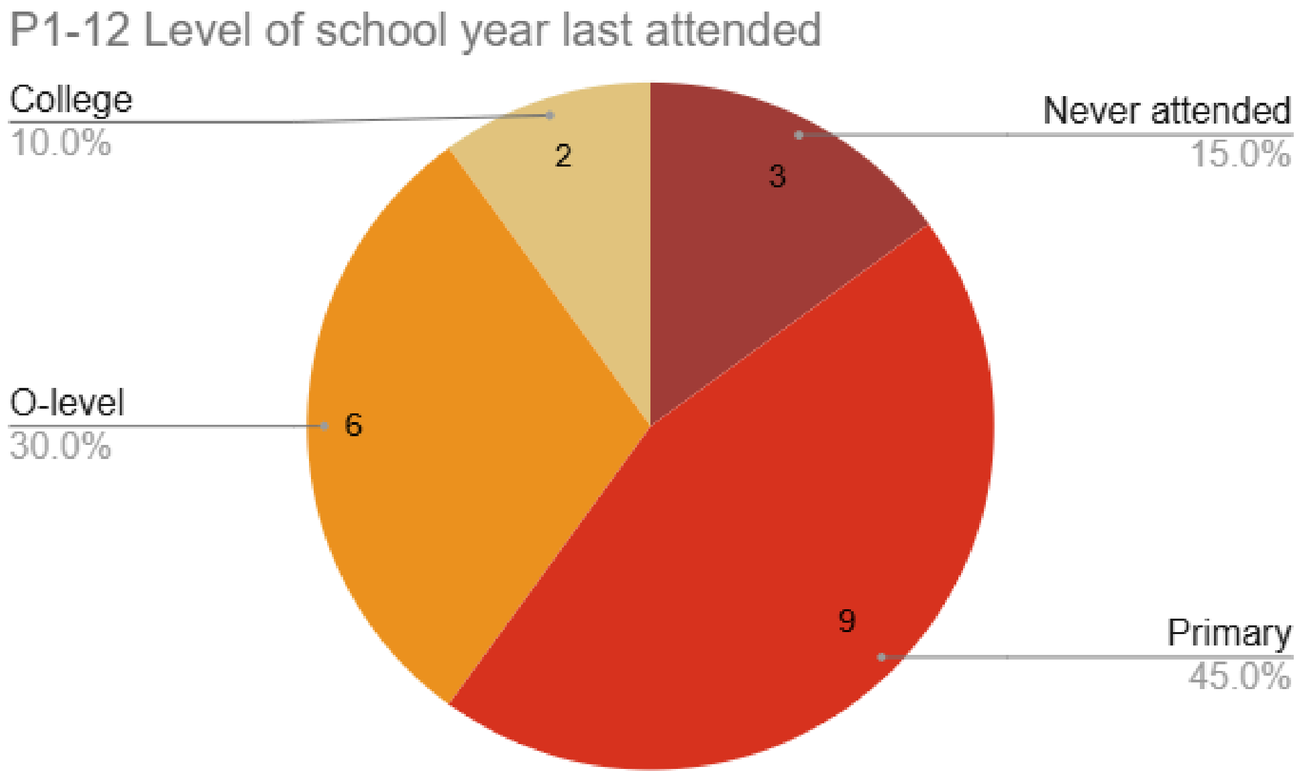


Part 1: 12,13
最終学歴

調査対象者　基本情報

エンドライン調査時では、最終学歴を初等教育と回答した人が9人で最も多く、
前期中等教育（O-level）または大学と回答した人は計8人でした。学校に通ったことがない人は3人でした。

エンドライン



PART 2

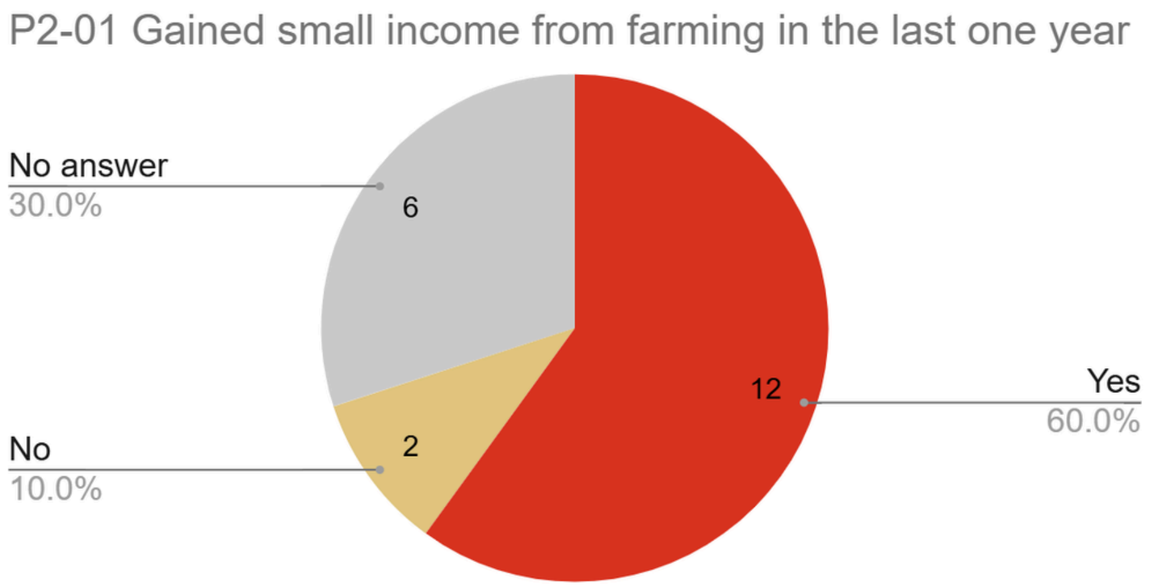
各家庭の経済状況について

Part 2: 01
育てている作物と収入

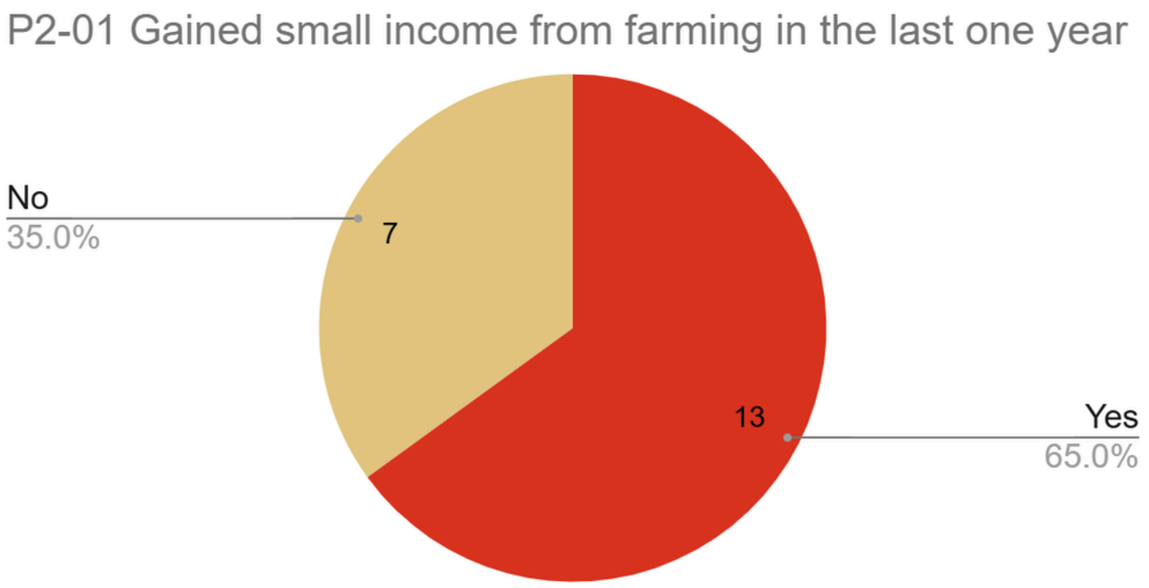
各家庭の経済状況について

エンドライン調査時には、20人中13人（65%）が、調査時点の前年1年間に農業収入があったと回答しました。
ベースライン調査時は60%でしたが、参加者1人の入れ替わりがあるため、割合の変化には注意が必要です。

ベースライン



エンドライン

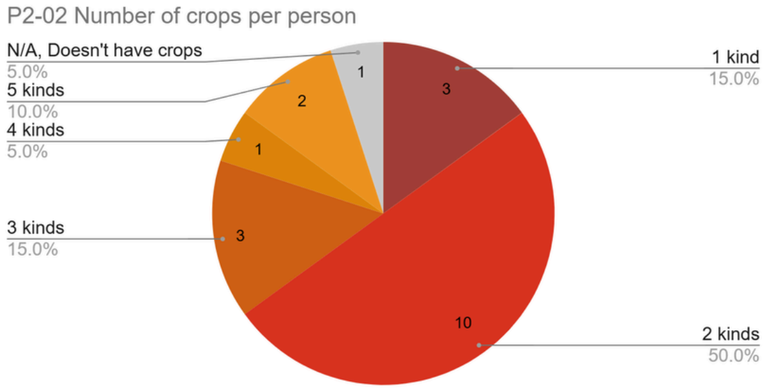


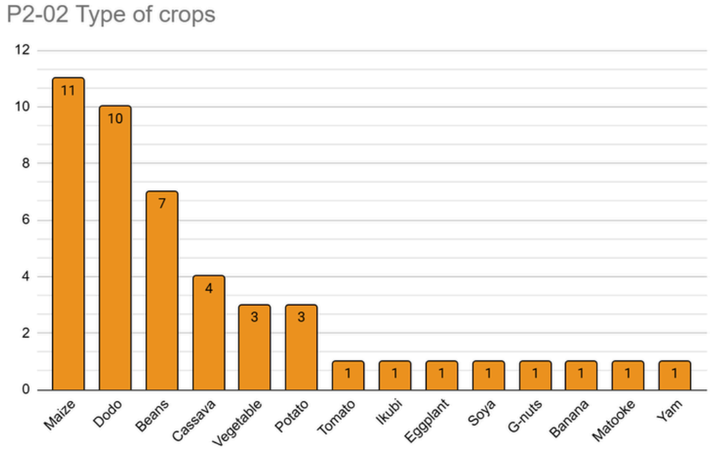
Part 2: 02
育てている作物と収入

各家庭の経済状況について

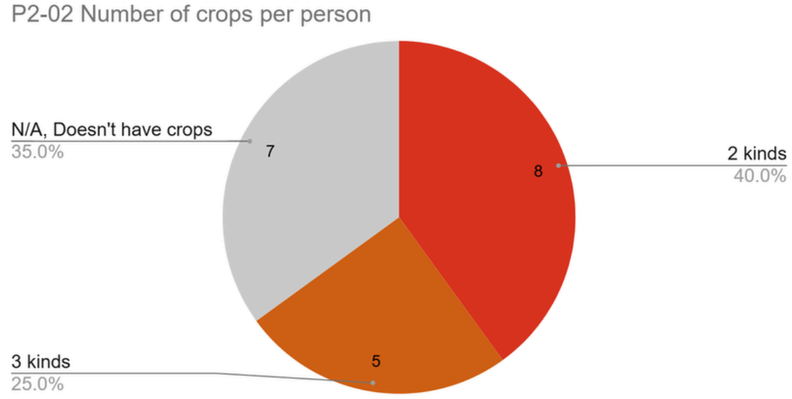
エンドライン調査時には、在来葉物野菜のJobyoとDodoを育てている人が最も多くなりました。
1人あたり4種類以上を育てている人はおらず、ベースライン調査時より数を絞って作物を育てています。

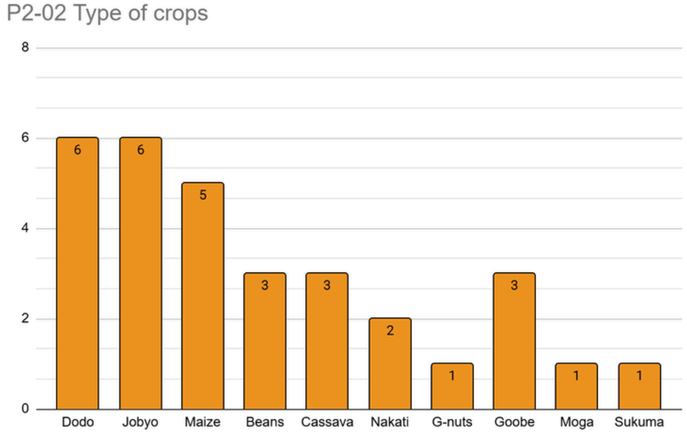
ベースライン





エンドライン



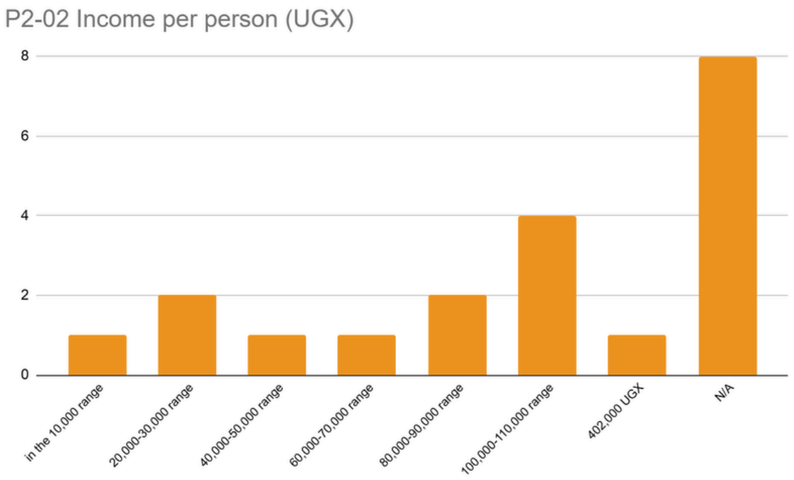


Part 2: 02
育てている作物と収入

各家庭の経済状況について

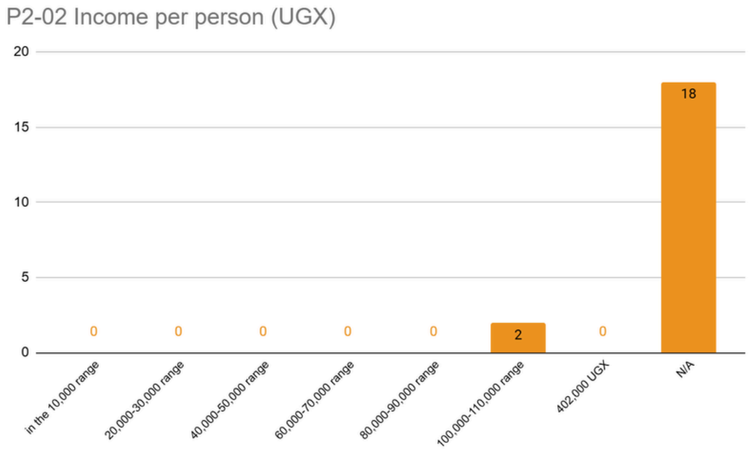
エンドライン調査時に作物の販売収入額を回答したのは2人で、いずれも100,000ウガンダ・シリングでした。
回答数が少ないため、参加者全体の収入の変化は判断できません。

ベースライン



(Unit : UGX)	Income
AVERAGE	60,150
MEDIAN	32,500
STANDARD DEVIATION	92,072

エンドライン



(Unit : UGX)	Income
AVERAGE	10,000
MEDIAN	0
STANDARD DEVIATION	30,779

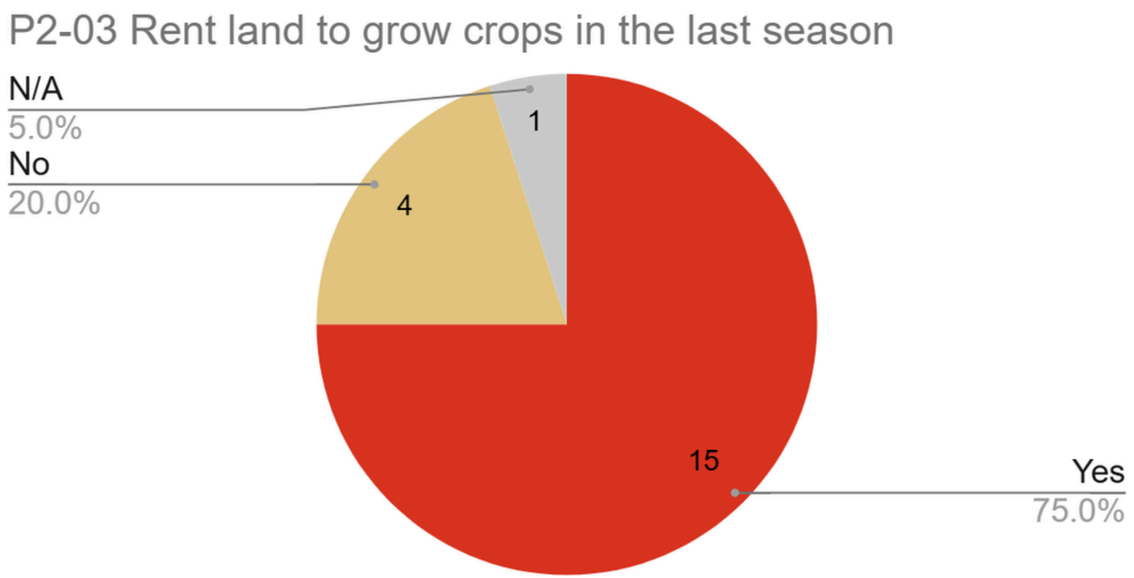
表：収入の平均値、中央値、標準偏差

Part 2: 03
借地

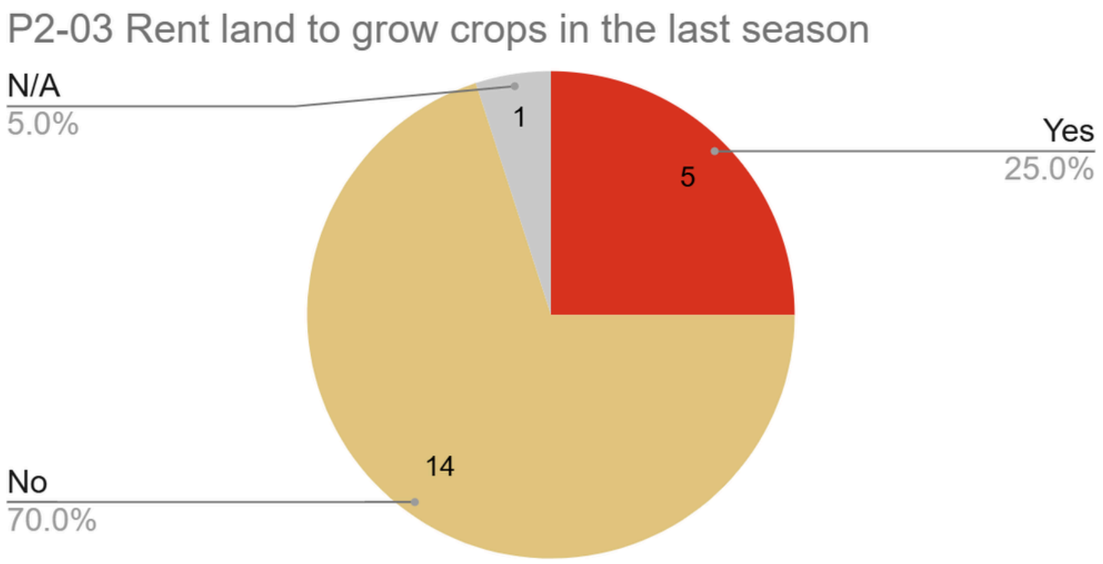
各家庭の経済状況について

土地を借りている人の割合は、ベースライン調査時75%からエンドライン調査時25%に減少しました。
※この数値には、プログラムで利用する集合農地は含まれていません

ベースライン



エンドライン



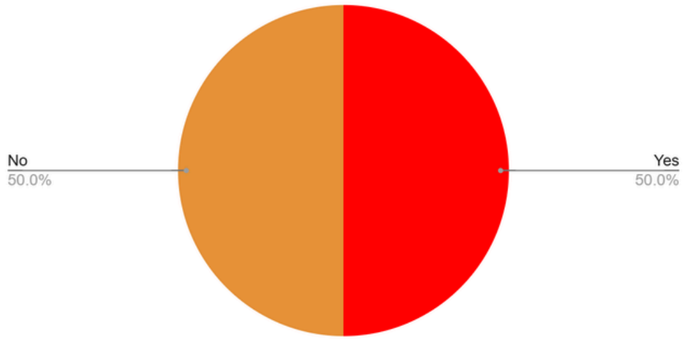
Part 2: 04, 05
育てている作物と収入

各家庭の経済状況について

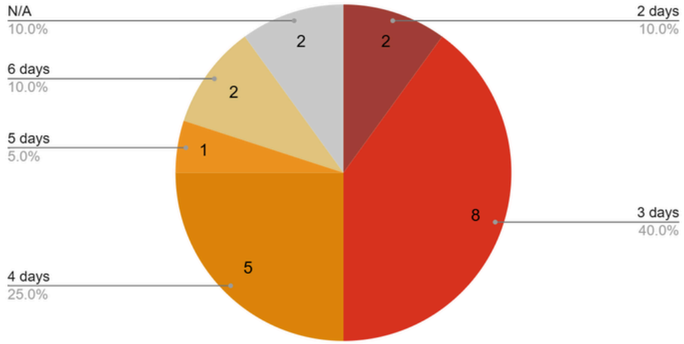
エンドライン調査時には、20人中19人が他の農家での日雇い労働をしていないと回答しました。
この背景には、プログラムの支援を受けた集合農地や、
各家庭の家庭菜園での野菜栽培に活動の中心が移ったことがあると考えられます。

ベースライン

P2-04 Were you engaged in helping other farmers and receive casual labor fees?

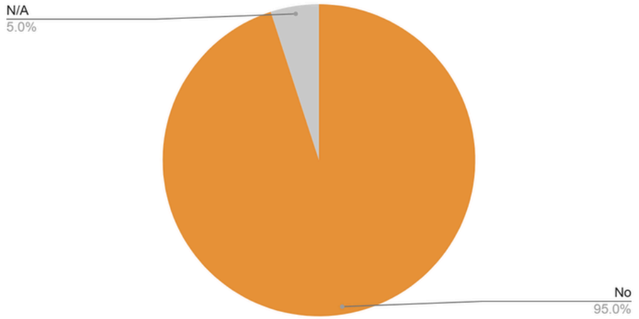


P2-05 How many days did you engaged in helping other farmers in the season? (days per week)

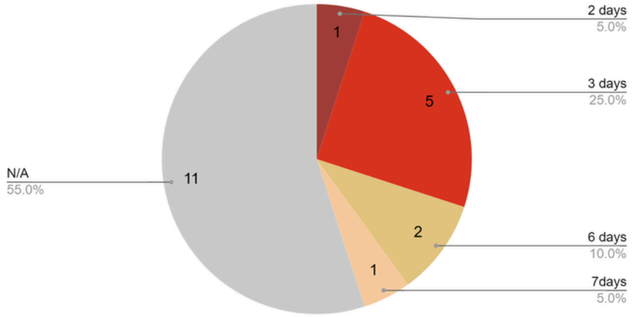


エンドライン

P2-04 Were you engaged in helping other farmers and receive casual labour fees?



P2-05 How many days did you engaged in helping other farmers in the season? (days per week)

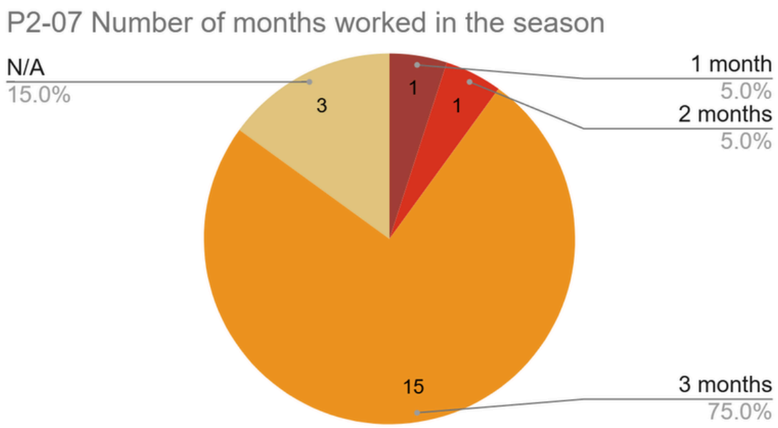


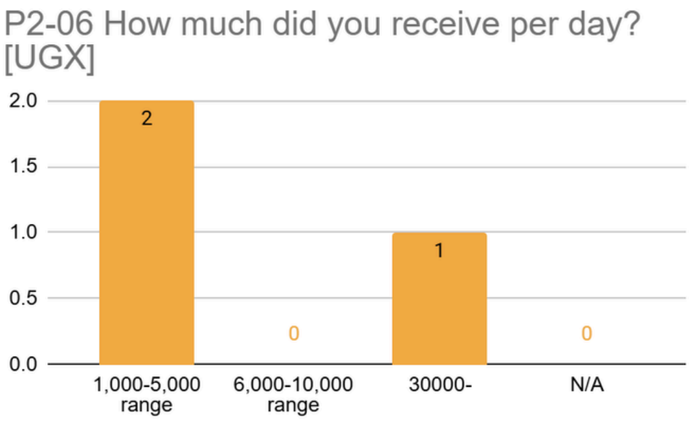
Part 2: 06, 07
育てている作物と収入

各家庭の経済状況について

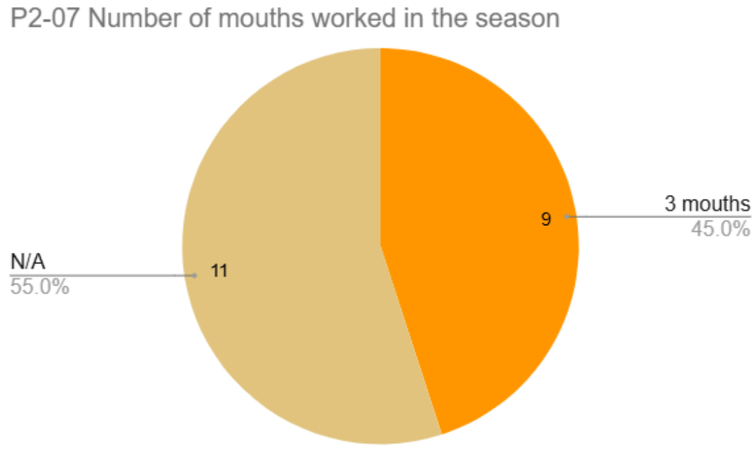
1シーズンに働いた期間を「3か月」と回答した人は、ベースライン調査時の15人（75%）から
エンドライン調査時には9人（45%）になりました。一方、未回答は3人から11人に増えました。
日当の回答は両時点とも3人で、終了時には10,000ウガンダ・シリング超が2人、
1,000〜5,000ウガンダ・シリングが1人でした。

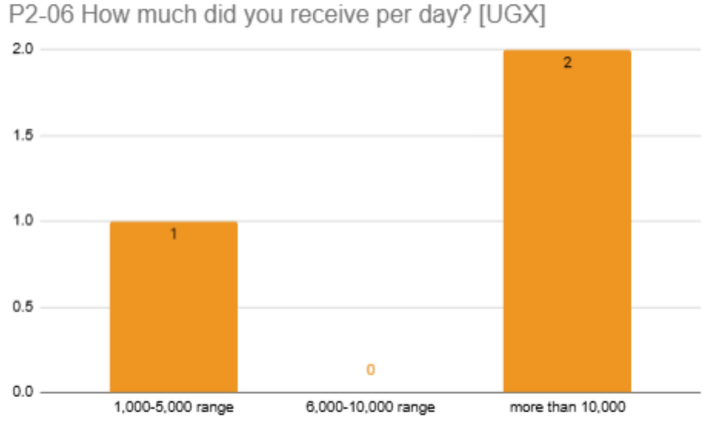
ベースライン





エンドライン





Part 2: 06, 07
育てている作物と収入

各家庭の経済状況について

主な収入源（農業が主な収入だった場合は副収入）については、
ベースライン調査時での回答は食料の販売や仕立て屋でしたが、
エンドライン調査時には4つにまで絞られていました。

ベースライン

P2-08 What is your main business or activity to gain from? If it' s crop farming, what is the	
Selling meat	1
Selling milk	1
Selling fruit	2
Selling charcoal	1
Selling local brew(beer)	1
Grocery store/Kiosk	2
Digger	1
Laundry	2
Tailoring	1
No	1
N/A	5
Farming(Doesn't count)	2
	20

エンドライン

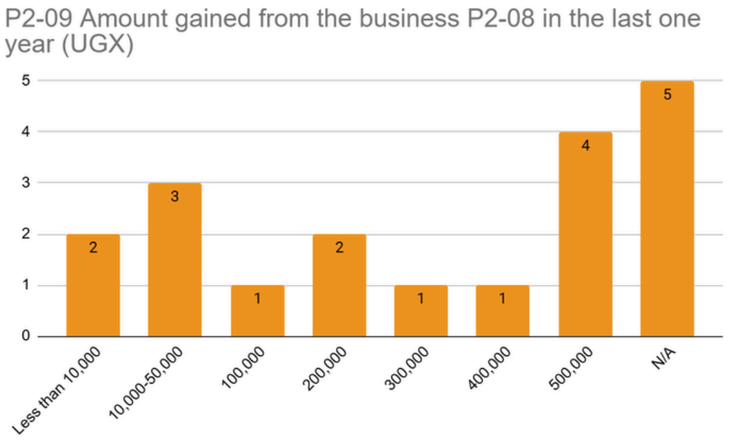
P2-08 What is your main business or activity to gain from? If it' s crop farming, what is the second?	
Selling cloths	1
Wearling worker	1
Grocery	3
Selling charcoal	5
N/A	10
	20

Part 2: 06, 09
農業以外の収入源

各家庭の経済状況について

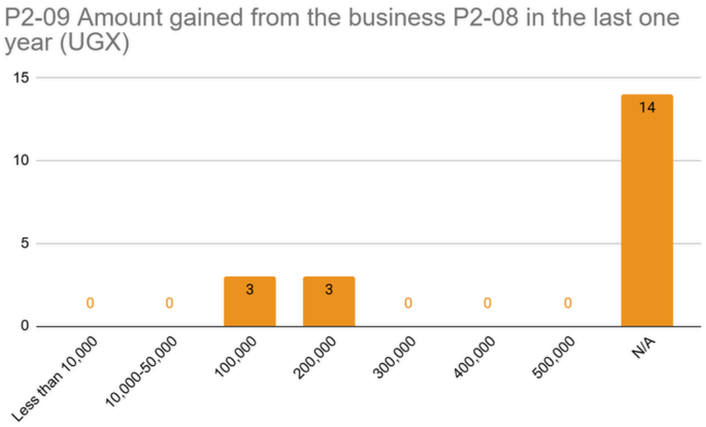
収入額の回答には増加した方と減少した方の両方いました。
未回答も多いため、参加者全体の収入が増えたかどうかは判断できません。

ベースライン



(Unit : UGX)	Income
AVERAGE	220,600
MEDIAN	200,000
STANDARD DEVIATION	209,400

エンドライン



(Unit : UGX)	Income
AVERAGE	150,000
MEDIAN	150,000
STANDARD DEVIATION	54,772

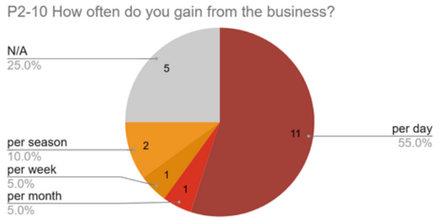
表：収入の平均値、中央値、標準偏差

Part 2: 06, 10
農業以外の収入源

各家庭の経済状況について

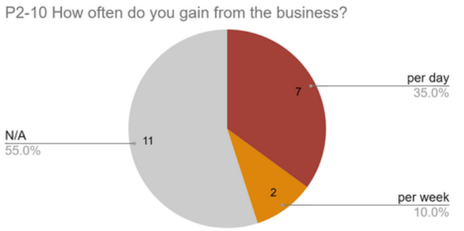
収入を得た頻度は、ベースライン調査時、エンドライン調査時ともに「日ごと」と回答した人が最も多かったが、55%から35%に減少しました。

ベースライン



Business	Amount gained last year (UGX)	Frequency of getting income
Selling meat	500,000	per day
Selling charcoal	500,000	per day
Crop farming	500,000	per week
Grocery	500,000	per day
Selling local brew (Beer)	400,000	per month
Digger	300,000	per day
Kiosk	200,000	per day
Selling banana	200,000	per day
Farming	100,000	per season
Selling milk	50,000	per day
N/A	30,000	per season
Tailoring	20,000	per day
Laundry	6,000	per day
Selling fruits	3,000	per day
Laundary	N/A	per day

エンドライン



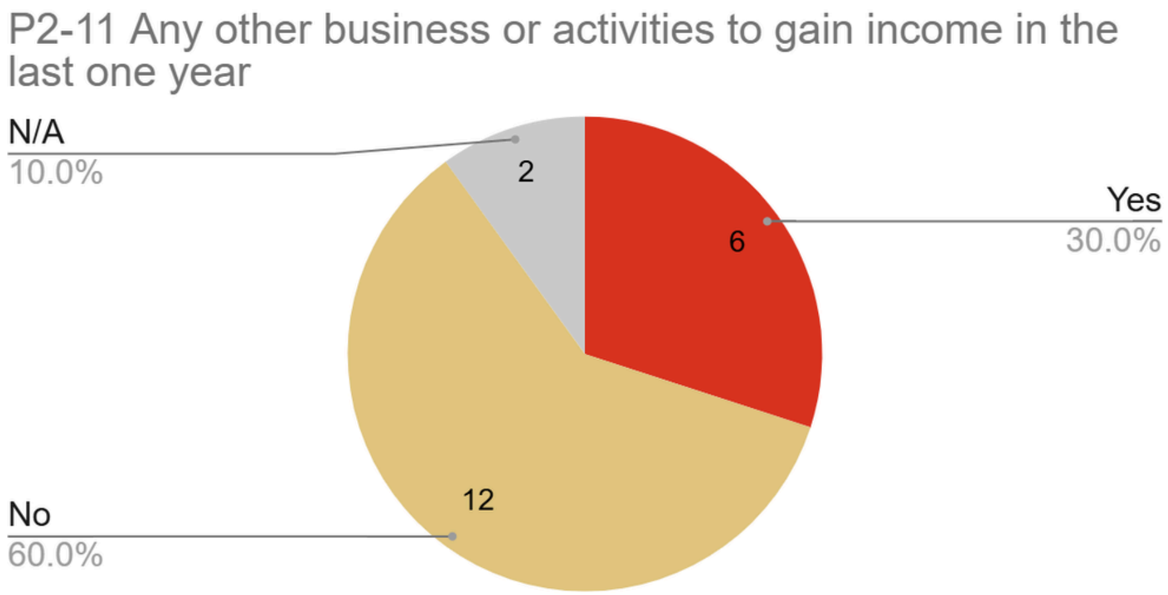
Business	Amount gained last year (UGX)	Frequency of getting income
Selling chacoal	100,000	
Selling clothses		per day
	100,000	per day
Selling chacoal	200,000	per day
Selling chacoal		
Selling chacoal	200,000	per week
Grocery		per day
	100,000	per day
Wearing woker		per week
Selling chacoal		per day
Grocery		
Grocery	200,000	per day

Part 2: 06, 12
農業以外の収入源

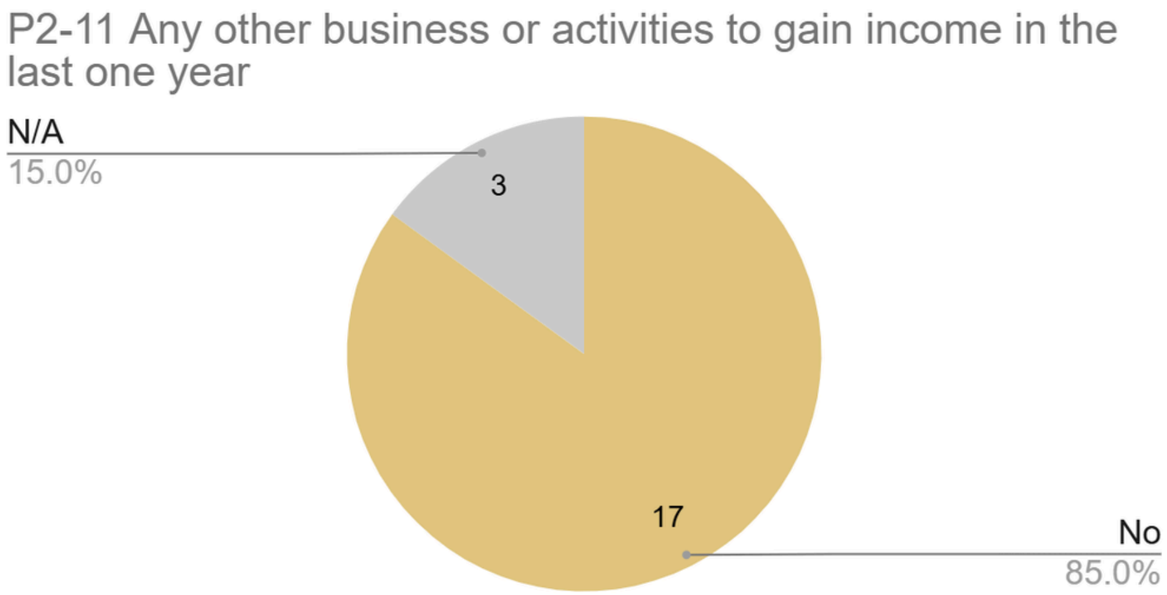
各家庭の経済状況について

過去1年間に、ほかに収入を得る仕事や活動があったかという質問に、
「はい」と回答した人は、ベースライン調査時の6人（30%）からエンドライン調査時には0人になりました。

ベースライン



エンドライン

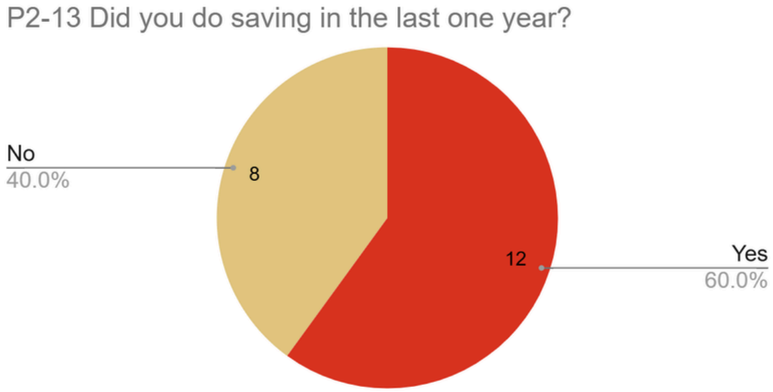


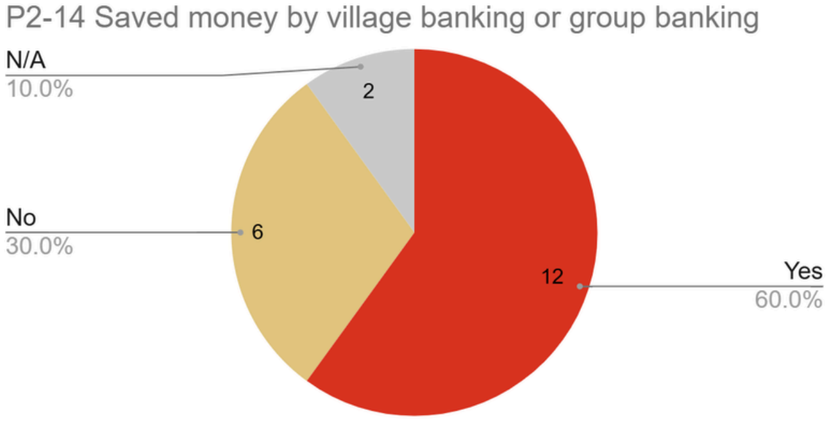
Part 2: 13-15
貯蓄状況

各家庭の経済状況について

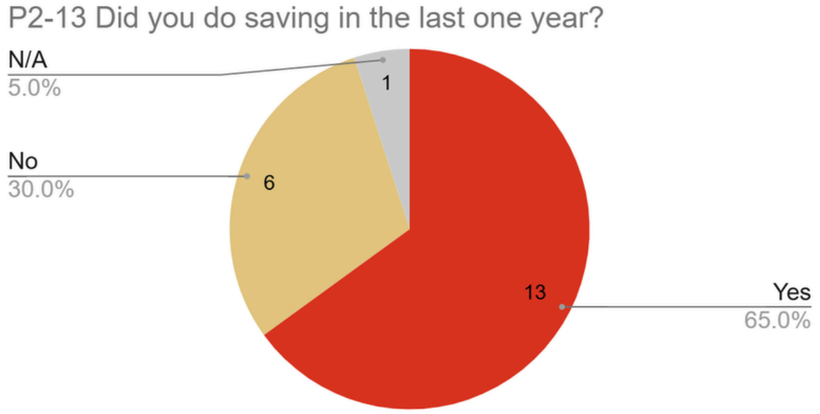
エンドライン調査時には20家庭中13家庭（65%）が、調査時点の前年1年間に貯蓄したと回答しました。
貯蓄方法としては、地域のグループで貯蓄する仕組みなどが利用されていました。

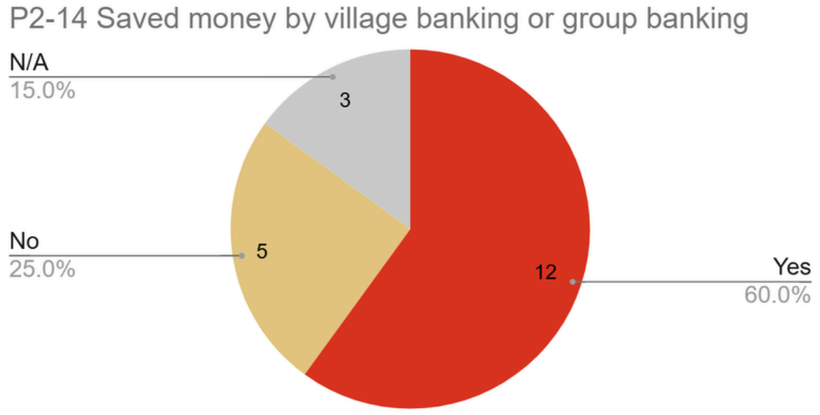
ベースライン





エンドライン



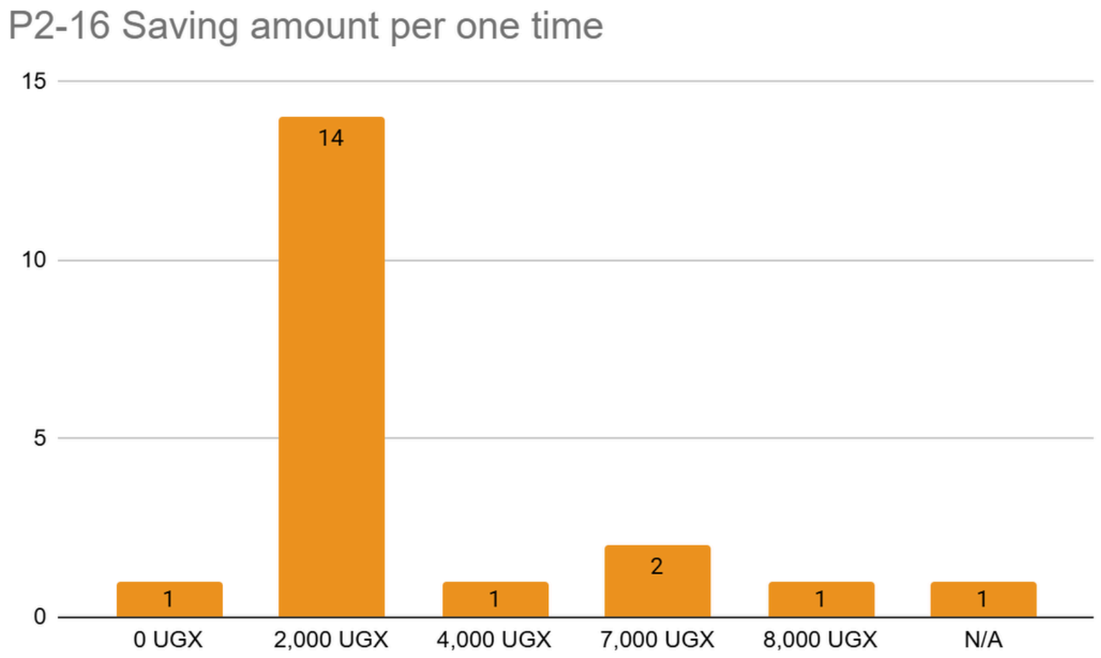


Part 2: 16,17
貯蓄状況

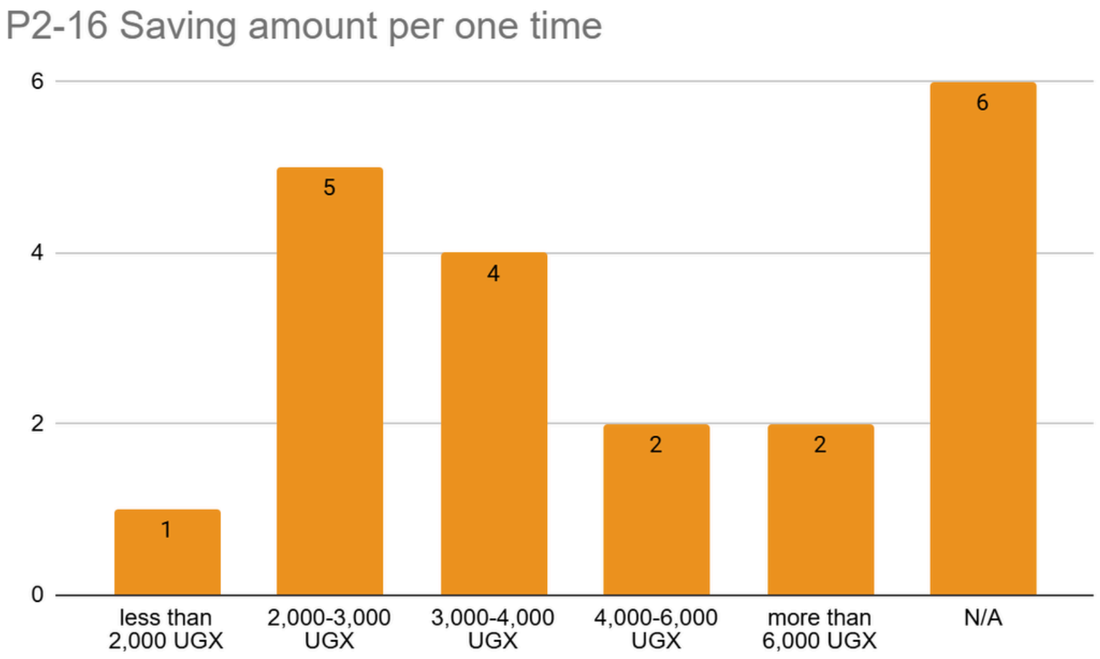
各家庭の経済状況について

1回あたりの貯金額は、未回答を除いてベースライン調査時・エンドライン調査時ともに
2,000ウガンダ・シリング以上と回答した人が最も多くなりました。
エンドライン調査時では、3,000ウガンダ・シリング以上が8人いました。

ベースライン



エンドライン

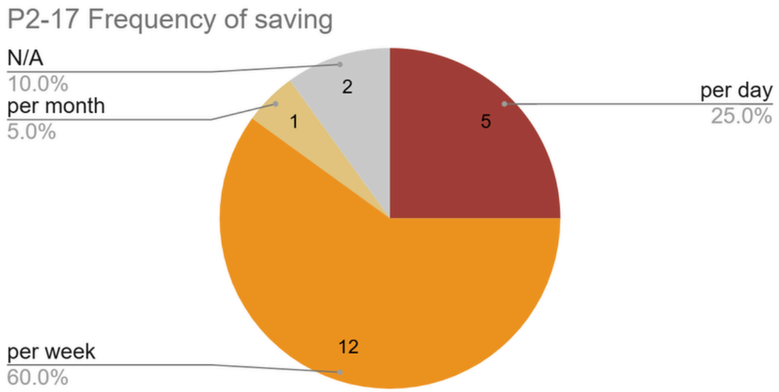


Part 2: 16,17
貯蓄状況

各家庭の経済状況について

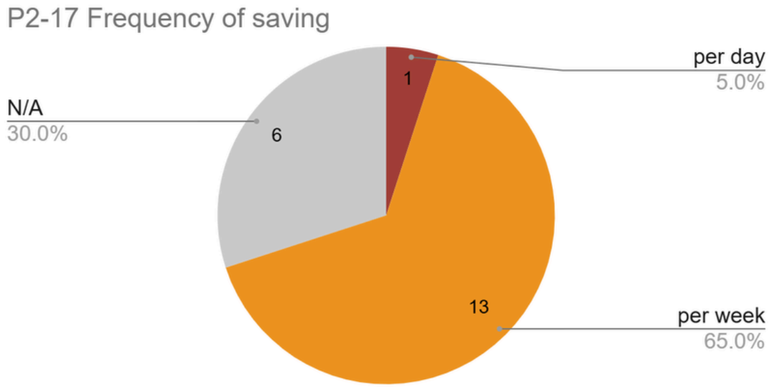
未回答を除く回答者のうち、週ごとに貯金する人の割合は、ベースライン調査時の約67%から
エンドライン調査時には約93%に増えました。一方、日ごとや月ごとに貯金する人は減少しました。
貯金の頻度を回答した人の中では、週ごとに貯金する人の割合が高くなりました。※本文の割合は未回答を除いて算出

ベースライン



Saving amount per time（UGX)	Frequency of saving	Number of people
2,000	per day	1
4,000	per day	1
7,000	per day	2
8,000	per day	1
2,000	per week	12
2,000	per month	1

エンドライン



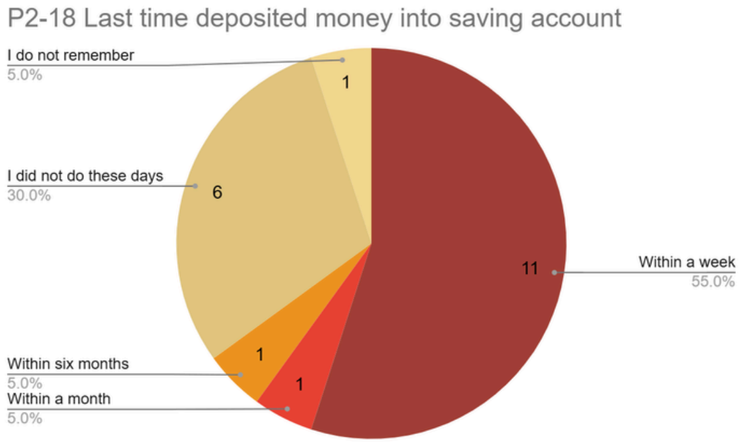
Saving amount per time（UGX)	Frequency of saving	Number of people
1,500	per week	1
2,000	per week	4
2,000	per day	1
3,000	per week	4
5,000	per week	2
10,000	per week	2

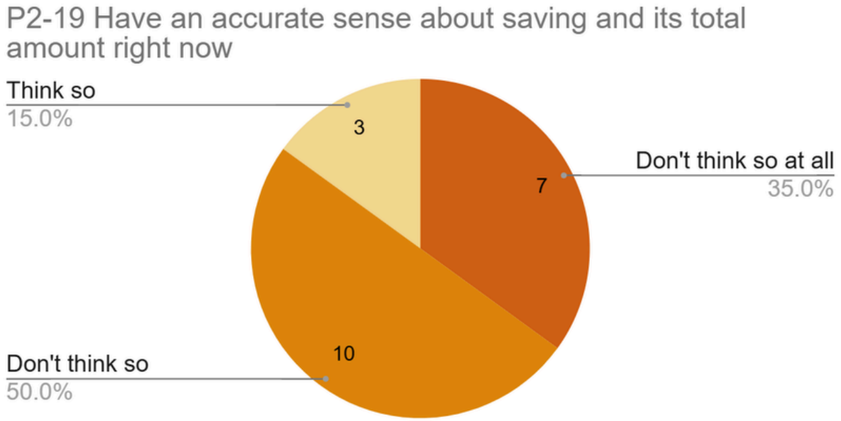
Part 2: 18,19
貯蓄状況

各家庭の経済状況について

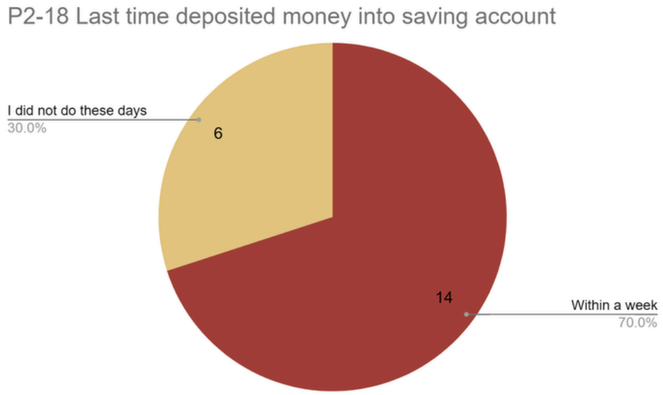
直近1週間以内に貯金した人は、ベースライン調査時の55%から
エンドライン調査時には70%に増え、両時点で最も多い回答でした。
また、現在の貯蓄額を把握していると回答した人の割合は、
ベースライン調査時の15%からエンドライン調査時には85%に増えました。

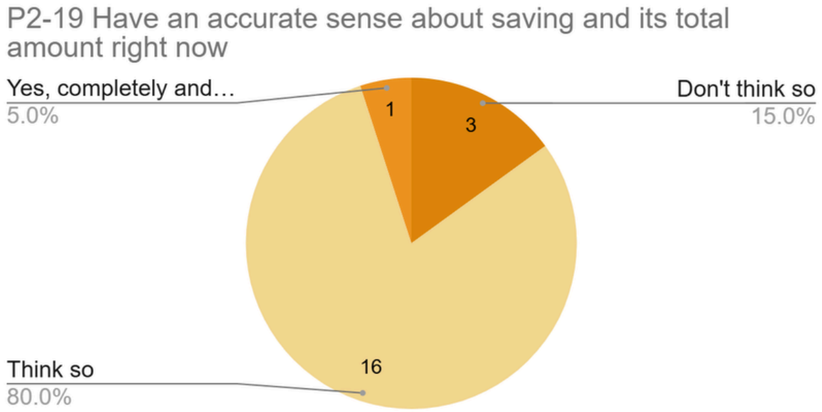
ベースライン





エンドライン



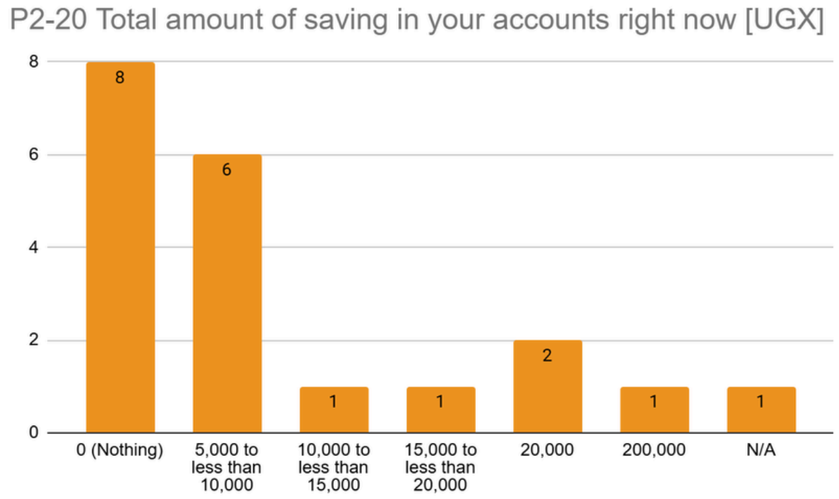


Part 2: 20
貯蓄状況

各家庭の経済状況について

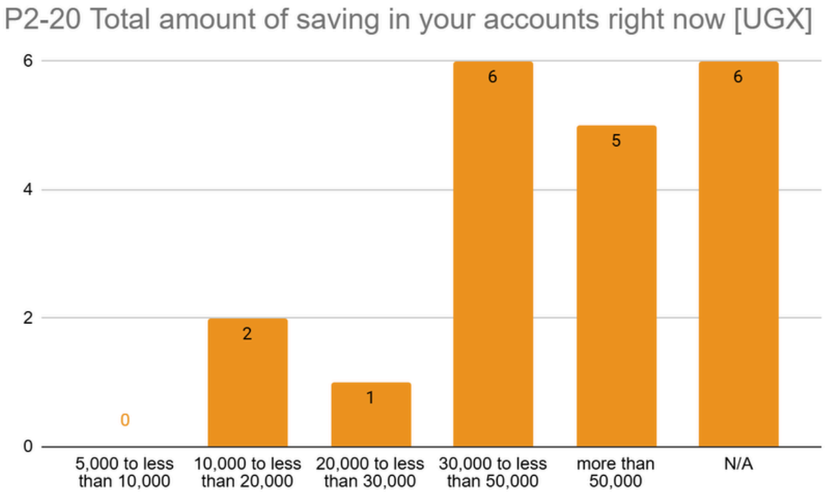
ベースライン調査時には貯蓄がない人が8人で最も多かったのに対し、エンドライン調査時には、金額を回答した人の中で30,000以上50,000ウガンダ・シリング未満の人が6人と最も多くなりました。また、貯蓄額の中央値は6,000から30,000ウガンダ・シリングに増えました。

ベースライン



(Unit : UGX)	Saving
AVERAGE	16,105
MEDIAN	6,000
STANDARD DEVIATION	45,031

エンドライン



(Unit : UGX)	Saving
AVERAGE	43,357
MEDIAN	30,000
STANDARD DEVIATION	28,758

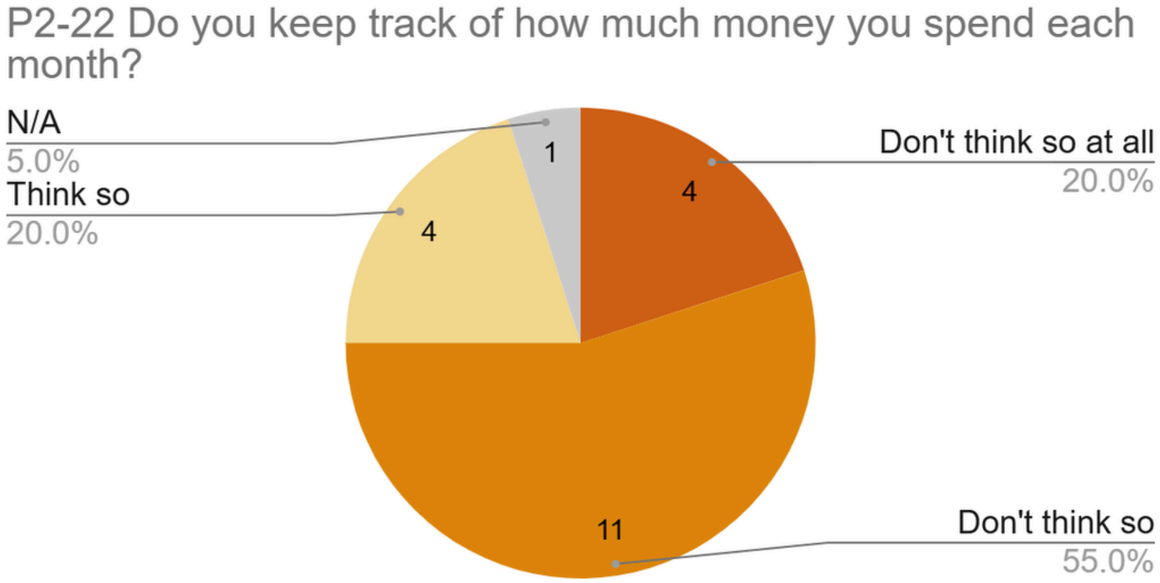
表：貯蓄額の平均値、中央値、標準偏差値

Part 2: 21,22
借金、ローン
支出管理

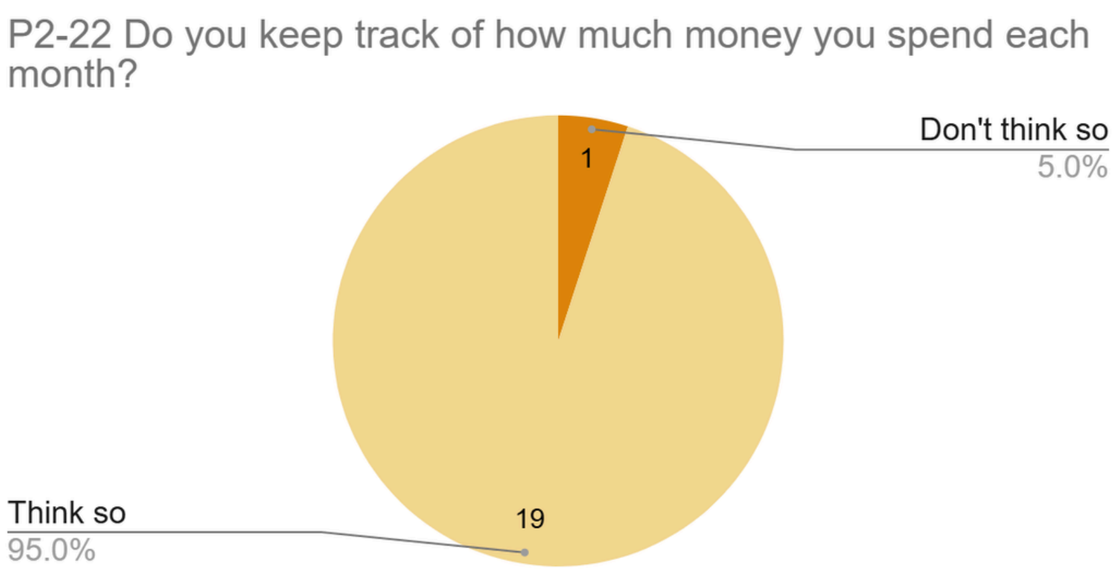
各家庭の経済状況について

毎月の支出を把握していると回答した人の割合は、
ベースライン調査時20%からエンドライン調査時95%に増えました。
一方、借入がある人はベースライン調査時3人からエンドライン調査時4人になりました。

ベースライン



エンドライン



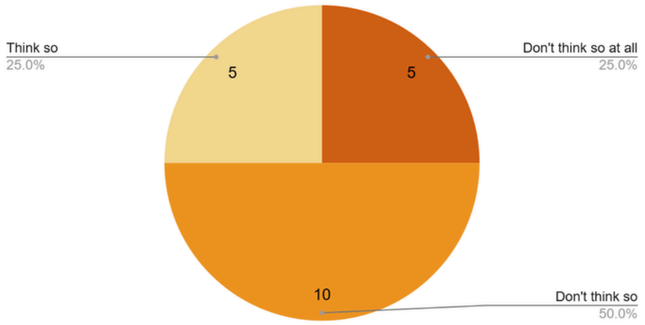
Part 2: 23,24
必要な支払いの可否

各家庭の経済状況について

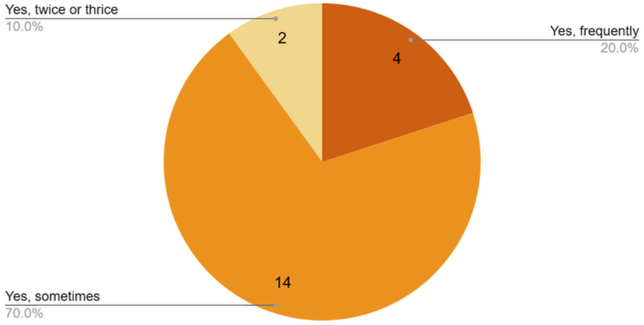
必要な支出や予期せぬ支払いに十分に対応できていると思う人は、
ベースライン調査時の25%からエンドライン調査時には85%に増えました。
一方、過去6か月に生活に必要なお金が不足した経験は、両時点で全員にありました。
特に「頻繁に不足した」と回答した人は20%から100%に増えています。

ベースライン

P2-23 Do you think you are sufficiently dealing with all necessary expenditures and unexpected payments?

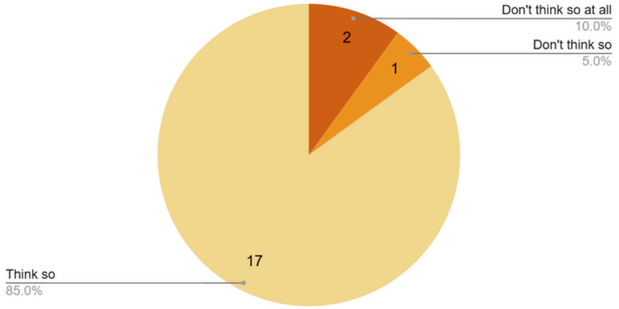


P2-24 Did you have money shortage to pay for basic expenditures in the last 6 months?

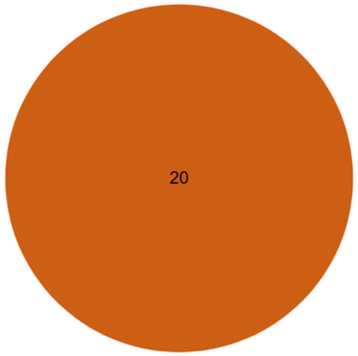


エンドライン

P2-23 Do you think you are sufficiently dealing with all necessary expenditures and unexpected payments?



P2-24 Did you have money shortage to pay for basic expenditures in the last 6 months?

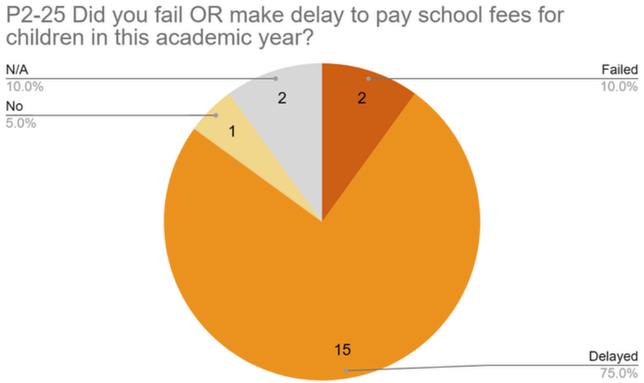


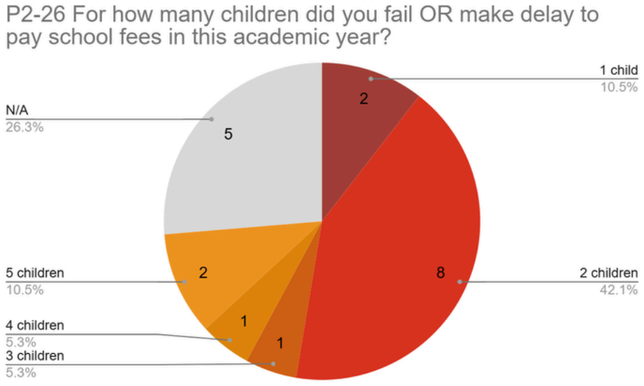
Part 2: 25,26
学費支払い

各家庭の経済状況について

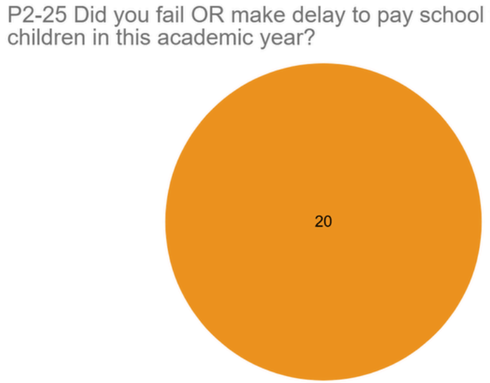
ベースライン調査時には、75%の家庭が学費の支払いに遅延があり、
10%の家庭が支払えなかったと回答しました。エンドライン調査時には、全20家庭で支払いに遅延がありました。
遅延・未払いの対象となった子どもの人数は、ベースライン調査時には1家庭あたり2人が8家庭で最多でした。
エンドライン調査時には3人が10家庭（50%）、4人が6家庭（30%）でした。

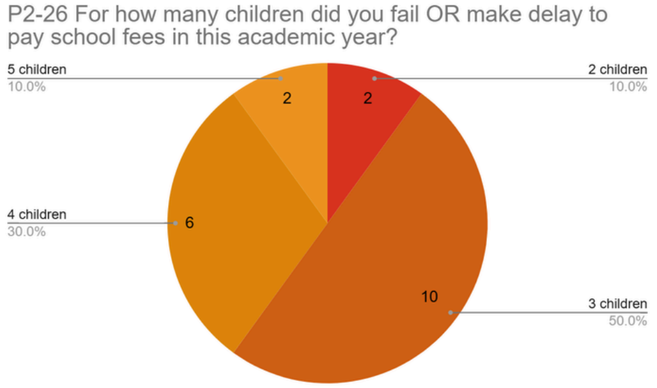
ベースライン





エンドライン



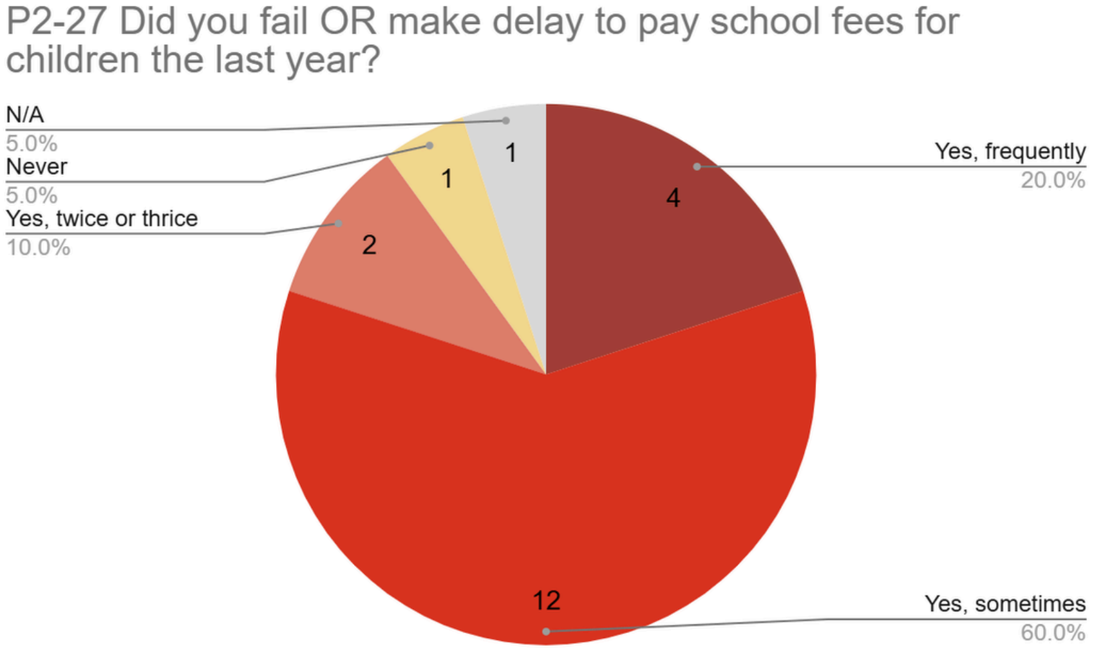


Part 2: 27
学費支払い

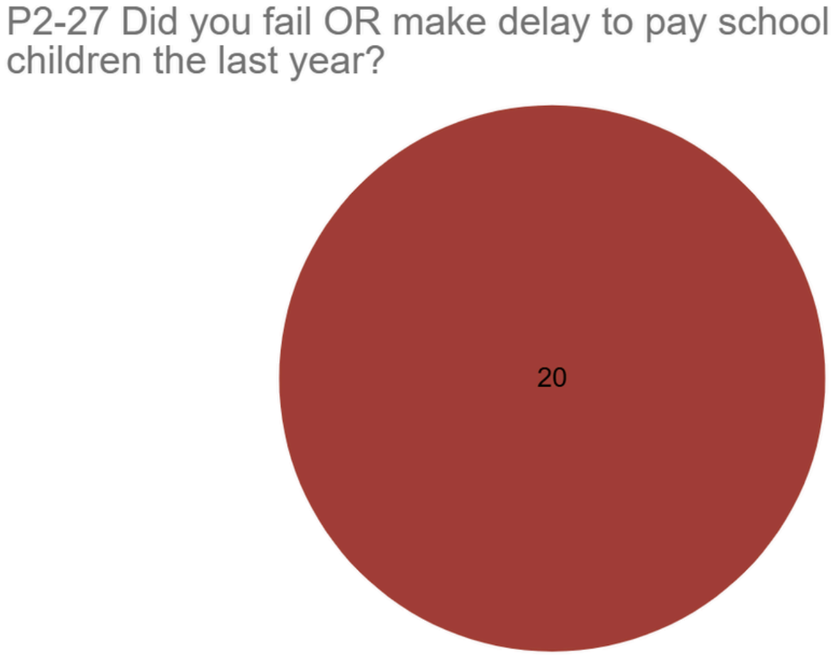
各家庭の経済状況について

調査時点の前年1年間に、子どもの学費を支払えなかった、または支払いが遅れた頻度について、
ベースライン調査時には「時々」が12人（60%）で最も多くなりました。
エンドライン調査時には、20人全員（100%）が「頻繁に」と回答しました。

ベースライン



エンドライン

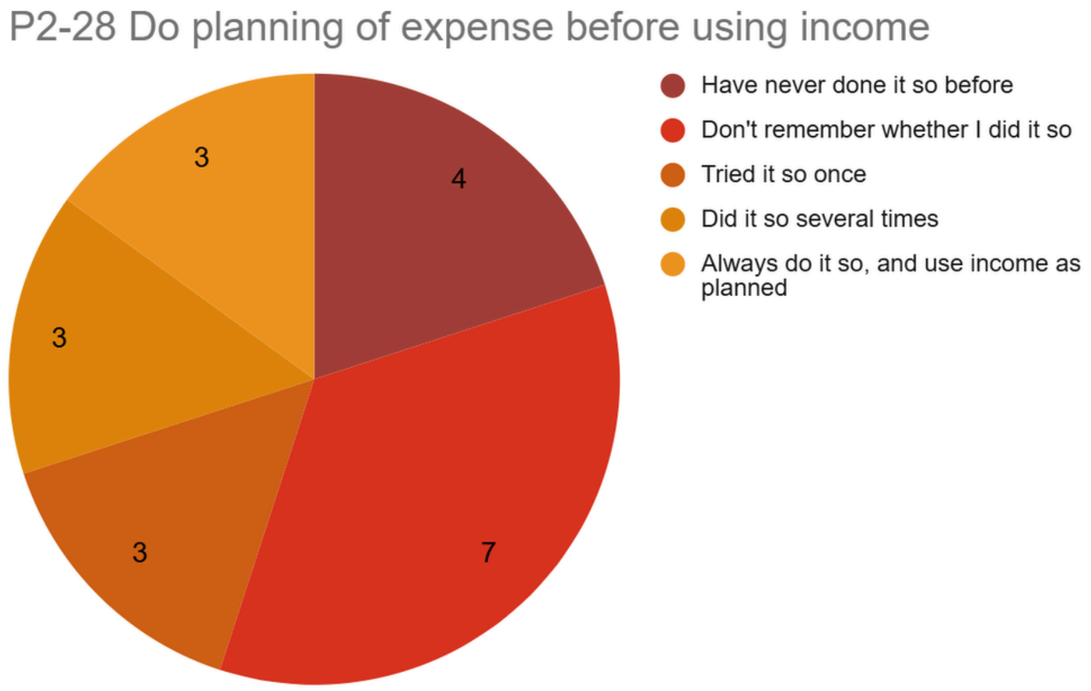


Part 2: 28
家計のやりくり

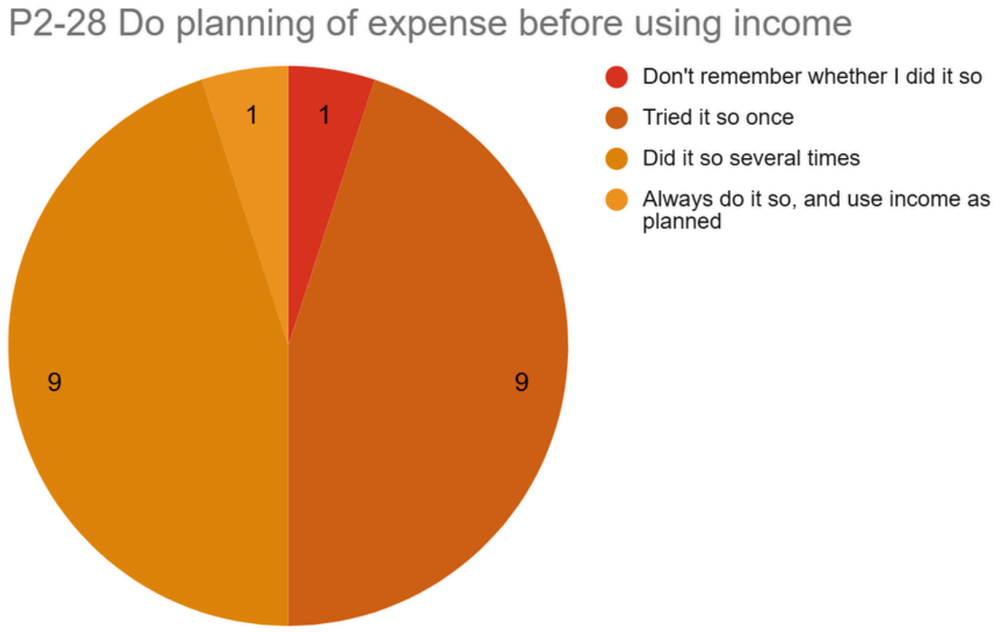
各家庭の経済状況について

収入を使う前に支出の計画を立てた経験がある人は、開始時の45%から終了時には95%に増えました。
一方、「いつも計画を立て、計画どおりに使う」と回答した人は、15%から5%に減りました。

ベースライン



エンドライン



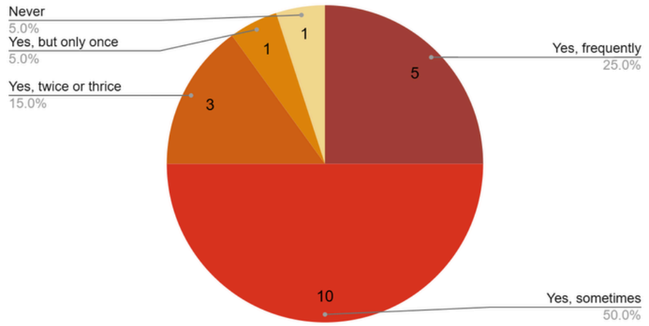
Part 2: 29,30
家計のやりくり

各家庭の経済状況について

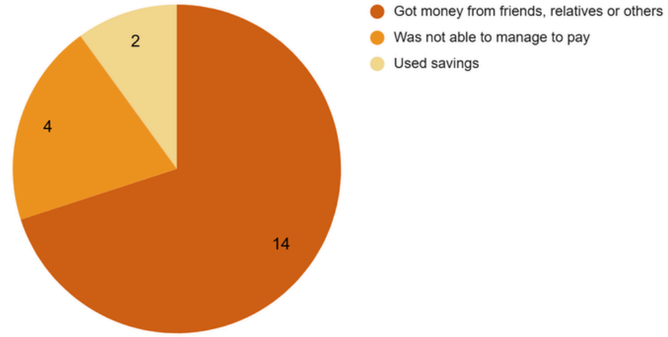
過去1年間に、食料品など家族の生活必需品を購入するため、他者に助けを求めた頻度について、
エンドライン調査時には20人全員が「頻繁に」と回答しました。
また、過去1年間の大きな支出に対し、友人・親せきなどから資金を得て支払った人は、
ベースライン調査時の70%からエンドライン調査時には100%になりました。

ベースライン

P2-29 In the past year, have you asked for help from others to pay for the basic needs of your family such as food?

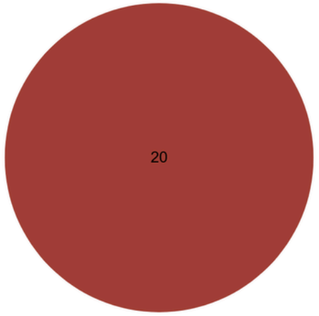


P2-30 How did you pay for the large expense this past year? (funeral, wedding etc)

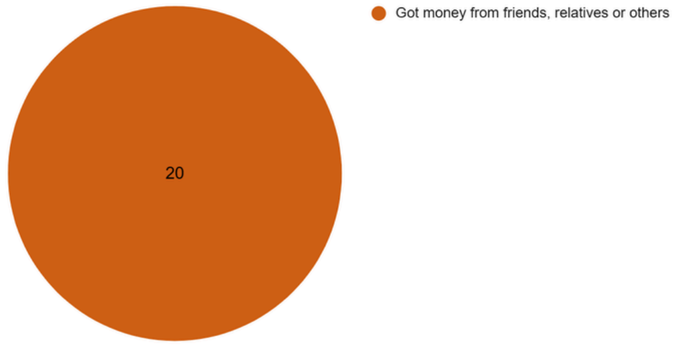


エンドライン

P2-29 In the past year, have you asked for help from others to pay for the basic needs of your family such as food?



P2-30 How did you pay for the large expense this past year? (funeral, wedding etc)



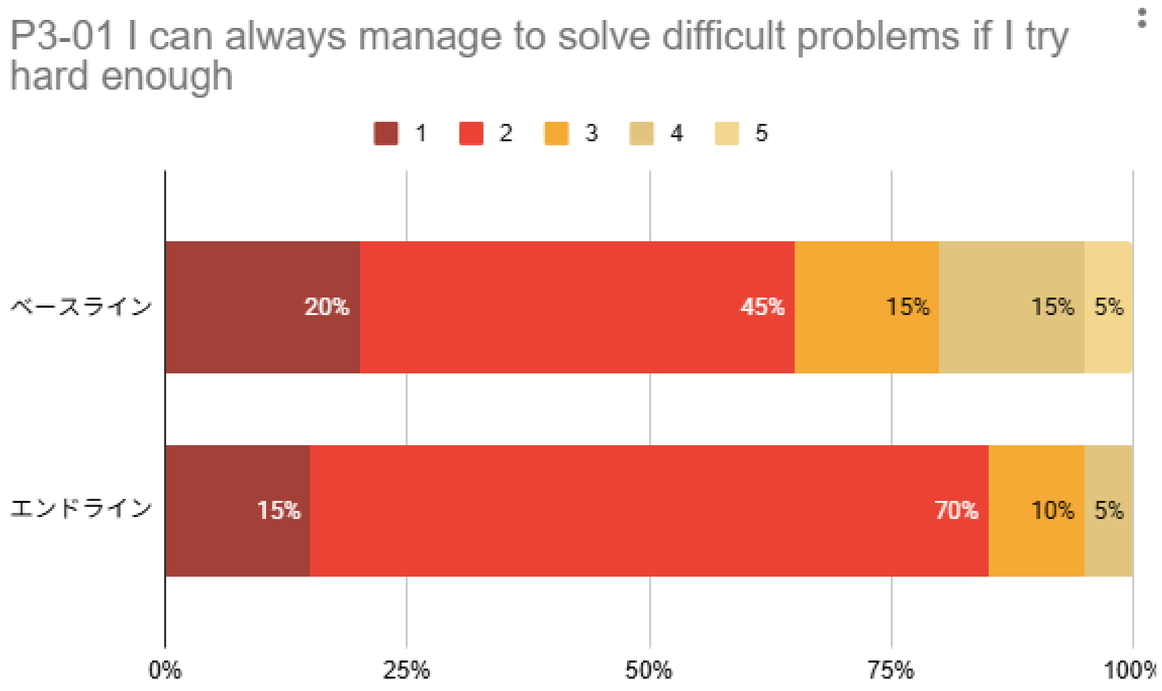
PART 3

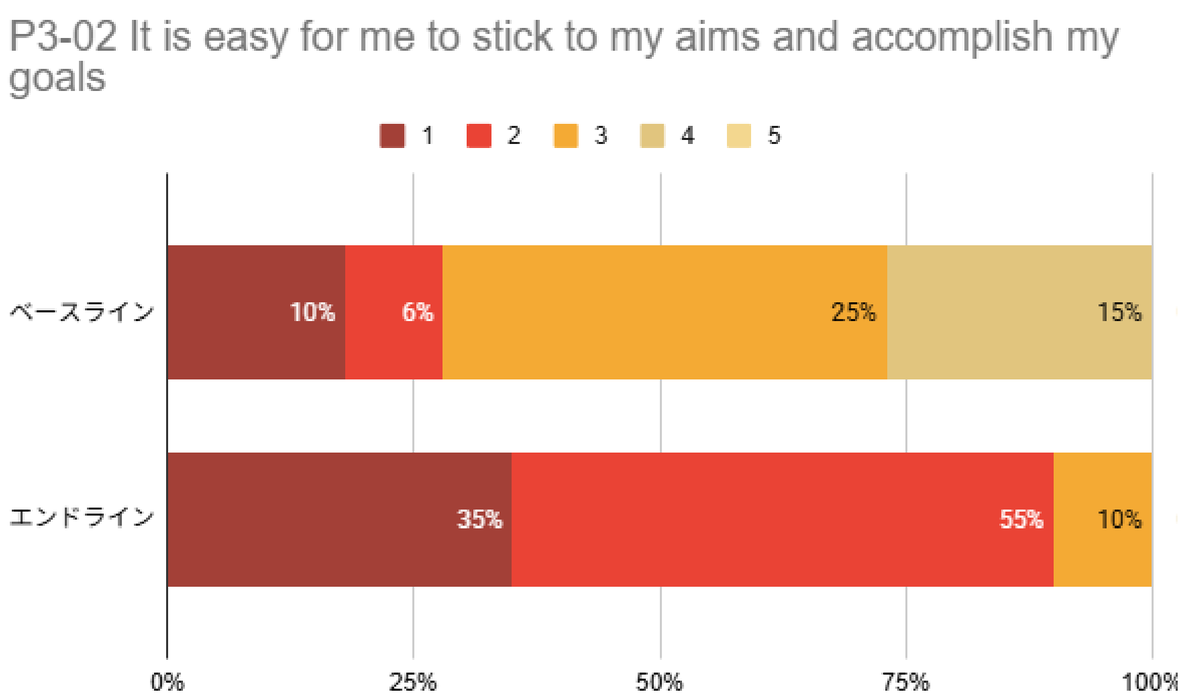
自己効力感と自己肯定感について

Part 3: 01,02
自己効力感

自己効力感と自己効力感について

努力すれば難しい問題も解決できると思うかについては、「まったくそう思わない」
「少しそう思う」を選んだ人が65%を占めていましたが、エンドライン時には85%に増加しました。
また、「自分が立てた目標を達成できると思う」という設問でも、肯定的な回答が減少し、
「まったくそう思わない」と回答した人の割合が10%から35%に増加しました。
いずれの設問でも、終了時には自分の力や目標達成に対する自信が低い回答に偏る傾向が見られました。



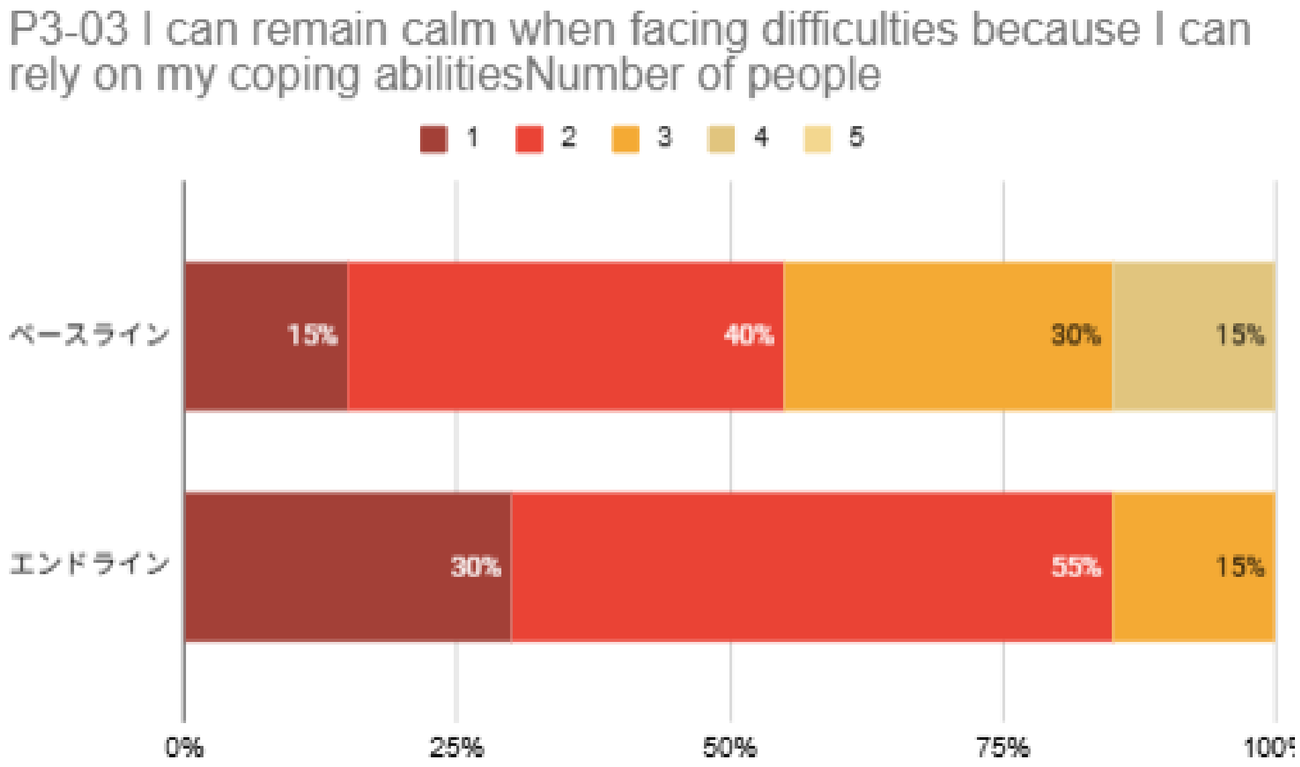


Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 3: 03
自己効力感

自己効力感と自己効力感について

「困難な時に冷静でいられる」という設問については、
「まったくそう思わない」と「少しそう思う」と回答した人の割合がベースライン調査時の55%から
エンドライン調査時では85%まで増加しました。また「とても当てはまる」と答えた人も3人から0人に変化しました。

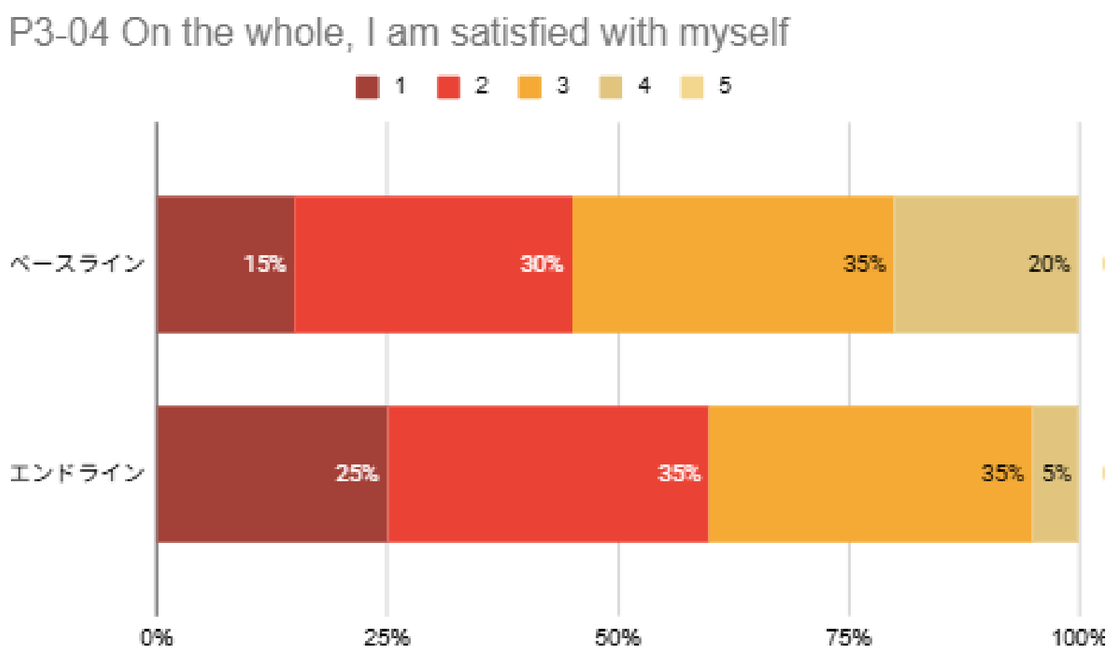


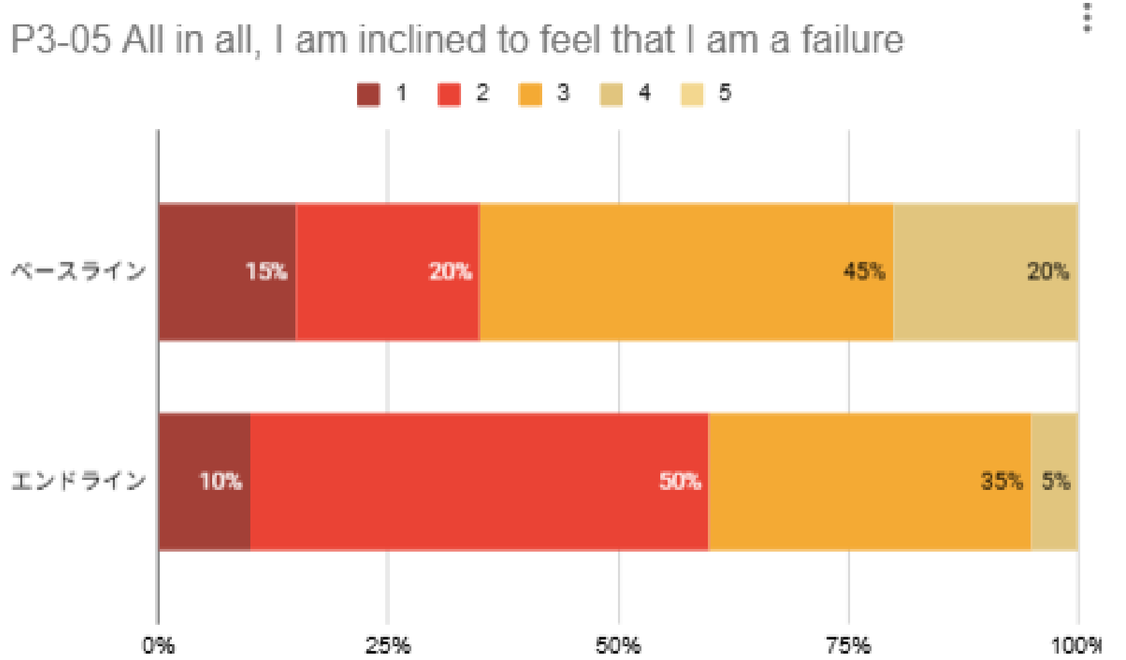
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 3: 04,05
自己肯定感

自己効力感と自己効力感について

自分自身に満足しているかという設問では、「とてもそう思う」と回答した人が4人から1人に減少し、
「まったくそう思わない」「少しそう思う」と回答した人の割合は45%から60%に増加しました。
一方「自分はダメな人間だと思うことがある」という設問では、「とてもそう思う」と回答した人が4人から1人に減少し、
「まったくそう思わない」「少しそう思う」と回答した人の割合が35%から60%に増加しました。
自分自身への満足度が低い回答が増えた一方で、
自分をダメな人間だと捉える傾向は弱まるなど、2つの設問では異なる変化が見られました。



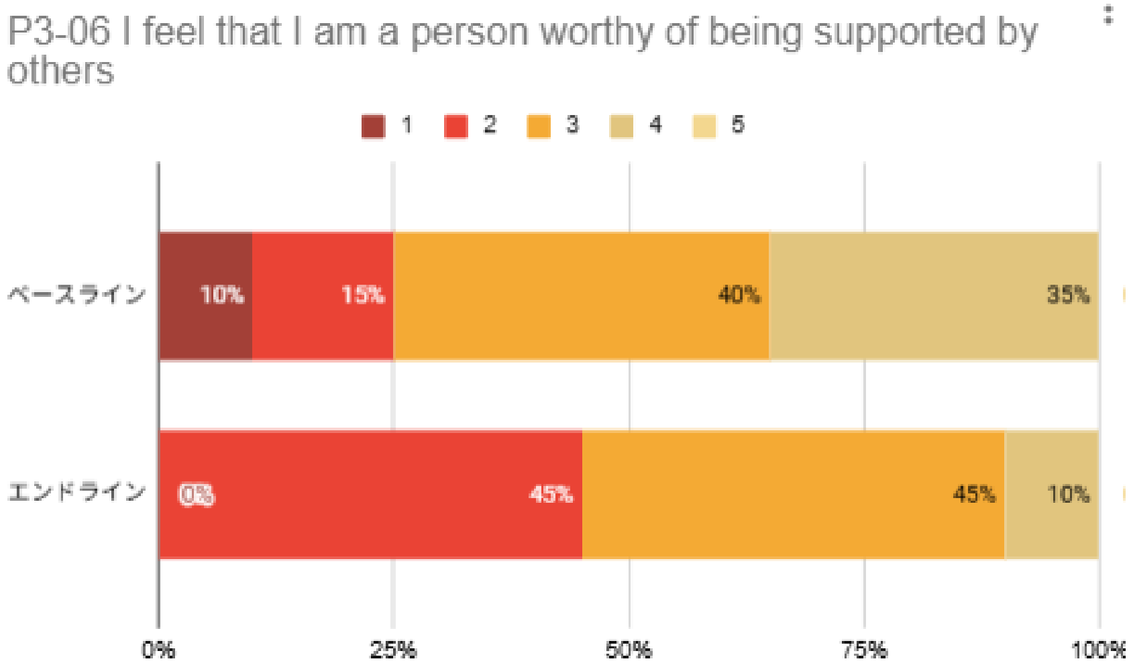


Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 3: 04,05
自己肯定感

自己効力感と自己効力感について

「自分は周りから支えられるに値する人間だと思う」という設問では、
「とてもそう思う」と回答した割合が35%から10%に減少し、「少しそう思う」は15%から45%に増加しました。
一方、「まったくそう思わない」は10%から0%に減少しました。
全体として、強く肯定する回答が減り、肯定の程度が弱い回答が増える傾向が見られました。



Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

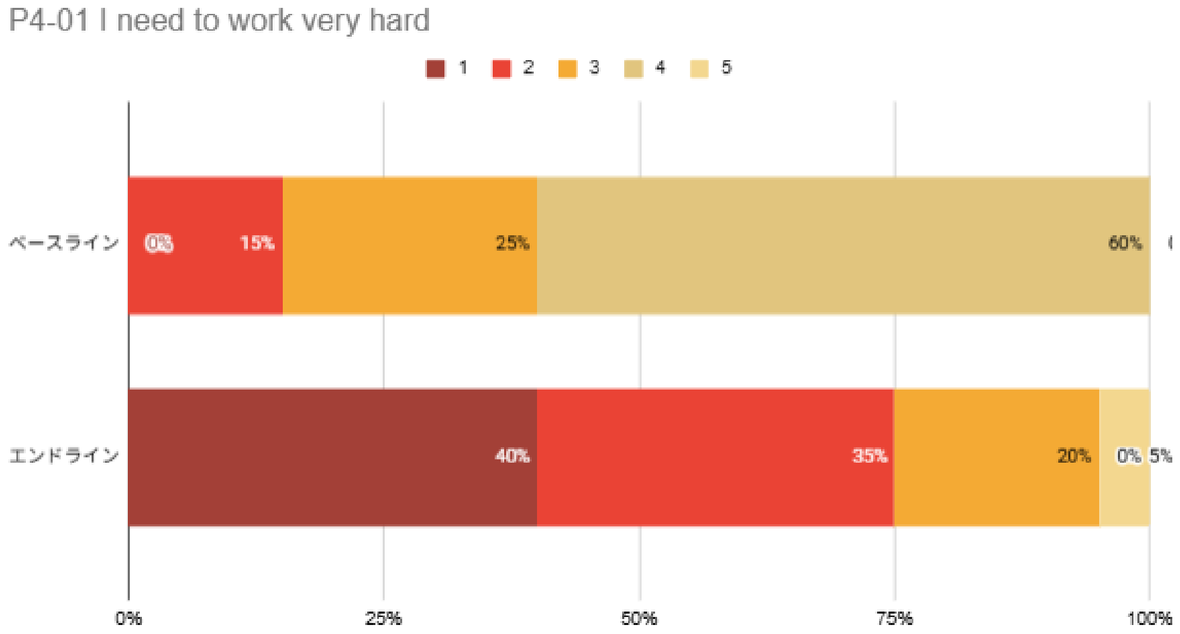
PLAS

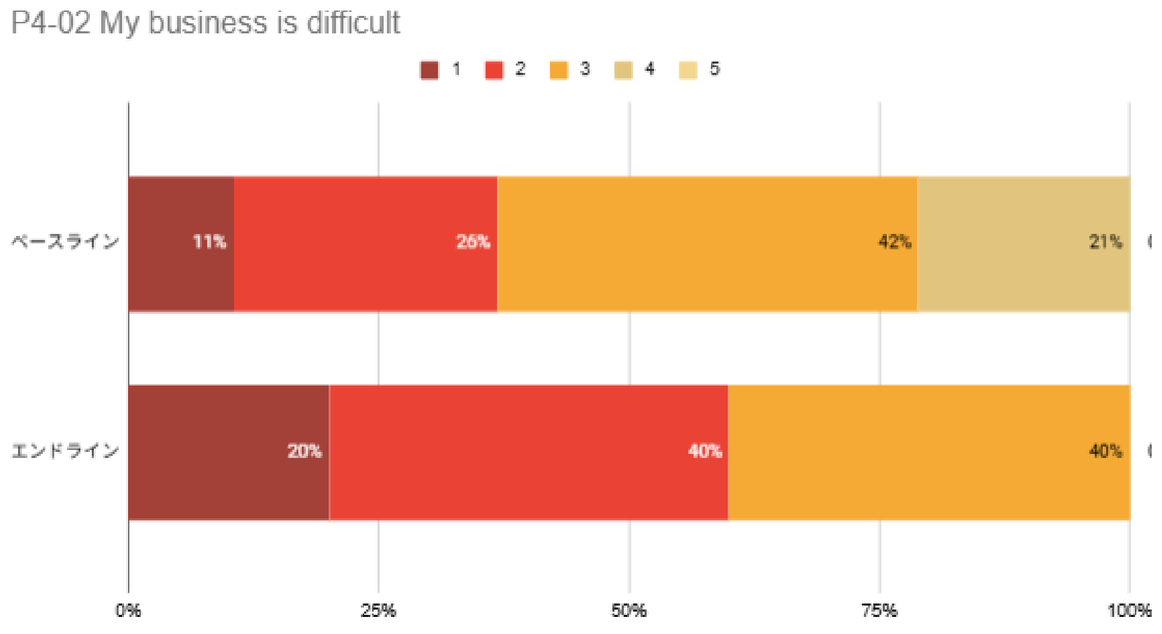
PART 4
仕事に関する考え方とストレス

Part 4: 01,02
仕事に関する考え方

仕事に関する考え方とストレス

「一生懸命働く必要がある」という設問では、「とてもそう思う」と回答した割合が60%から0%に減少し、
「まったくそう思わない」「少しそう思う」の合計は15%から75%に増加しました。
一方、「自分の仕事は難しい」という設問では、「とてもそう思う」と回答した割合が約21%から0%に減少し、
「まったくそう思わない」「少しそう思う」の合計は約37%から60%に増加しました。
仕事に対する考え方に変化が見られ、仕事を難しいと強く感じる回答は減少しました。
ただし、こうした変化の背景については、今回の結果だけでは判断できません。



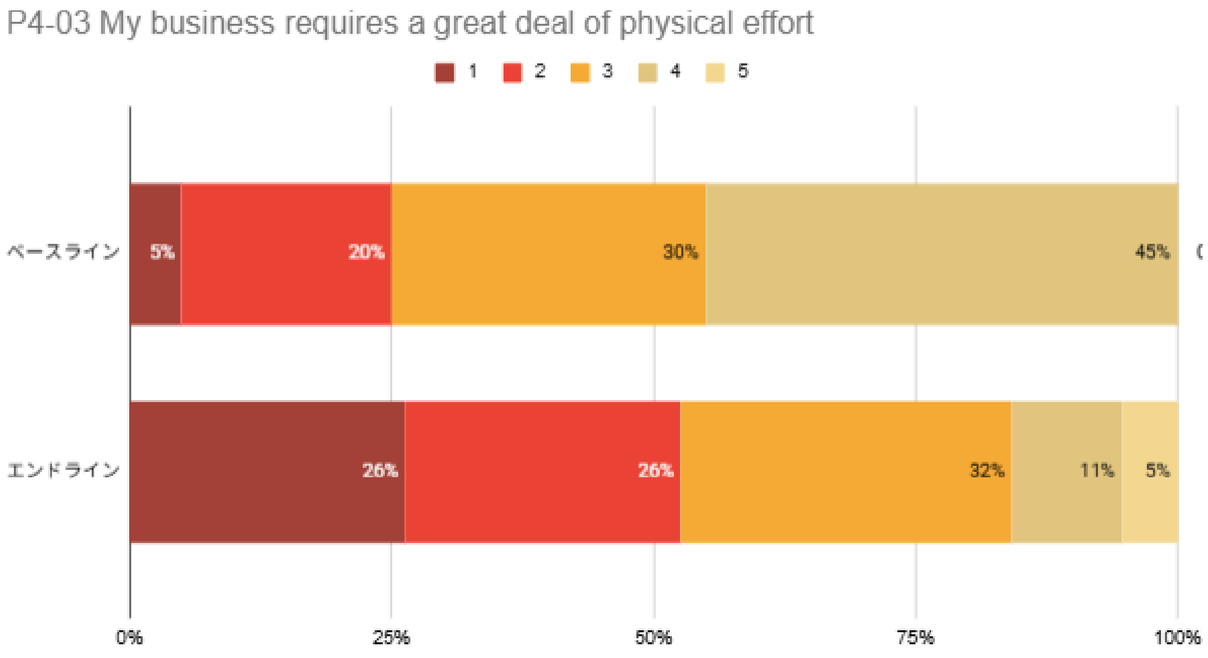


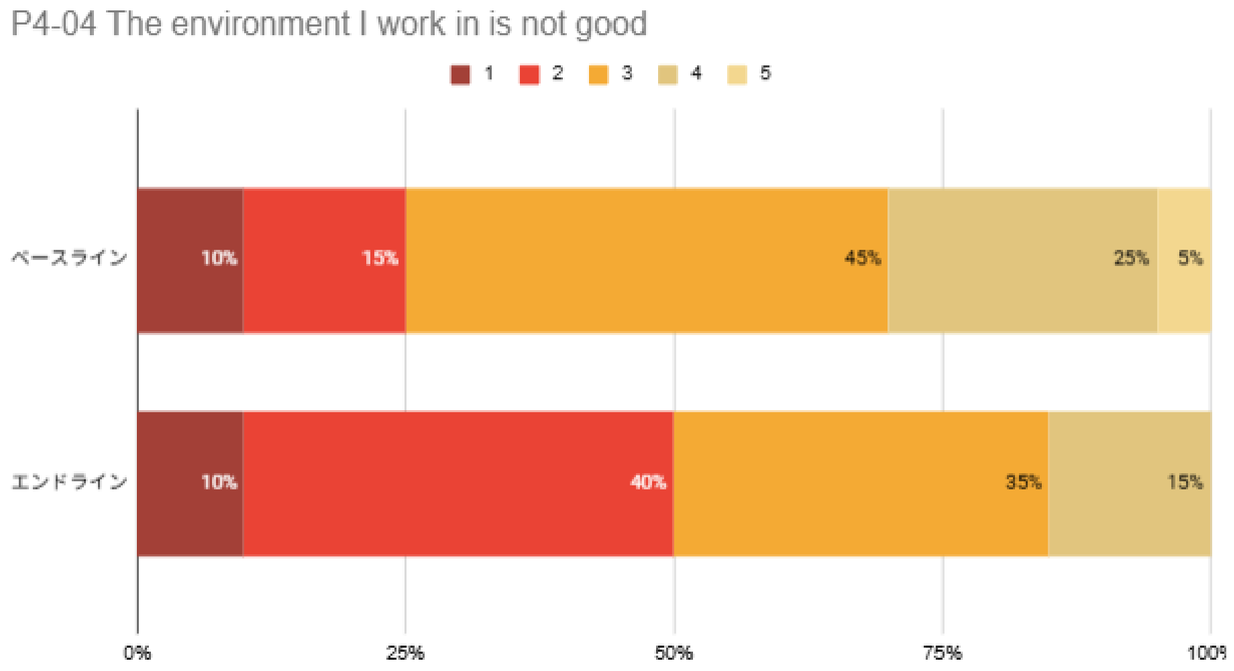
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 03,04
仕事に関する考え方

仕事に関する考え方とストレス

「自分の仕事には多大な体力が必要だと思う」という設問では、「とてもそう思う」と回答した割合が45%から約11%に減少し、「まったくそう思わない」「少しそう思う」の合計は25%から約52%に増加しました。
また、「仕事をする環境がよくない」という設問では、
「とてもそう思う」「非常に強くそう思う」の合計が30%から15%に減少しました。
いずれの設問でも、仕事の身体的な負担や労働環境の悪さを強く感じる回答が減少する傾向が見られました。



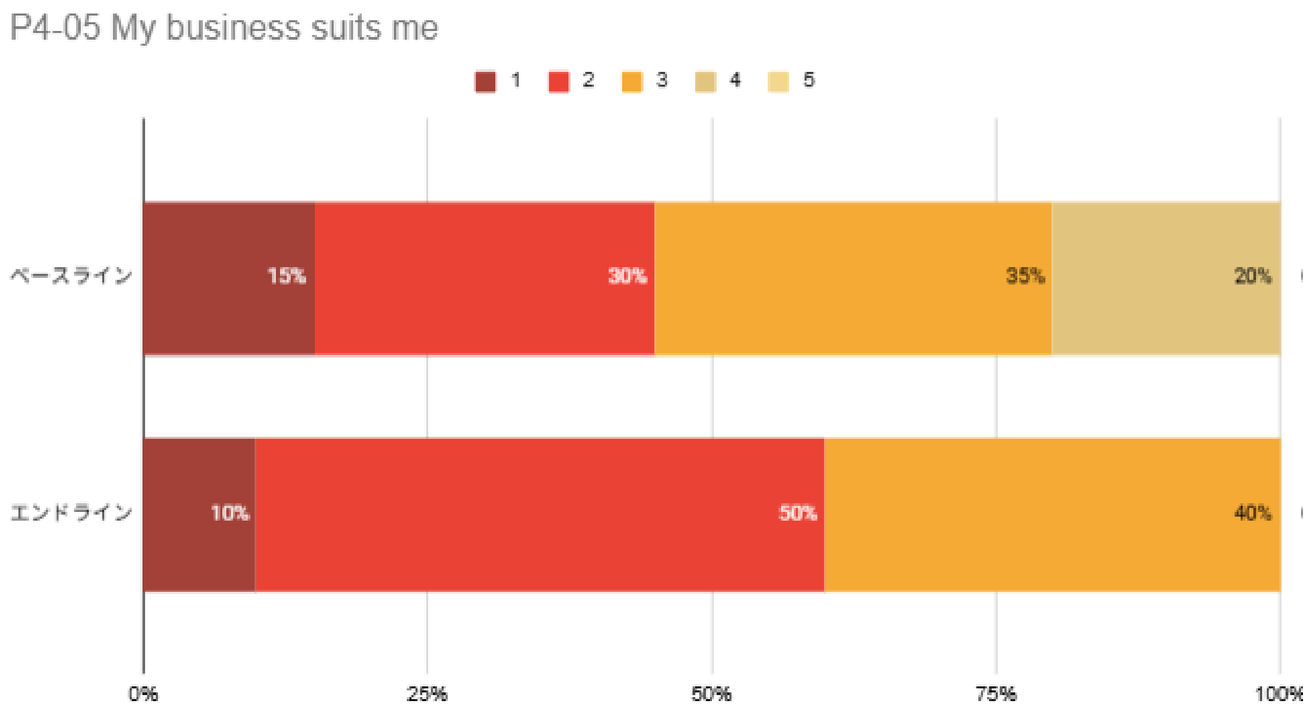


Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 05
仕事に関する考え方

仕事に関する考え方とストレス

「今の仕事が自分に合っている」という設問では、
「とてもそう思う」と回答した割合が20%から0%に減少しました。
一方、「少しそう思う」「ある程度そう思う」と回答した割合の合計は65%から90%に増加しました。
仕事が自分にとても合っていると強く感じる回答は減少し、
エンドラインでは肯定の程度が比較的弱い回答に集中する結果となりました。

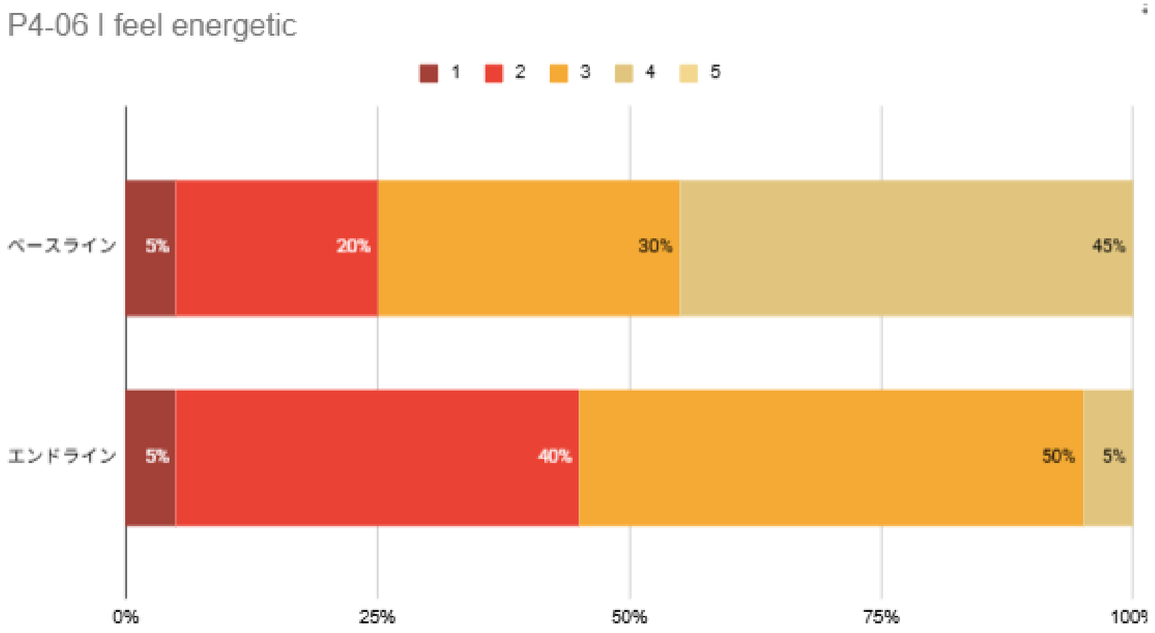


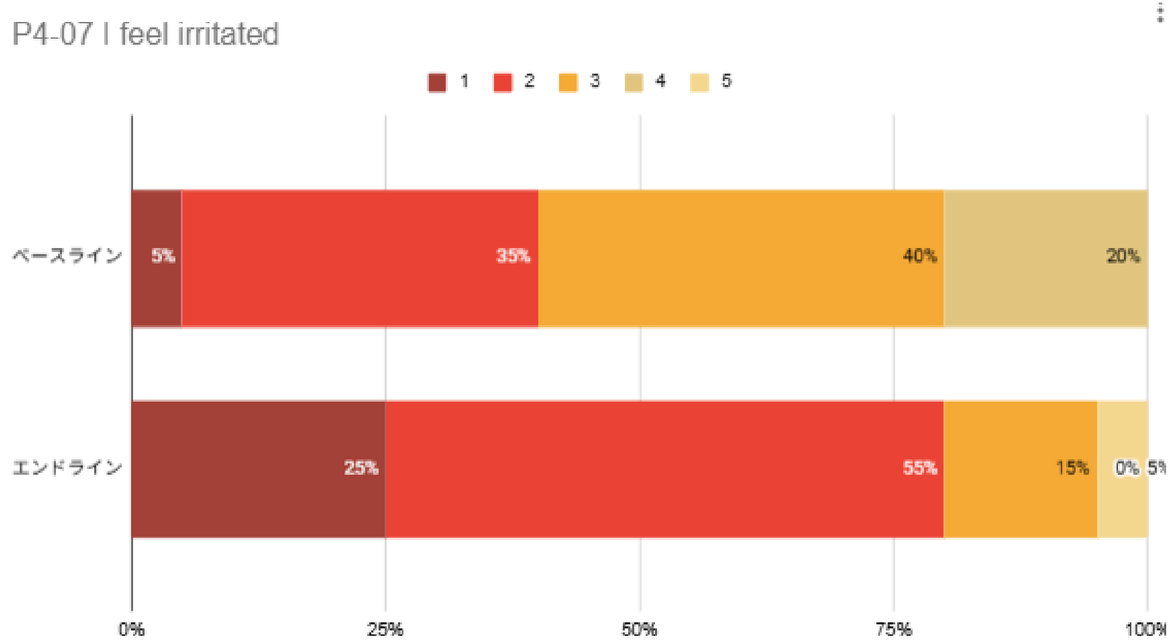
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 06,07
ストレスレベル

仕事に関する考え方とストレス

「活力があると感じる」という設問では、「とてもそう思う」と回答した割合が45%から5%に減少し、
「少しそう思う」「ある程度そう思う」の合計は50%から90%に増加しました。
一方、「イライラを感じる」という設問では、
「まったくそう思わない」「少しそう思う」の合計が40%から80%に増加しました。
活力を強く感じる回答が減少した一方で、イライラを感じる程度が弱い回答は増加しており、
仕事に関するストレスの感じ方には異なる変化が見られました。



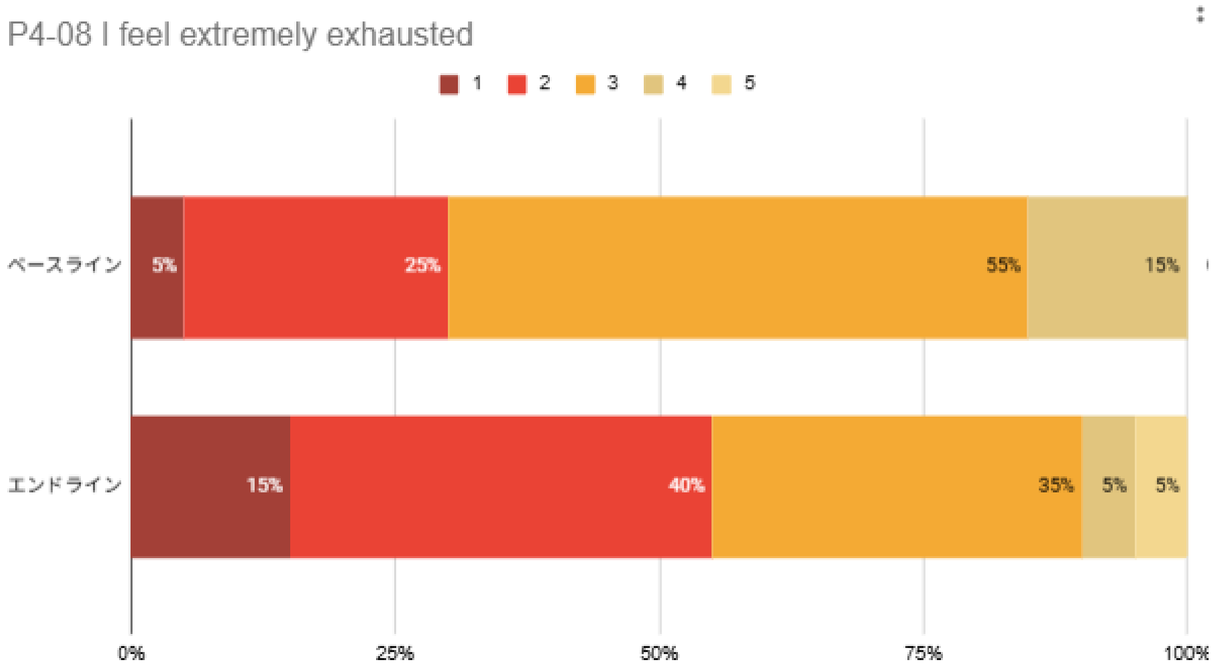


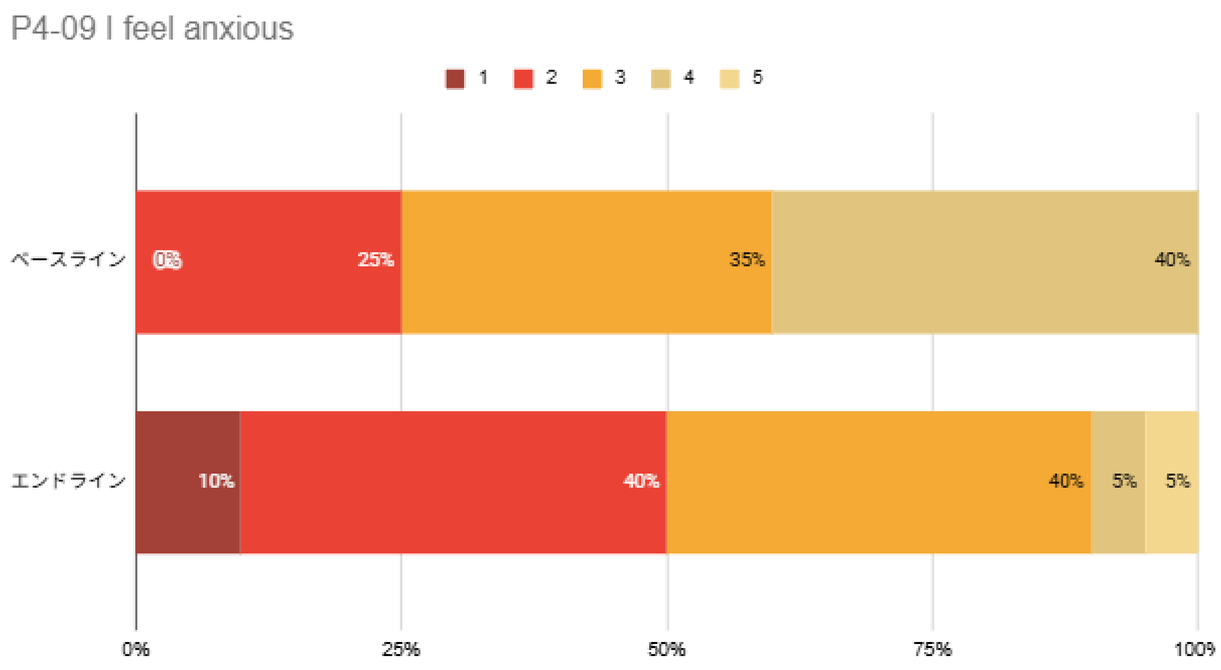
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 08,09
ストレスレベル

仕事に関する考え方とストレス

「極度の疲労を感じる」という設問では、「まったく当てはまらない」「少し当てはまる」と回答した人の割合が、ベースライン調査時の30%からエンドライン調査時には55%に増えました。
「不安を感じる」という設問でも、同じ回答の合計がベースライン調査時の25%からエンドライン調査時には50%に増えました。両設問で、疲労や不安を感じる程度が弱い回答が増える傾向が見られました。



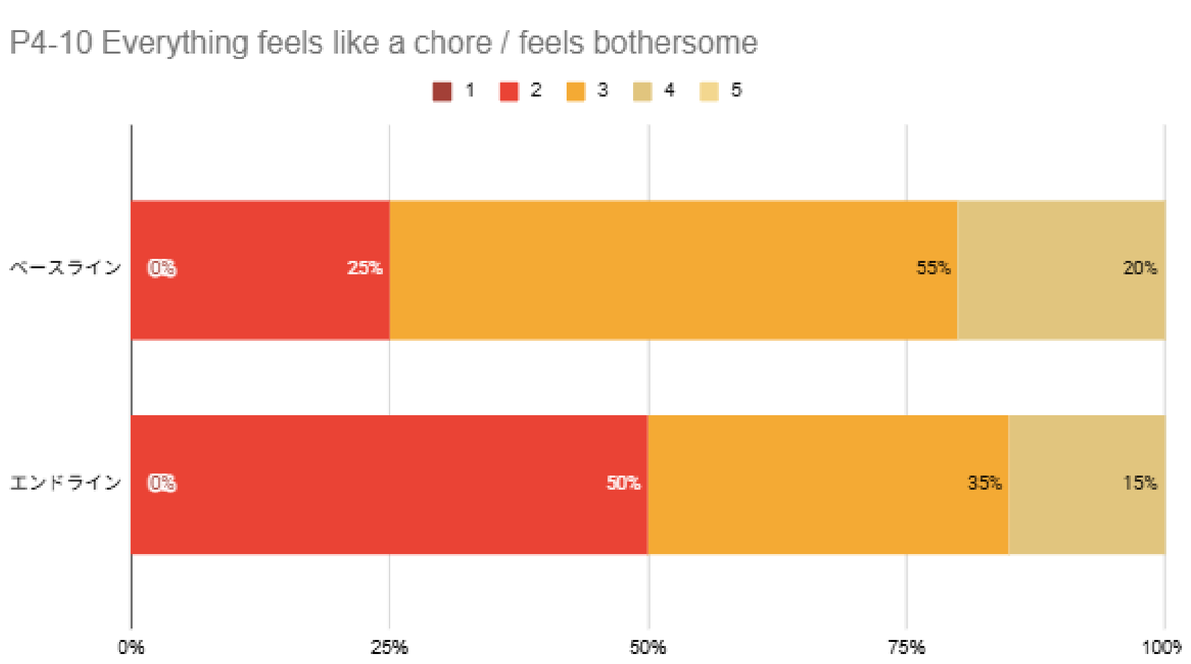


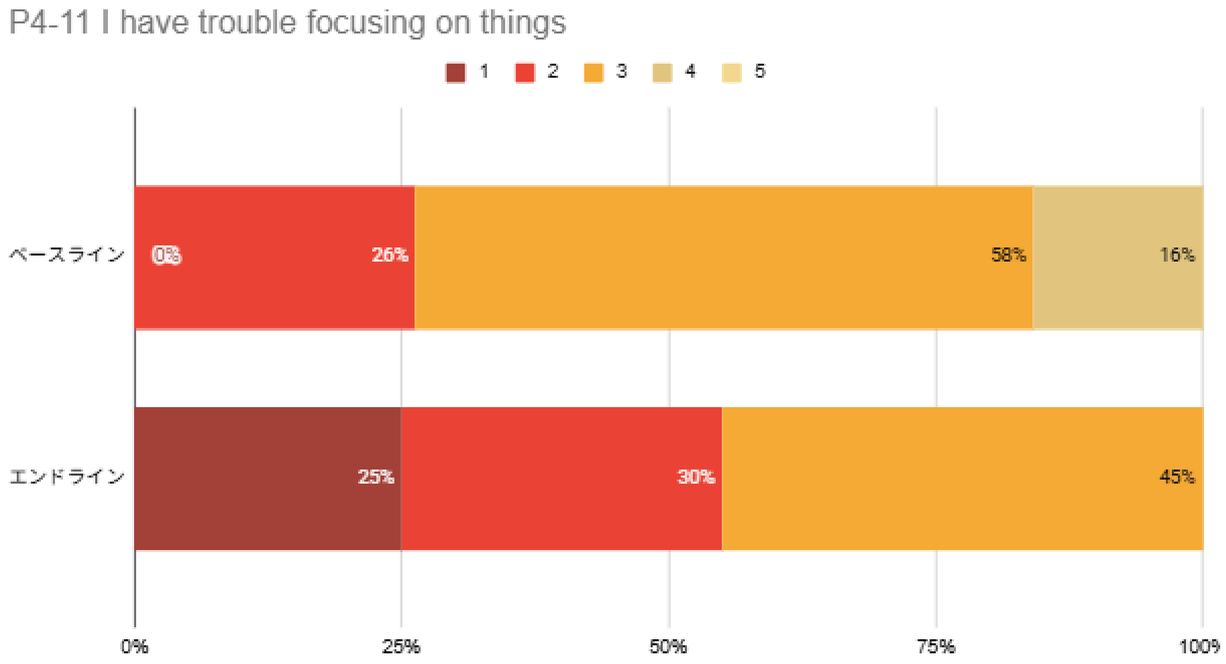
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 10,11
ストレスレベル

仕事に関する考え方とストレス

「何もかも面倒に感じる」という設問では、「少し当てはまる」と回答した人の割合が、ベースライン調査時の25%から
エンドライン調査時には50%に増えました。面倒だと感じる程度が弱い回答が増える傾向が見られました。
「物事に集中するのが難しい」という設問では、「まったく当てはまらない」「少し当てはまる」の合計が、
ベースライン調査時の約26%からエンドライン調査時には55%に増えました。
集中の難しさを感じる程度が弱い回答が増える傾向が見られました。



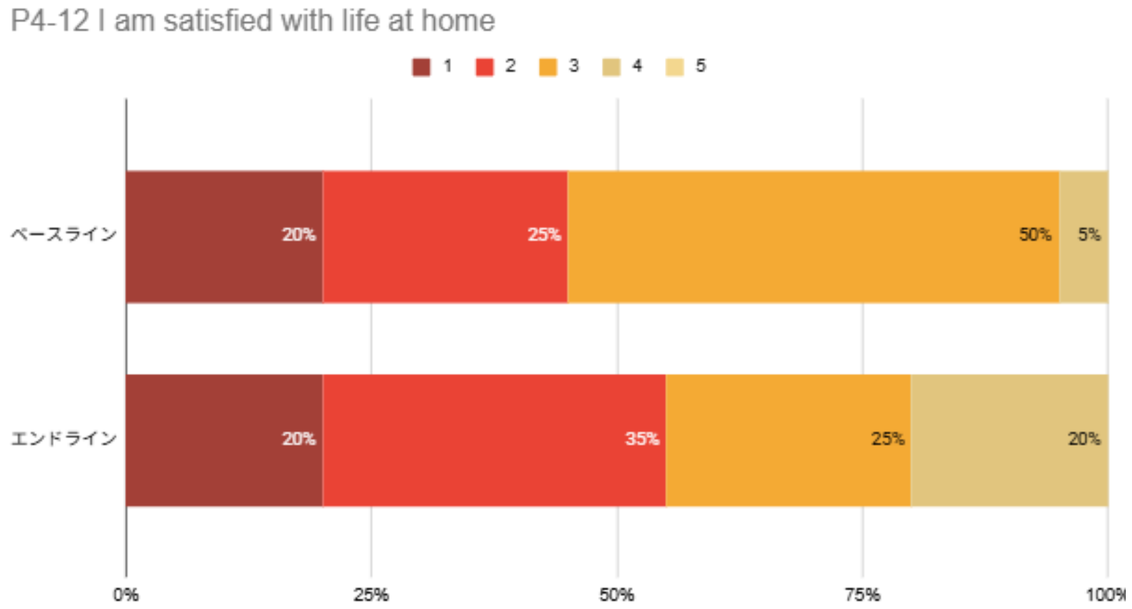


Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

Part 4: 12
ストレスレベル

仕事に関する考え方とストレス

「家庭での生活に満足している」という設問については、「全く満足していない」と回答した人の割合は、
ベースライン調査時、エンドライン調査時ともに20%でした。
一方「まあまあ満足している」と回答した人の割合は50%から25%に減少し、
「少し満足している」と回答した人の割合は25%から35%に増加しました。
また、「非常に満足している」と回答した人の割合は5%から20%に増加しました。
回答の分布に変化が見られ、満足度が低下した人もいる一方で、最も高い満足度を示す回答も増加しました。



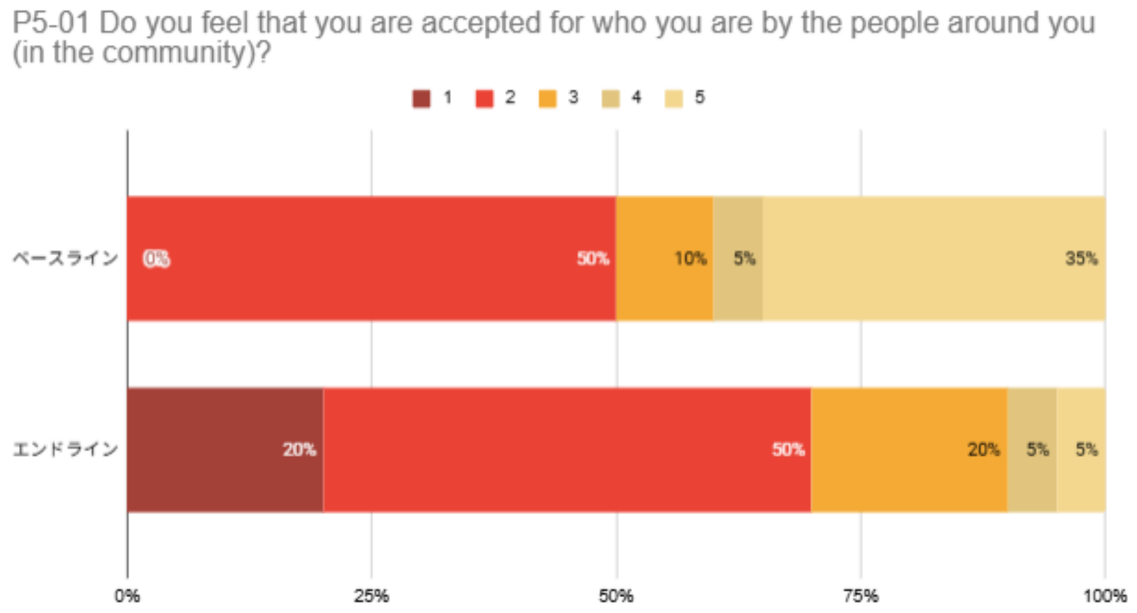
Scale : 1. Not at all　2. Slightly　3. Somewhat　4. Very true　5. Extremely true

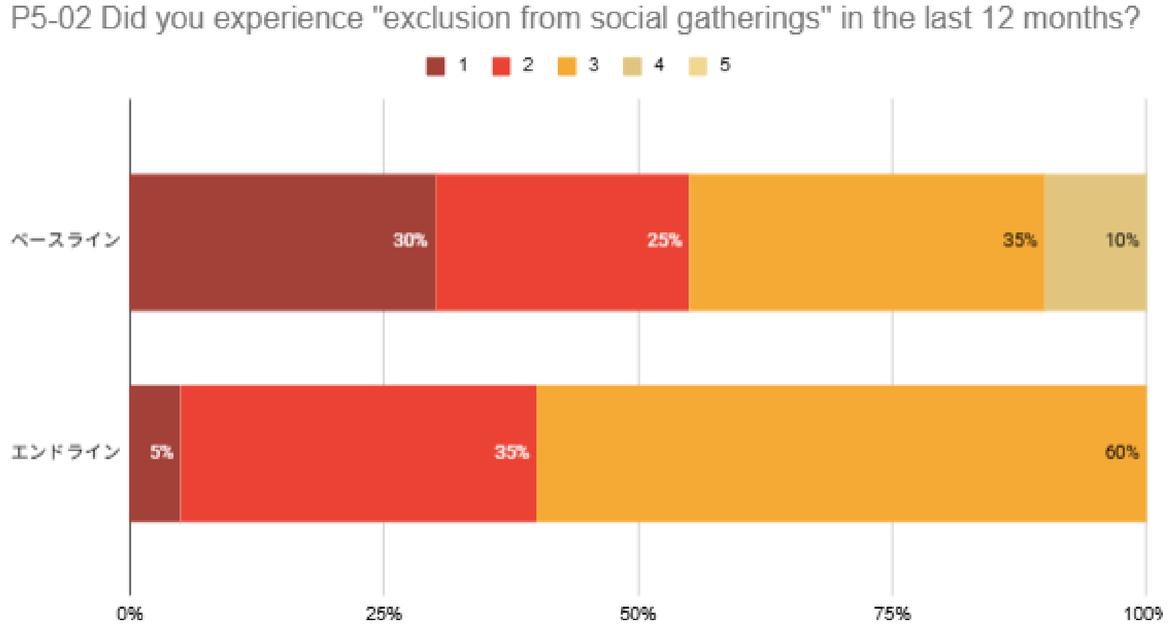
PART 5
HIVとスティグマについて

Part 5: 01,02
社会参加

HIVとスティグマについて

「周囲の人々にありのままの自分を受け入れてもらえていると感じる」という設問については、「まったく感じない」と回答した人の割合がベースライン調査時の0%からエンドライン調査時には20%に増加しました。また、「いつも感じる」と回答した人の割合は35%から5%に減少し、周囲から受け入れられているという実感が低下する傾向が見られました。一方、「過去12か月間に社会的な集まりから排除された経験がある」という設問については、「一度もない」と回答した人の割合が30%から5%に減少しました。また、「時々ある」と回答した人の割合は35%から60%に増加しており、社会的な集まりから排除された経験が増加する傾向が見られました。



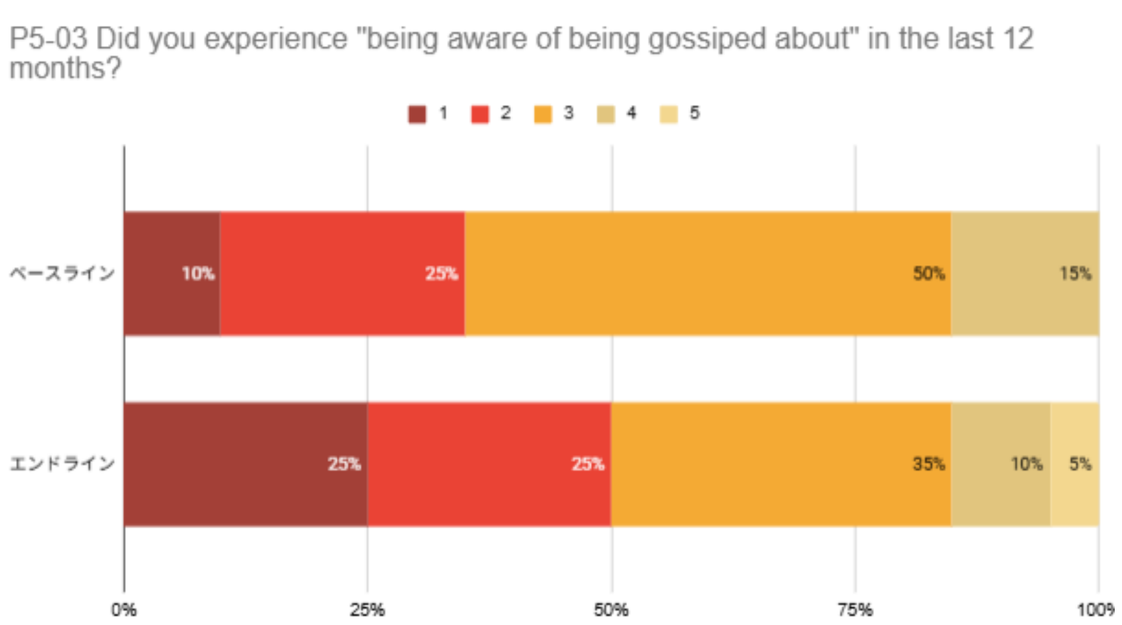


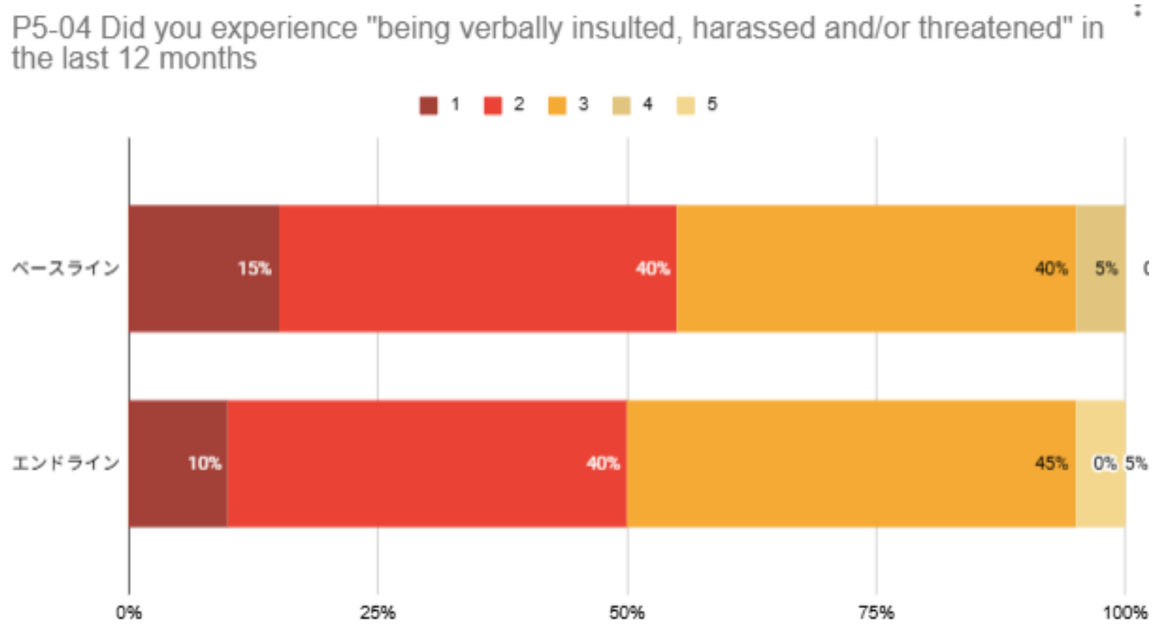
Scale : 1.Never　2.Rarely　3.Sometimes　4.Often　5.Always

Part 5: 03,04
侮辱や嫌がらせ

HIVとスティグマについて

「周囲から自分について噂話をされた経験がある」という設問については、
「一度もない」と回答した人の割合がベースライン調査時の10%からエンドライン調査時には25%に増加しました。
一方「時々ある」と回答した人の割合は50%から35%に減少しましたが、「いつもある」と回答した人の割合は0%から5%に増加しました。また、「言葉による侮辱、嫌がらせ、脅迫を受けた経験がある」という設問については、
「一度もない」と回答した人の割合が15%から10%に減少しました。
「時々ある」と回答した人の割合は40%から45%に増加しており、こうした経験が引き続き見られることが分かりました。



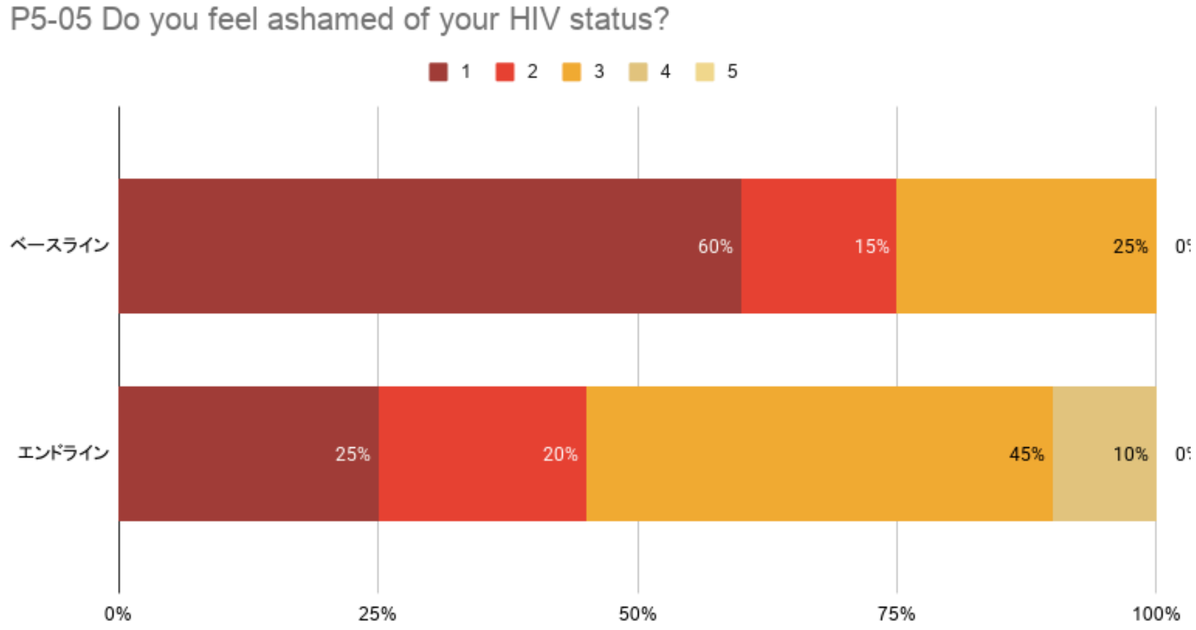


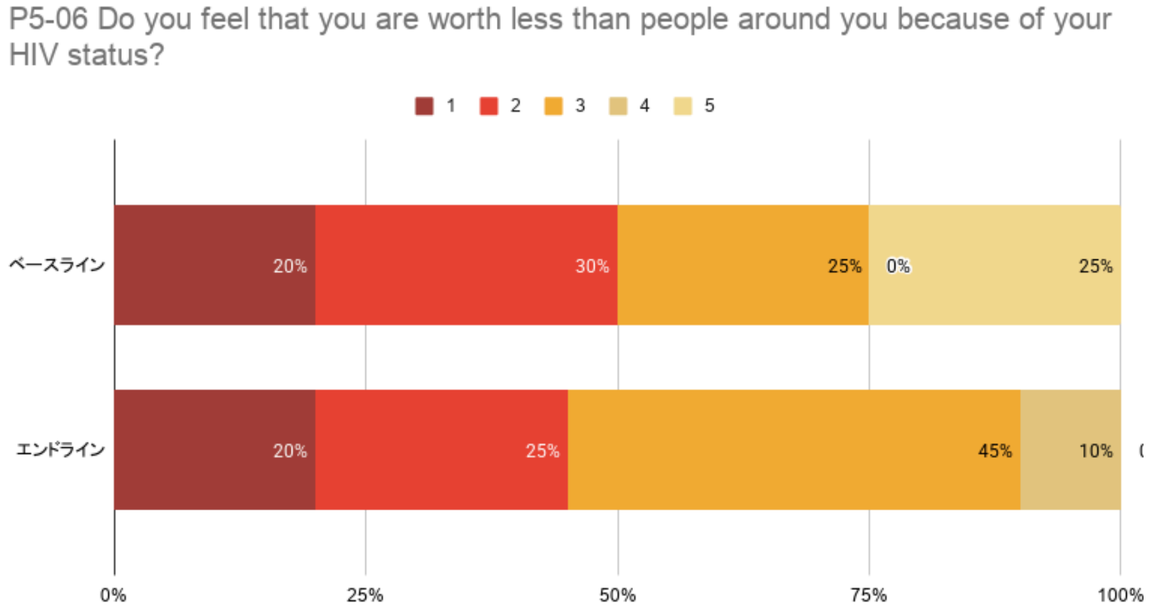
Scale : 1.Never　2.Rarely　3.Sometimes　4.Often　5.Always

Part 5: 05,06
自己肯定感

HIVとスティグマについて

「自分のHIV感染状況を恥ずかしく思う」という設問については、「一度も感じない」と回答した人の割合がベースライン調査時の60%からエンドライン調査時には25%に減少しました。一方、「時々感じる」と回答した人の割合は25%から45%に増加し、「よく感じる」と回答した人も0%から10%に増加しました。
また、「HIV陽性者であることを理由に、周囲の人よりも自分の価値が低いと感じる」という設問については、「いつも感じる」と回答した人の割合が25%から0%に減少しました。
一方、「時々感じる」と回答した人の割合は25%から45%に増加しました。



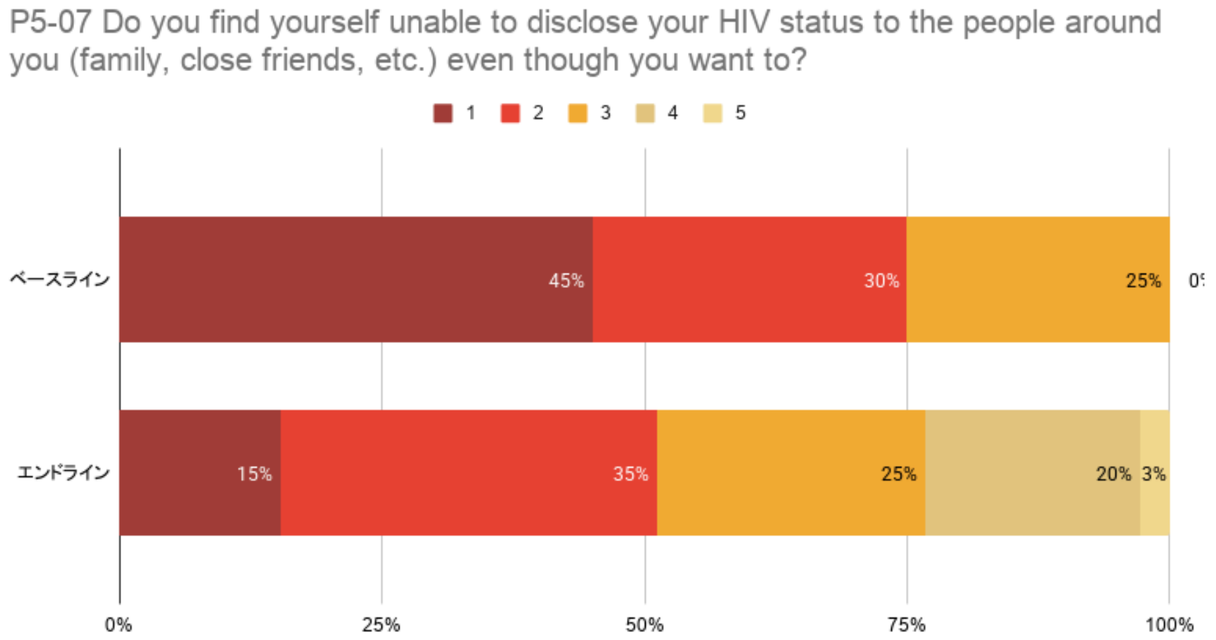


Scale : 1.Never　2.Rarely　3.Sometimes　4.Often　5.Always

Part 5: 07
自己開示

HIVとスティグマについて

「自分のHIV感染状況を周囲の人に伝えたいと思っても、伝えられないことがある」という設問については、
「一度もない」と回答した人の割合がベースライン調査時の45%からエンドライン調査時には15%に減少しました。
一方、「よくある」と回答した人の割合は0%から20%に、「いつもある」と回答した人の割合は
0%から5%に増加しました。これらの結果から、HIV感染状況を周囲に伝えたいと思っても、
伝えられないと感じる経験が増加する傾向が見られました。



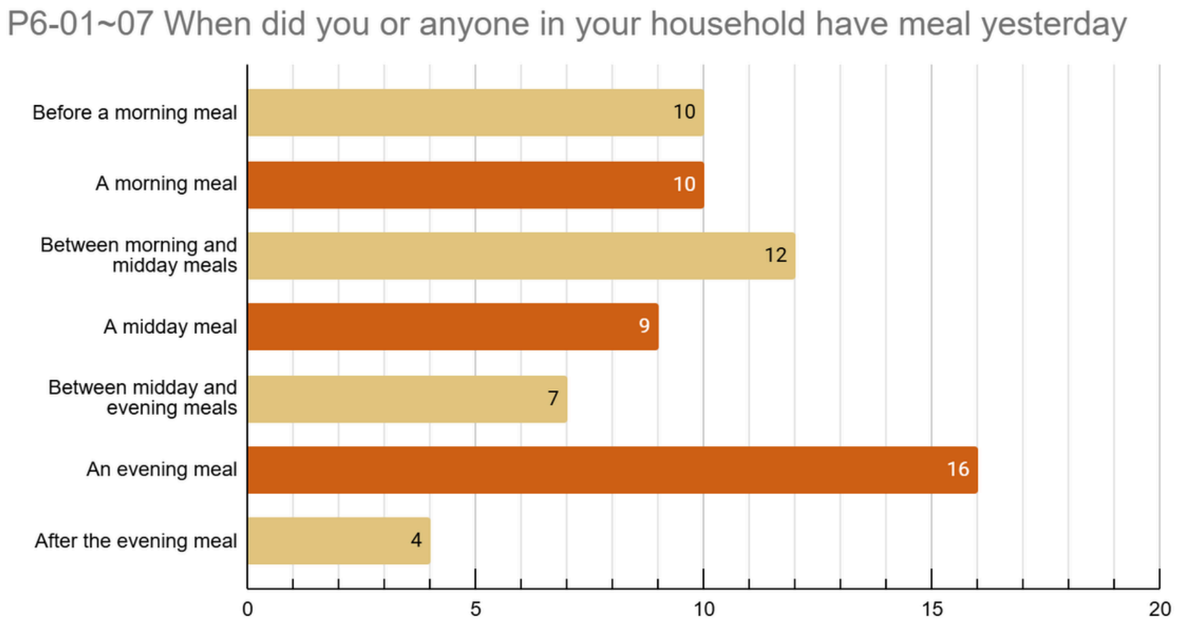
Scale : 1.Never　2.Rarely　3.Sometimes　4.Often　5.Always

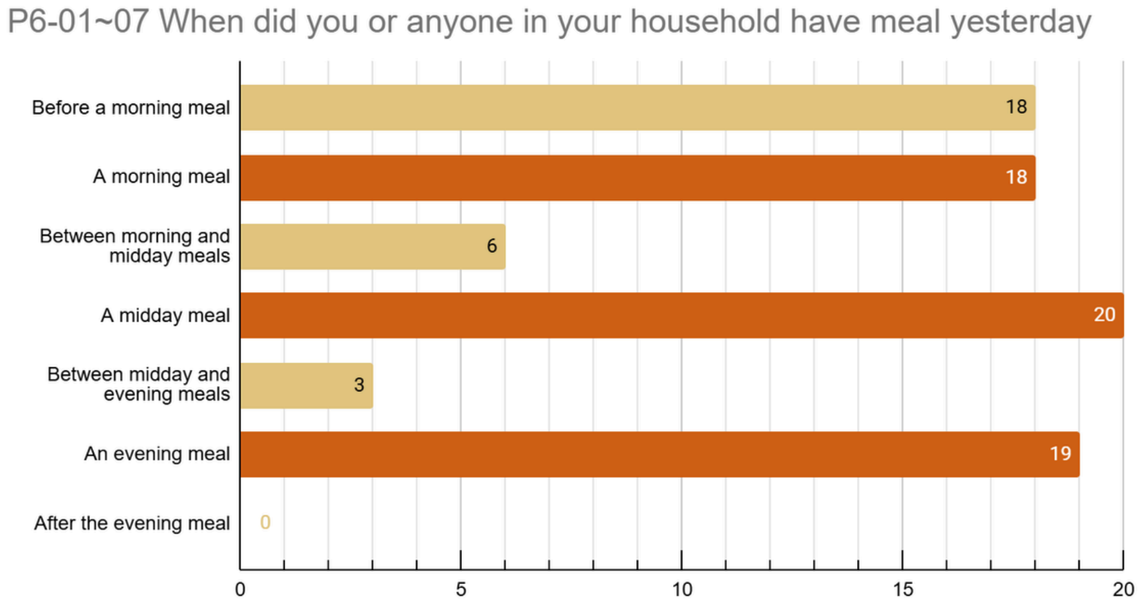
PART 6
栄養状況について

Part 6: 01〜07
食事のタイミング

栄養状況について

食事を取ったタイミングについては、ベースライン調査時には夕食を取った人の割合が80%と最も高かった一方、
エンドライン調査時には昼食を取った人の割合が100%となり、最も高くなりました。
また、朝食を取った人の割合は50%から90%に、夕食を取った人の割合は80%から95%に増加しました。
一方、食事と食事の間に間食を取った人の割合は減少しており、
調査前日の食事では、朝食・昼食・夕食を取った人の割合がいずれも増加していることが分かりました。



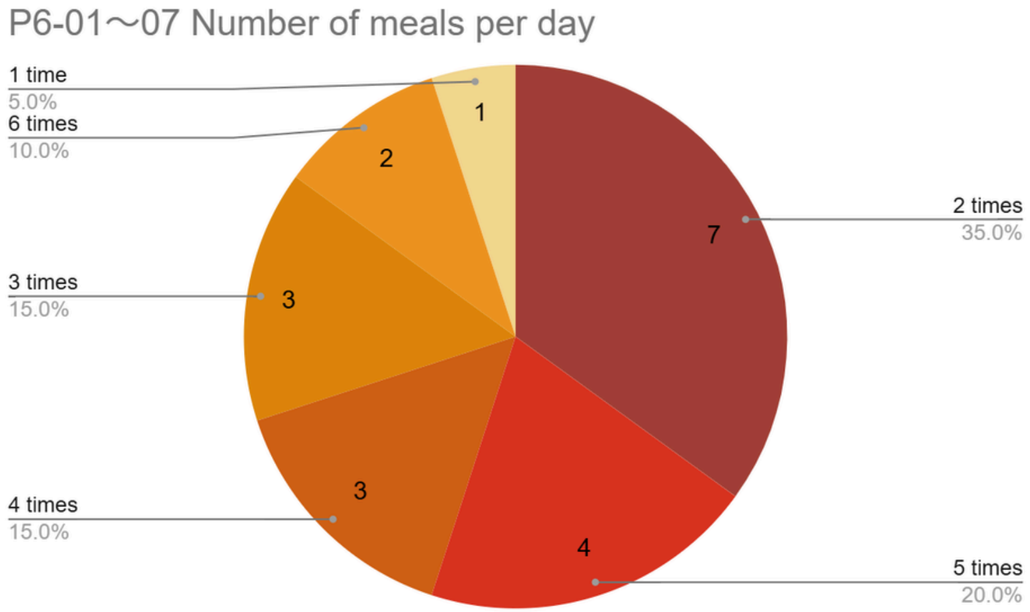


Part 6: 01〜07
食事頻度

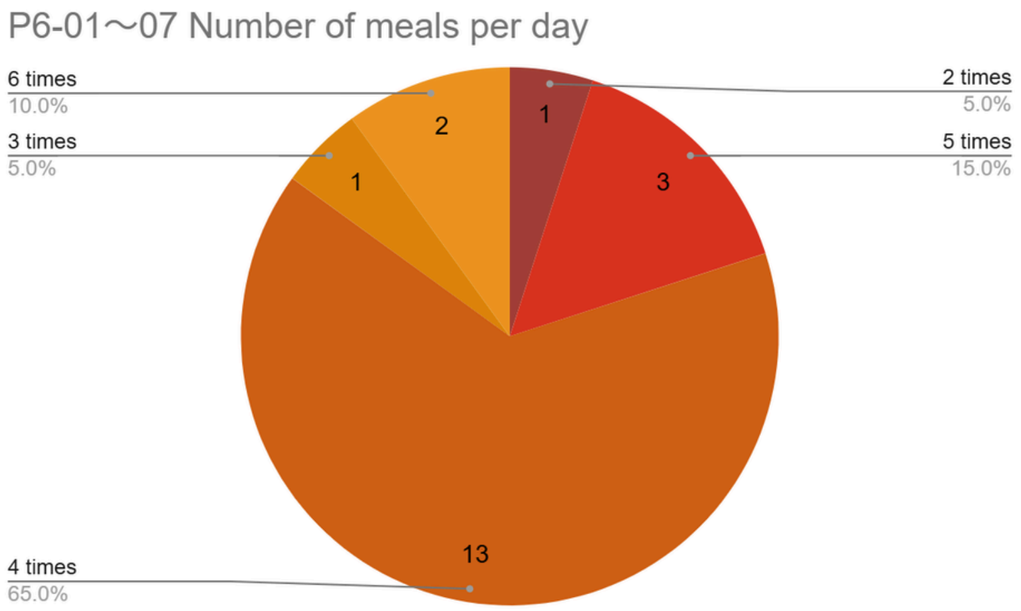
栄養状況について

1日の食事回数については、ベースライン調査時には1日2食が35%と最も多く、
1日3食以上取っている人の割合は60%でした。一方、エンドライン調査時には1日4食が65%と最も多く、
1日3食以上取っている人の割合は95%に増加しました。
これらの結果から、1日の食事回数が増加し、食事頻度に改善が見られました。

ベースライン



エンドライン

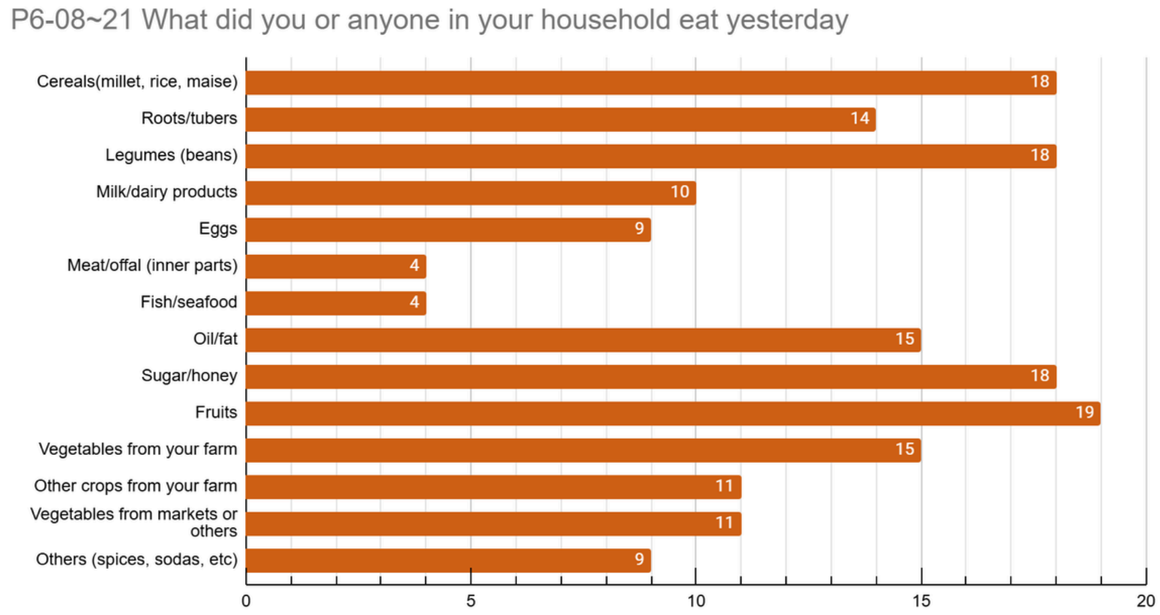


Part 6: 08〜21
食事内容

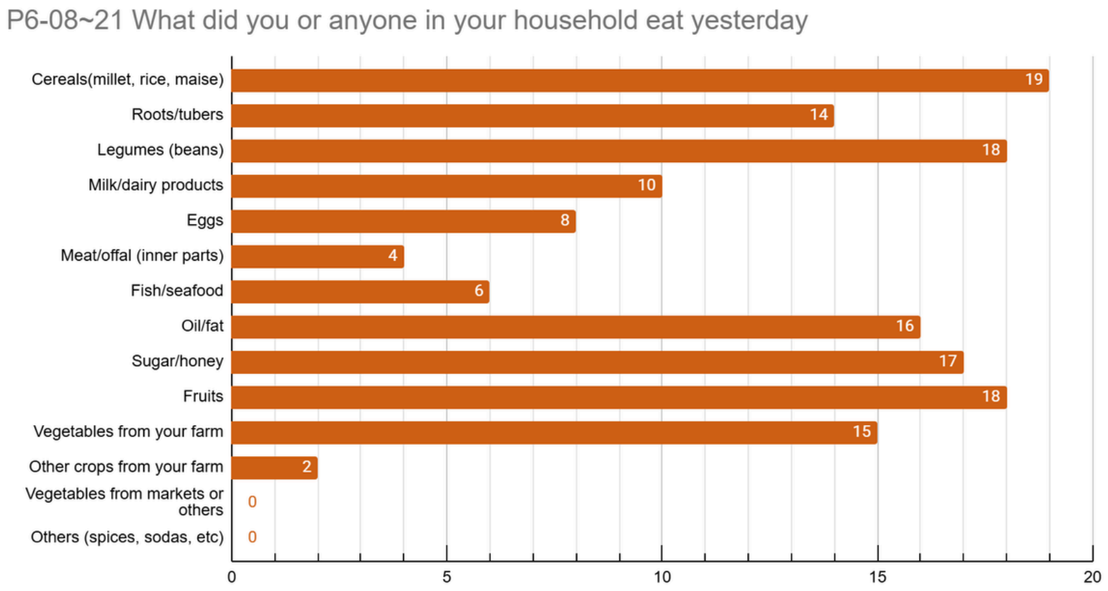
栄養状況について

食事内容については、ベースライン調査時、エンドライン調査時ともに、
穀物、豆類、果物を食べた人の割合が高い結果となりました。一方、肉や魚、卵、乳製品を食べた人の割合は比較的低く、
動物性たんぱく質を含む食品の摂取が限られていることが分かりました。また、自家栽培の野菜を食べた人の割合は
両調査とも75%でしたが、購入した野菜を食べた人の割合は55%から0%に減少しました。
全体として、穀物や豆類、果物などの摂取状況に大きな変化は見られなかった一方、
野菜の入手方法や一部の食品の摂取状況には変化が見られました。

ベースライン



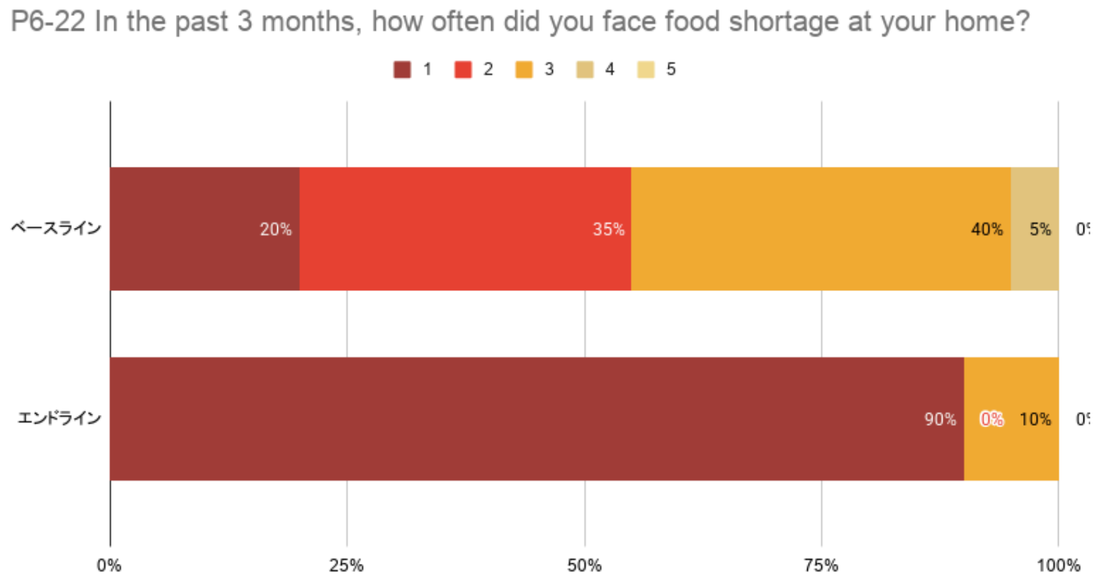
エンドライン

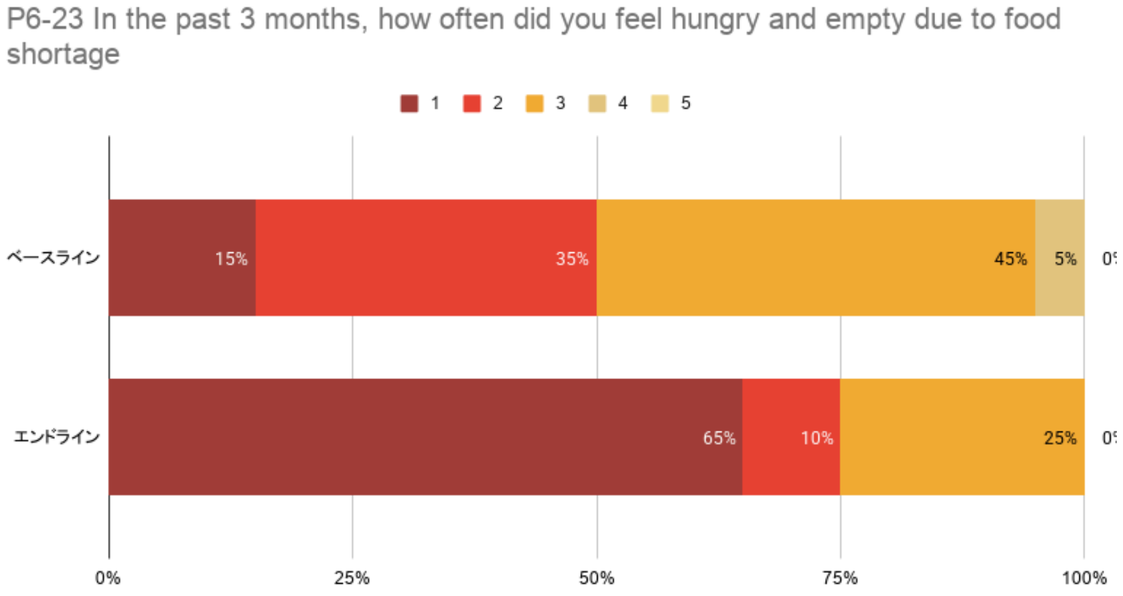


Part 6: 22,23
食事のタイミング

栄養状況について

「過去3か月間に家庭で食料不足に直面した頻度」については、「頻繁にある」と回答した人の割合がベースライン調査時の20%からエンドライン調査時には90%に増加しました。一方、「時々ある」と回答した人の割合は35%から0%に、「2〜3回ある」と回答した人の割合は40%から10%に減少しました。また、「食料不足によって空腹を感じた頻度」については、「頻繁にある」と回答した人の割合が15%から65%に増加しました。一方、「時々ある」と回答した人の割合は35%から10%に、「2〜3回ある」と回答した人の割合は45%から25%に減少しました。
これらの結果から、食料不足や空腹を頻繁に経験する人の割合が大きく増加していることが分かります。



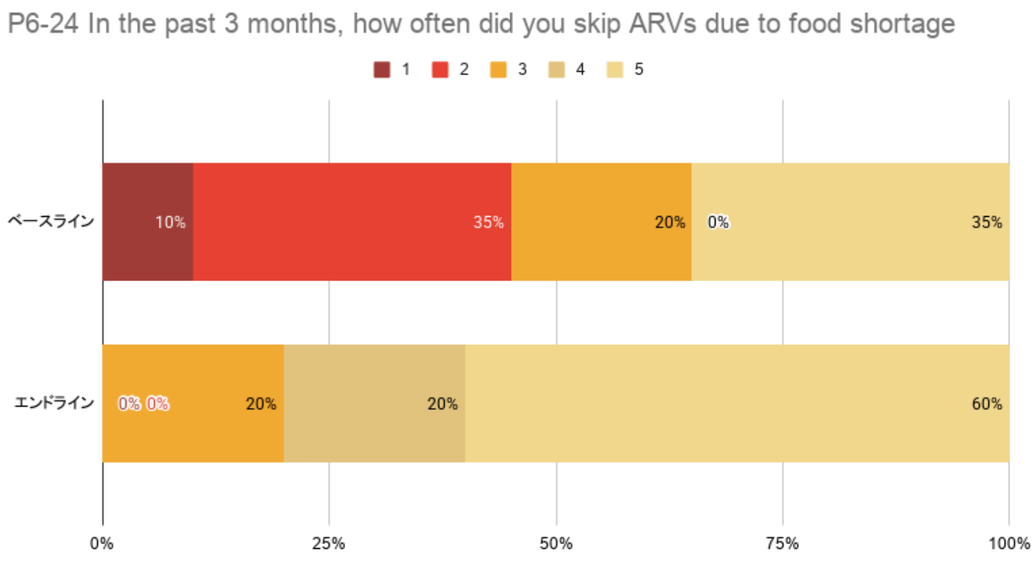


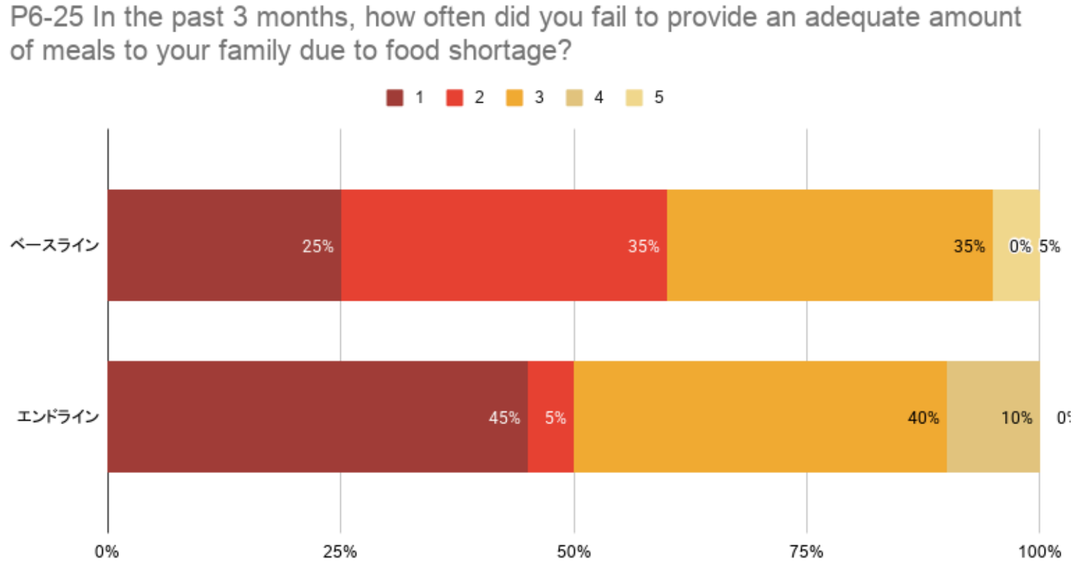
Scale : 1.Frequently　2.Sometimes　3.Twice or thrice　4.Only once　5.Never

Part 6: 24,25
食に関する状況

栄養状況について

「過去3か月間に食料不足のため抗レトロウイルス薬（ARV）を服用しなかった頻度」については、
「一度もない」と回答した人の割合がベースライン調査時の35%からエンドライン調査時には60%に増加しました。
また、「頻繁にある」と回答した人の割合は10%から0%に、「時々ある」と回答した人の割合は35%から0%に減少しており、
食料不足による服薬への影響には改善が見られました。一方、「過去3か月間に食料不足のため家族に
十分な量の食事を用意できなかった頻度」については、「頻繁にある」と回答した人の割合が25%から45%に増加しました。
また、「時々ある」と回答した人の割合は35%から5%に減少し、「2〜3回ある」と回答した人の割合は
35%から40%に増加しました。これらの結果から、食料不足によって服薬できない経験は減少した一方、
家族に十分な食事を用意できない状況は依然として続いており、課題が残っていることが分かりました。



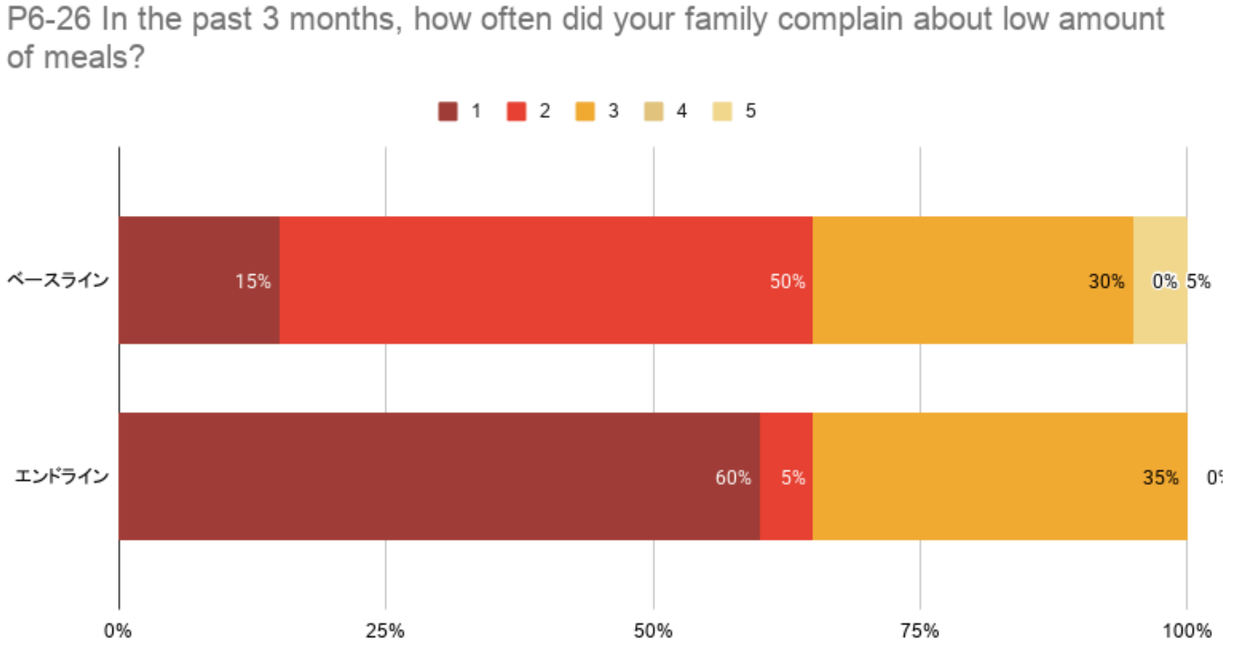


Scale : 1.Frequently　2.Sometimes　3.Twice or thrice　4.Only once　5.Never

Part 6: 26
食に関する状況

栄養状況について

「過去3か月間に食事の量が少ないことについて家族から不満が出た頻度」については、
「頻繁にある」と回答した人の割合がベースライン調査時の15%からエンドライン調査時には60%に増加しました。
一方、「時々ある」と回答した人の割合は50%から5%に減少し、
「2～3回ある」と回答した人の割合は30%から35%に増加しました。
これらの結果から、食事の量に対する不満が頻繁に出る家庭の割合が増加しており、
食事の量に関する課題が深刻化している可能性がうかがえます。



Scale : 1.Frequently　2.Sometimes　3.Twice or thrice　4.Only once　5.Never

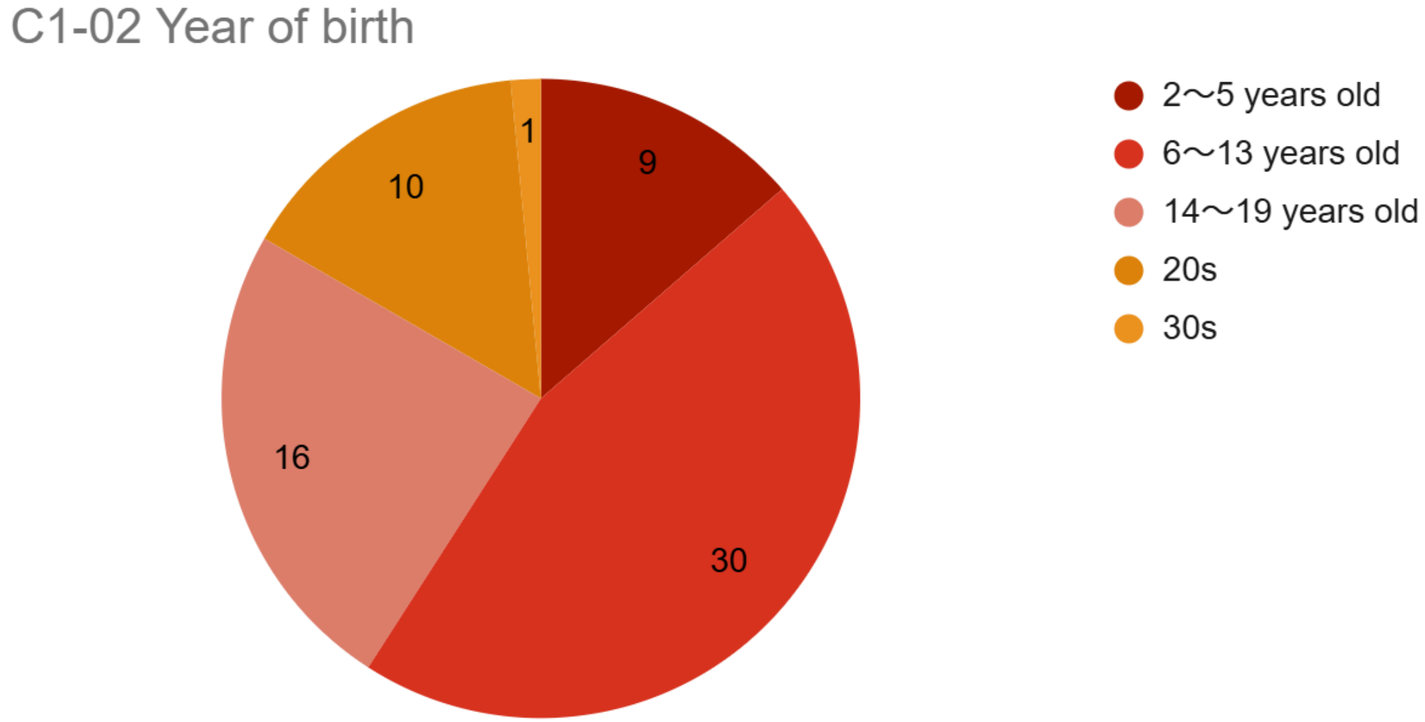
PART 7
調査対象者の子ども
基本情報

Part 7: 02
年齢

調査対象者の子ども　基本情報

調査対象となった子どもは合計66人でした。年齢別では、6〜13歳が全体の約45%と最も多く、
次いで14〜19歳が約24%、2〜5歳が約14%でした。また、20歳以上は全体の約17%を占めていました。

エンドライン

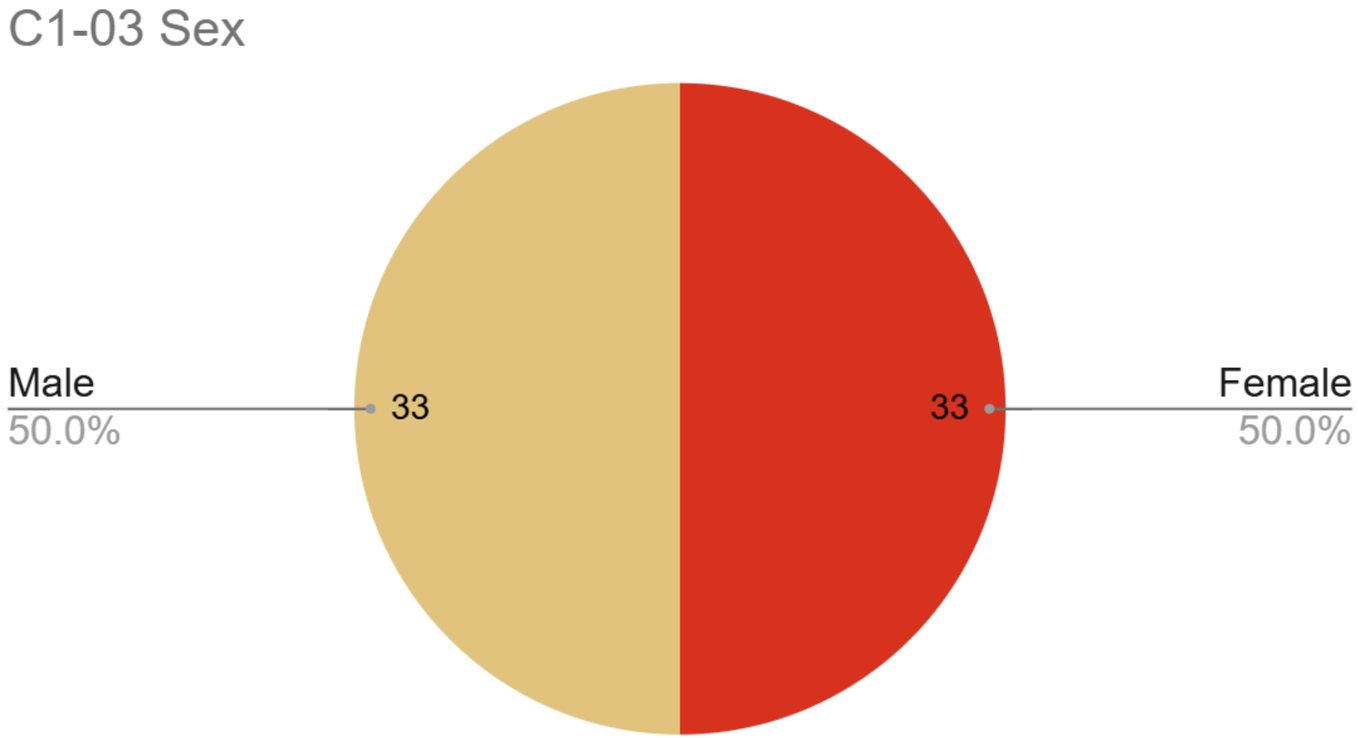


Part 7: 03
性別

調査対象者の子ども　基本情報

エンドライン調査時における調査対象の子どもの性別は、
男児と女児がそれぞれ50%で、同じ割合でした。

エンドライン

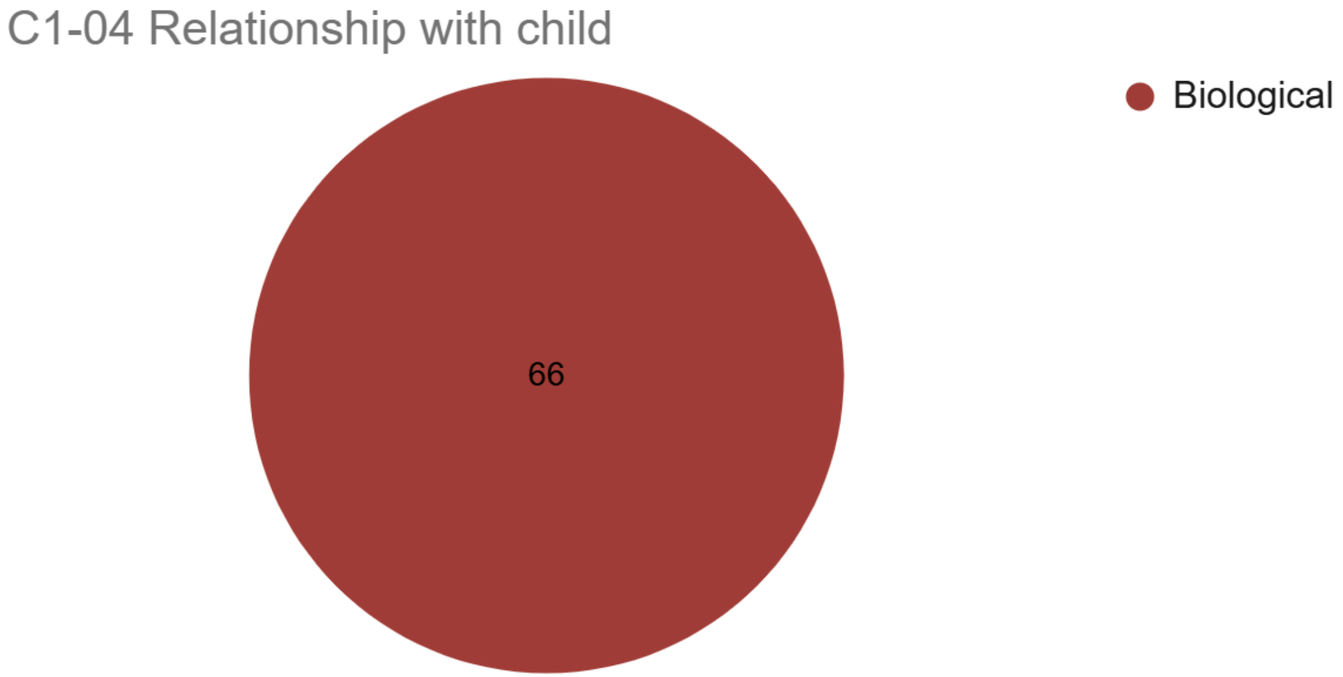


Part 7: 04
親子の関係

調査対象者の子ども　基本情報

保護者と子どもの関係については、ベースライン調査時には、
一時的に養育している子どもや養子が23%を占めていました。
一方、エンドライン調査時には、調査対象となった子どもの100%が
保護者と実の親子関係にありました。

エンドライン

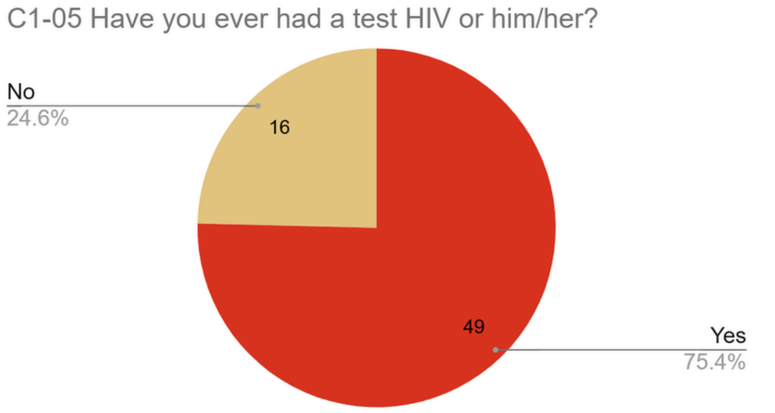


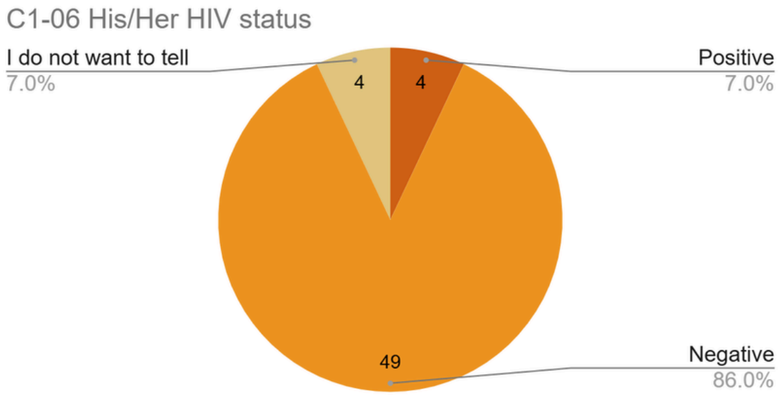
Part 7: 05,06
HIV感染状況

調査対象者の子ども　基本情報

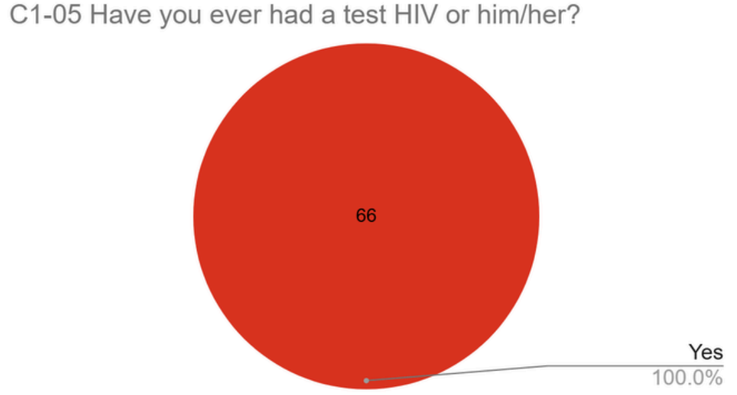
子どものHIV検査の受けたことがあるかについては、ベースライン調査時には75.4%が検査を受けたことがあると回答していましたが、エンドライン調査時には100%となりました。
また、HIV陽性の子どもの割合は、ベースライン調査時の7.0%からエンドライン調査時には10.6%となりました。

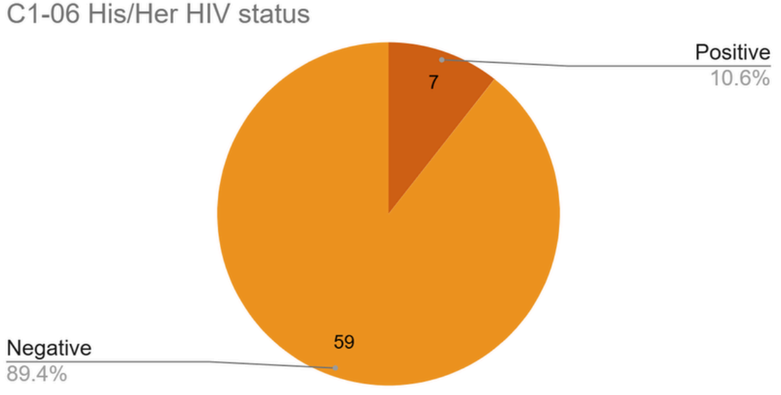
ベースライン





エンドライン





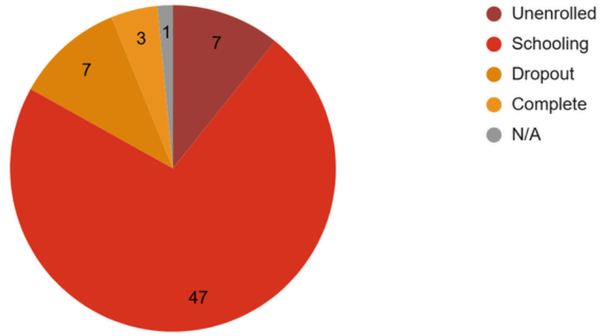
Part 7: 07,08
通学状況

調査対象者の子ども　基本情報

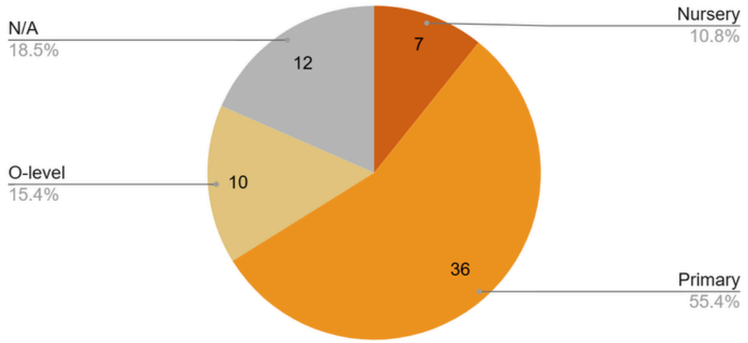
子どもの通学状況については、学校に通っている子どもの割合がベースライン調査時の71.2%から
エンドライン調査時には93.9%に増加しました。
一方、学校に通っていない子どもの割合は10.6%から1.5%に減少しました。
また、所属する教育課程については、ベースライン調査時、エンドライン調査時ともに
初等教育課程が最も多く、それぞれ55.4%、47.0%を占めていました。

ベースライン

C1-07 Is he/she schooling?

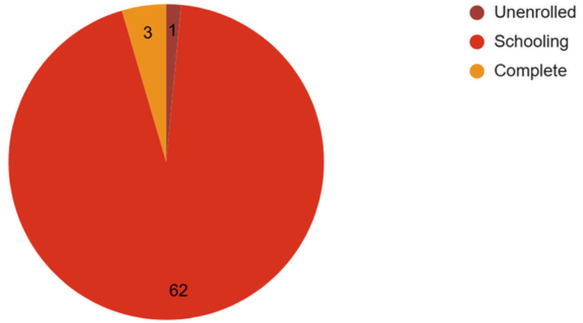


C1-08 Which school does he/she go?

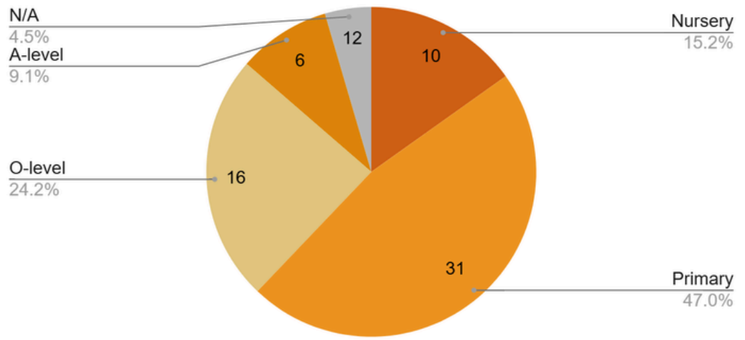


エンドライン

C1-07 Is he/she schooling?



C1-08 Which school does he/she go?



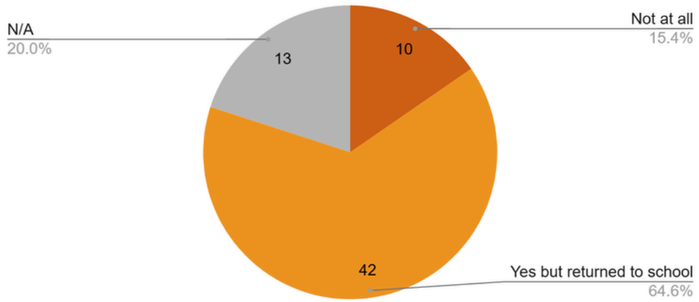
Part 7: 09,10
学費状況

調査対象者の子ども　基本情報

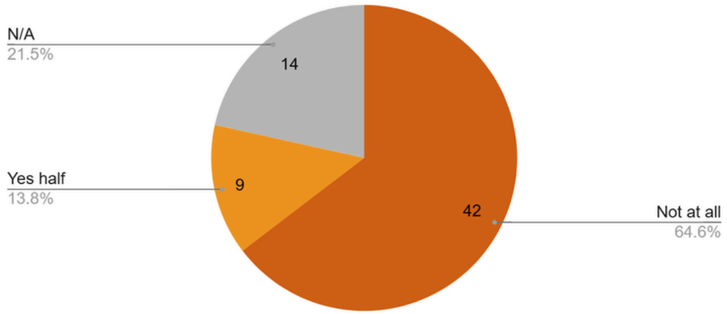
「学費の支払いが遅れたために学校から帰された後、再び学校に戻ることができたか」という
設問については、「学校に戻ることができた」と回答した人の割合が、
ベースライン調査時の約64%からエンドライン調査時には約94%に増加しました。
また、「奨学金や保護者以外の人から学費の支援を受けているか」という設問については、
「支援を受けている」と回答した人の割合が約14%から0%に減少しました。

ベースライン

C1-09 Was he/she sent back from a school due to delay payment of fees this term?

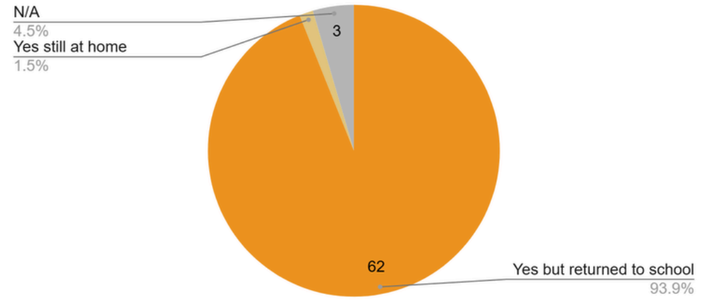


C1-10 Does he/she receive bursary or someone's support other than you?

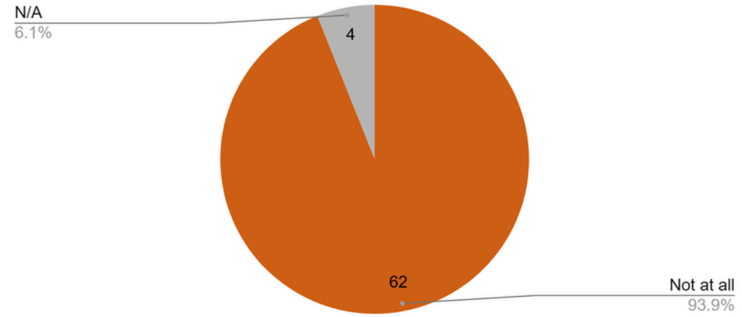


エンドライン

C1-09 Was he/she sent back from a school due to delay payment of fees this term?



C1-10 Does he/she receive bursary or someone's support other than you?

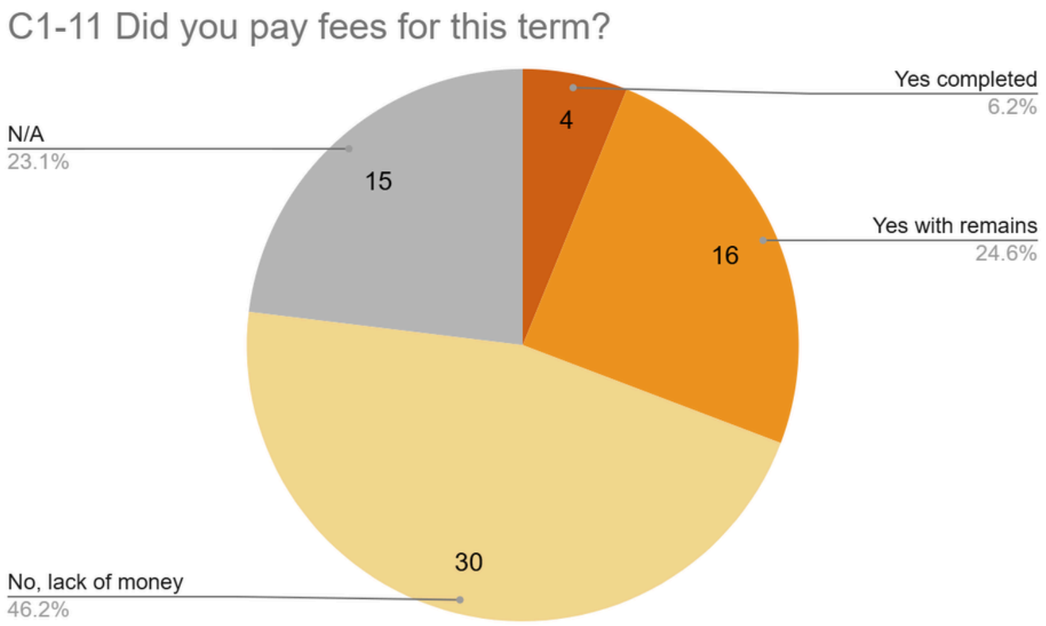


Part 7: 11
学費状況

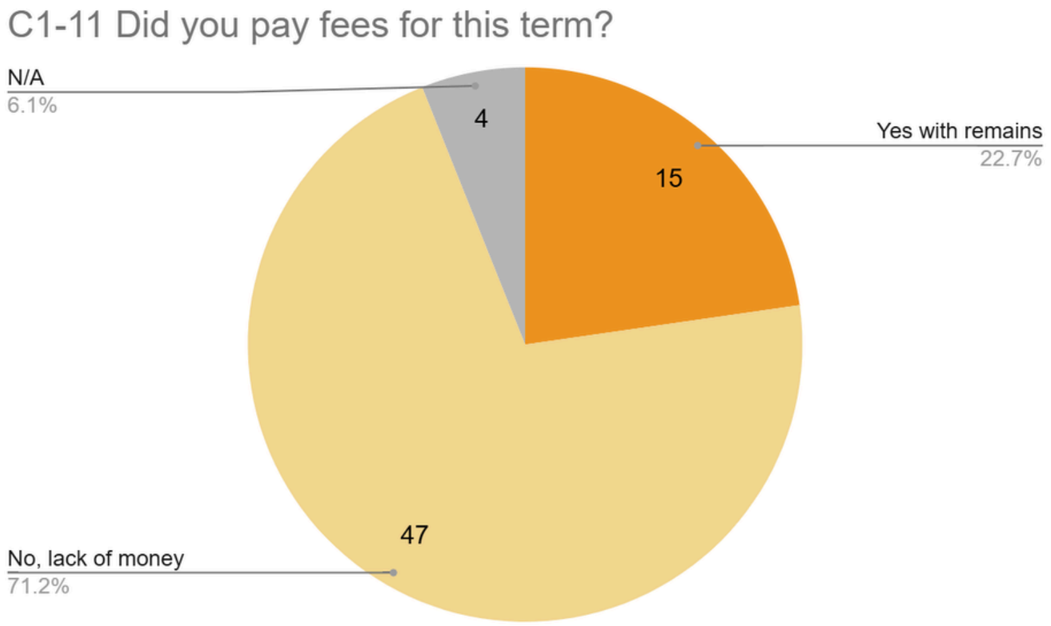
調査対象者の子ども　基本情報

「今学期の学費を支払ったか」という設問については、学費の支払いを完了した人の割合が
ベースライン調査時の6.2%からエンドライン調査時には0%に減少しました。
また、学費の一部を支払ったものの、未払い分が残っている人の割合は24.6%から22.7%に減少しました。
一方、資金不足によって学費を支払えていない人の割合は46.2%から71.2%に増加しました。
これらの結果から、学費の支払いが困難な状況にある子どもの割合が増加していることが分かりました。

ベースライン



エンドライン

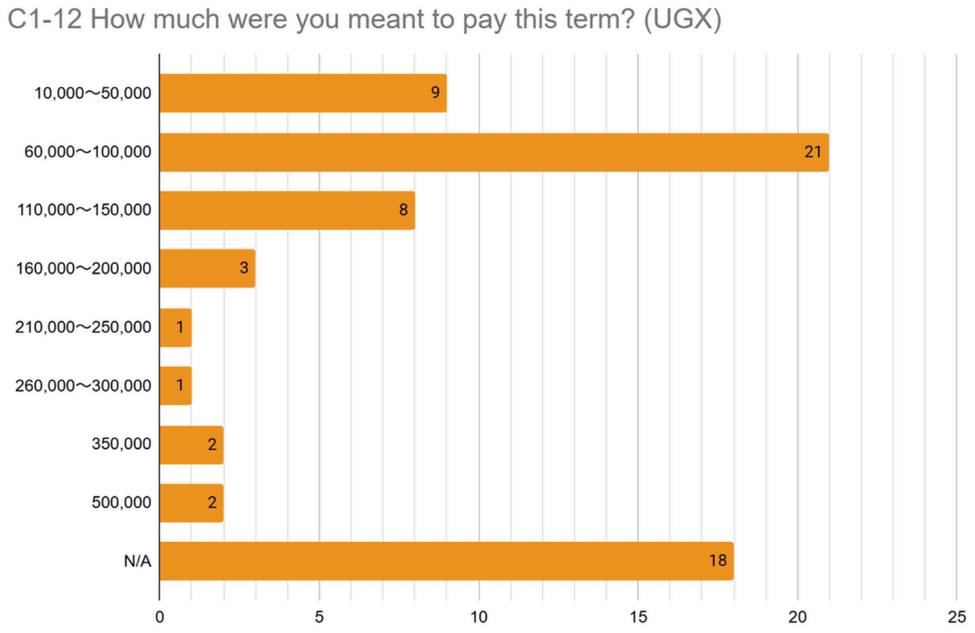


Part 7: 12
学費状況

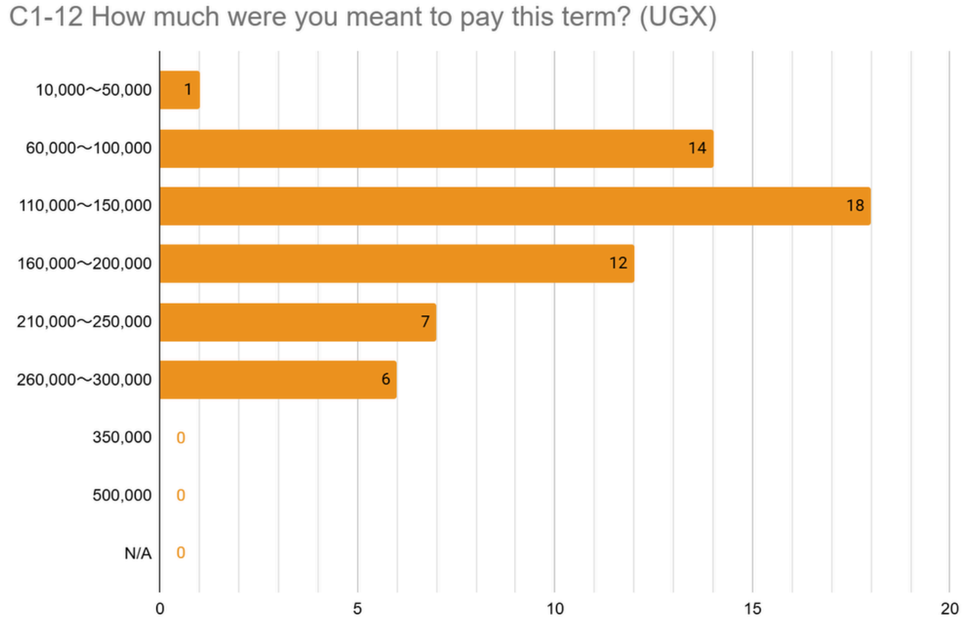
調査対象者の子ども　基本情報

「今学期に支払いが必要な学費」については、ベースライン調査時には60,000～100,000ウガンダ・シリングが最も多かった一方、エンドライン調査時には110,000～150,000ウガンダ・シリングが最も多く、全体の約27%を占めました。また、160,000ウガンダ・シリング以上の学費が必要な人の割合も増加しており、エンドライン調査時には、ベースライン調査時よりも高い金額帯に回答が多く分布していることが分かりました。

ベースライン



エンドライン

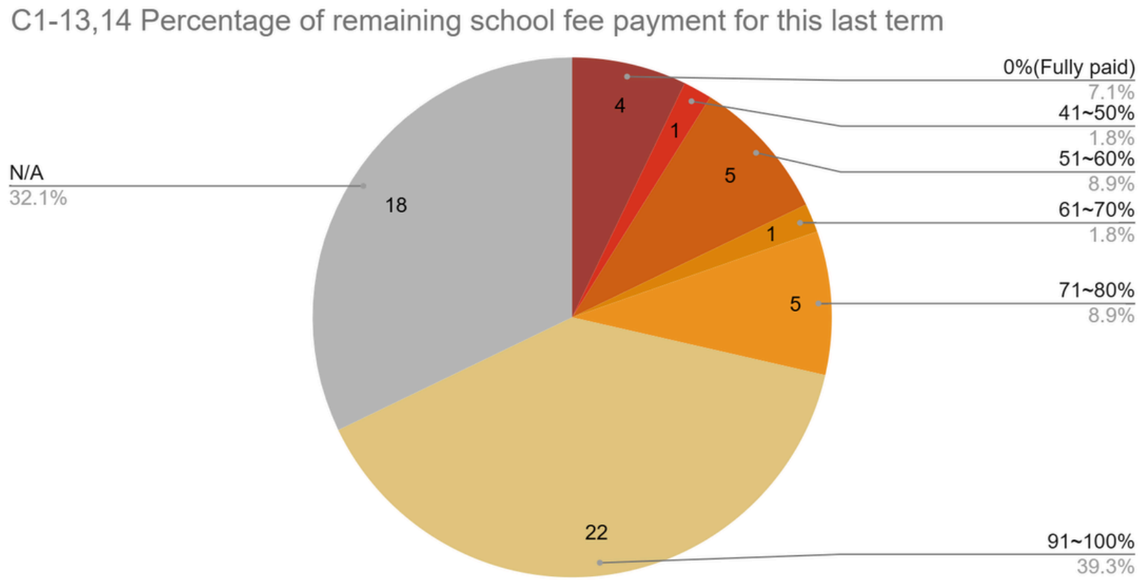


Part 7: 13,14
学費状況

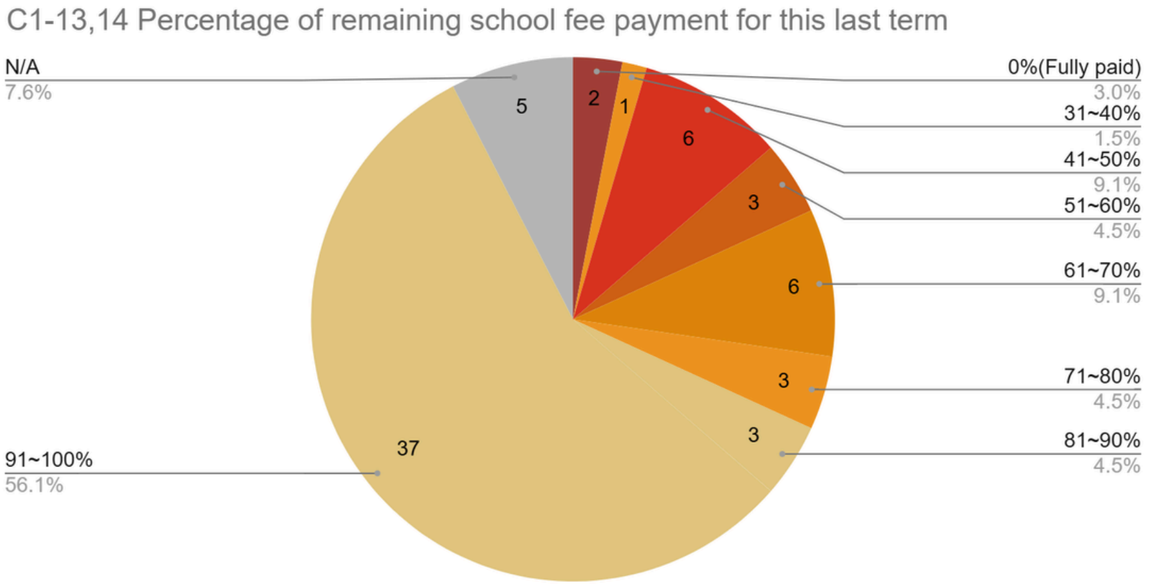
調査対象者の子ども　基本情報

「今学期の学費のうち、未払いとなっている割合」については、「91～100%が未払い」と回答した人の割合が、
ベースライン調査時の39.3%からエンドライン調査時には56.1%に増加しました。
また、学費の半分以上が未払いとなっている人の割合も増加しており、
学費の支払いが困難な状況にある子どもが増えていることがうかがえます。

ベースライン



エンドライン

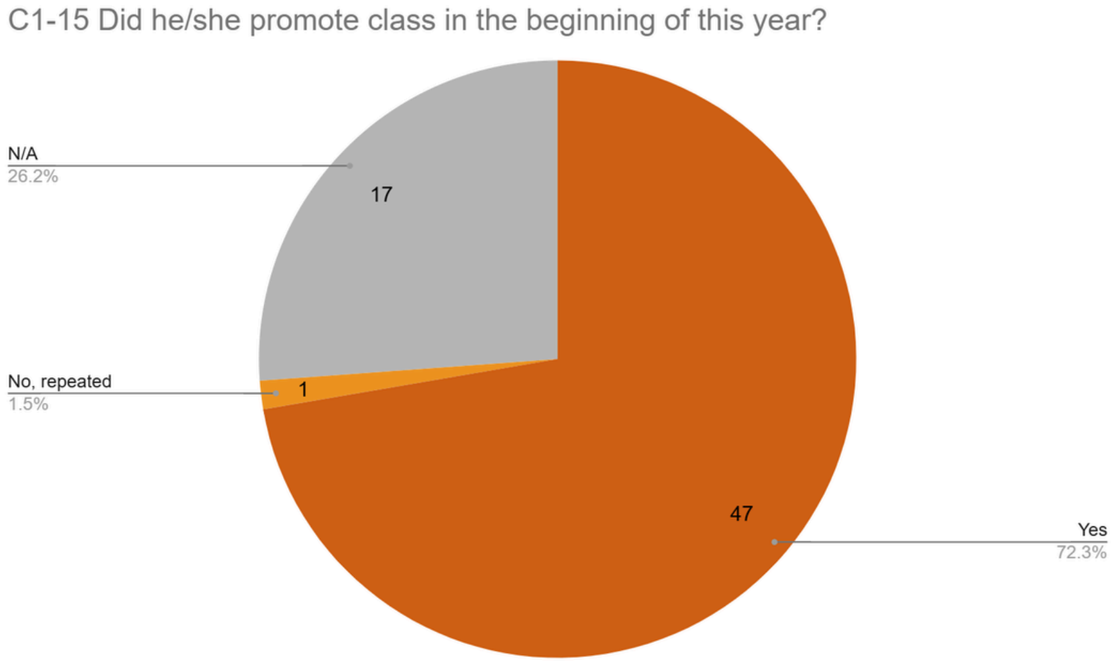


Part 7: 15
進級状況

調査対象者の子ども　基本情報

「年初に進級したか」という設問については、「進級した」と回答した子どもの割合が
ベースライン調査時の72.3%からエンドライン調査時には87.9%に増加しました。
また、「同じ学年を繰り返した」と回答した子どもの割合は1.5%から0%に減少し、
エンドライン調査時には該当する子どもはいませんでした。

ベースライン



エンドライン

